

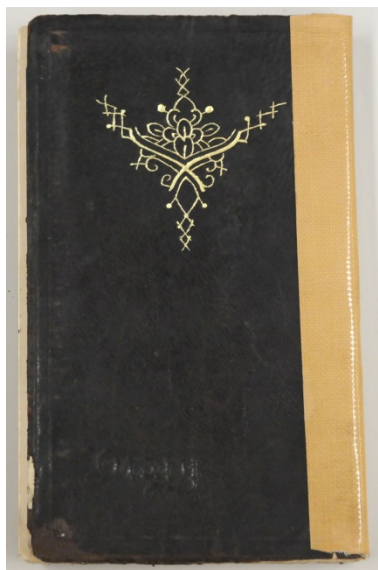


# 伊藤音次郎日記

## 1934(昭和9)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成30)年6月

\* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。



一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼1ページ▲▼ 前年ヨリ繰越事項

軽飛行機完成

▲▼2ページ▲▼

健康第一主義(駆梅ヲ完全ニス)  
大毎タイムスヲ完全ニ得意顧客トスル事  
収入ノ完全ヲ期シ支拂ヲ確實ニスル事

▲▼3ページ▲▼ 1月

大毎機納入  
軽飛行機着手  
野呂機、伊藤酉機完成

▲▼4ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月1日(月)

天気 快晴  
快晴無風 ヨイ正月  
八時起床 御祝ヒロナシ後チタ方迄ニ正(ママ)賀状ノ發送ヲ終ル 全部デ六百七十四通。夜一寸花ヲヤツタダケデ早ク床ニ入ル

▲▼5ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月2日(火)

天気 快晴  
八時半起床 頭ノ工合次第ニヨクナツテ來タ様デアッタ ヤハリ注射ノ結果ヨクナル過程デ此二三日變デアッタラシイ。ドウモマダ眠リ足りナイ様ナガスル  
オソイ朝食後清平帰京ス 中頃迄二月謝ヲ都合シテヤルコトニ話シテ居ク  
本年度工場ノ予定ヲ案シ尚作業順工場員ノ配置ヲ書ク

▲▼6ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月3日(水)

天気 快晴

午後ヨリ南風強ク吹ク

晝頃中浜長太郎來 泊ツテ行ク 永クルンペンヲシテ居ルトヤハリ、人間ガヒクツツニナルモノデ聞キモシナイ川辺ノ悪口ヲ云テ、ツイシヨウノツモリラシイノガオカシカッタ  
夜工場員モ少ナイノデー所ニ夕食ヲ共ニス  
早ク床ニツク

▲▼7ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月4日(木)

天気 快晴

裏日本ハ非常ナ風雪ノ由

今日ノ仕事始メ工場人員少ナイノデ二十五人分ダケ注文シテ居イタガ來客トクラブ員多ク不足ニナツタ

奈良原、児玉、上原、奥山、梅沢、川辺ヲ來賓トス

十二時ヨリ初飛行 上原閣下コードロンニテ同乗飛行 アブロニテ外三名同乗飛行アリ終ツテ宴ニ入ル 之レヨリ先キ鈴木、佐藤、太田ニ本年度ノ方針ニツキ話ス。宴席ニテハ挨拶ダケニトゞメ後奈良原氏ノ挨拶後上原閣下ノ対露対支、対米対英關係ニツキ話シアリ 自分等ノ疑問トシテ居タコトガハッキリシテヨカッタ、ガ少シ話シガ永クナリスギタ 四時頃帰ラレテ後チ安岡、鈴木、黒沢ト宅ニテ二次会 夕食後散会  
サ、明日ヨリイヨ、仕事ダ、、

▲▼8ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月5日(金)

天気 晴

休場者多ク作業ハカドラズアセル

午後明日上原閣下ヨリ贈ラレタ十円ヲ無キモノトシテ徳次ニマントヲ買ツテヤルコトトシ徳次ヲ連レテ上京 松坂屋ニテ買物 七円デ出來タ 僅ニ十分バカリデアッタガ変ニアタ、カイノデ気分悪クナル 徳次モ同様デアッタノデ、ニゲル様ニ出テ地下鉄デ京橋ニ行キ銀坐ヲ歩イテ西日ニナヤマサレ北海タイムス支局ニ西氏ト會見 サル整備ノ件ニツキ懇談 上京ノ都度寄ツテ呉レトノコト 電通ビルニ今日カラ、室ヲ開イタ東京飛行クラブニ寄ル 皆帰ツタアト。一休ミシテ東日ニ羽太氏ト會見。更ニ新橋ニ行キ名簿ヲ買入レ帰宅ツヒデニスキ焼キ鍋ヲ買タクテ肉ガホシクナリ牛肉ヲ買ツテ帰り夕食ヲ皆ト共ニス

池本大坂ヨリ帰ル

▲▼9ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月6日(土)

天気 快晴

風静カニ快晴

今日ハ昨日ヨリ出勤者増加ス 発動機佐藤今日モ出ズ午後安岡ヲ見ニヤル 不在ノ由  
其爲メ一三式発動機作業遅レル

自分午前血液検査ト六〇六注射ノ爲メ船橋行き 午後一三式同乗 席上部カバーノ  
間障ゲキニ金具ヲ作ル 組立ノ方ホゞ完成 女工本日ヨリ二名出 仕事ハカドラズ

▲▼10ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月7日(日)

天気 晴

休日 佐藤來 東日ヨリ來ル筈ナノデ待タセテ居ク 十一時頃須田、土井両君來佐藤  
ニガソリンパイプノ取り方ヲ聞カセテ居ク オイルタンクニ油又キヲ付ケルコトニナル  
晝食ヲ出シテ四人デ共ニス 二時頃帰ル  
本日ヨリ角カーブノ形ヲ作り初メル

▲▼11ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月8日(月)

天気 曇

クラブ入金ナク桂林五十円持参スルトノコトニ待ツ 晝頃來ルコト來タガ近ク百円入レ  
テ受検込ヤラセテ貰ヒタイト云フ様ナ話シテ黒沢ノ話シトハ丸デ違ッテ居タノデコトワ  
ル。爲メ二局へ拂下代金持参出來ズ

軽飛行機圖面ニヨリアール調ベヲナシ形ヲ角ニツクルベク命ズ。スグカハル

工場員大体出タガ高川帰ラズ 横尾同ジク 上仲四日ニ出タキリ其マ來ラズ 女工ヒ  
サ休。畠山旧冬來ノ眼ノ爲メ毎日千葉醫大通ヒニテ欠勤

雪デモ降りソウナ日デ寒カッタ。午前中仕事ヲシタノデアタゝカカッタ

▲▼12ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月9日(火)

天気 晴

昨夜一時過ぎ迄眠レズ朝眼ガサメルノガ七時半 オソカッタ

カジノフォーリーノ宣傳カラ來ラズ 石原君上京シタアトへ來 二時ヨリ三時頃ノ間飛  
行ス 四時過ぎ石原帰リ警視廳許可出テ居ナカッタトノコト 明日諒解ヲ得ニヤルコト  
ニス

軽飛行機リブノ材料予算ヲナシ書キ出シタノヲ角ニ廻ス

沢柳、高川、横尾帰ラズ 池本休ム 仕事ハカドラズ

夕食中鈴木正母來 豚ノ肝ヲ持ッテ來テ呉レタ

夜ラジオ終ッテカラ寢ラレズ 今日オソクナリソウダ 十一時半

▲▼13ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月10日(水)

天気 曇リ

トウ、二時頃迄眠レズ朝八時過ぎテ漸ク起床

沢柳氏夕方帰場

局へノ納金十五円程不足 作業会社呉レズ今日モ持ッテ行ケズ 其内交信社ヨリ高波氏及山崎氏叔父ナル人來 五百円ニ対シ輕飛行機完成迄ハ毎月工場デ出來ル最少限度ダケ入金スルコト 社ノ三百円ニ対シテハ右ノ内ヨリ適當ニ分配シテ貰フコト 尚グライダー處分ヲ急グコトニテ話シ取極メル。綱ノ代十九円九十五錢支拂ヒ、局ノ納金不可能トナル。鈴木伊午前中私用休 午後二時頃來 スグ通信省ノ正憲ノ金聞キ合セニユーム板取リト職工學校ヘヤル 夜帰ル 正憲分マダ数日カヽルラシ サンソビン百五十錢値上リシテ今日引取ラズ又一日遅延ス シヤクニサワルコトノマヽ

▲▼14ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月11日(木)

天気 晴

作業会社午後金十五円持參 明日局へ納金出來ルノデ井上氏ニ電話ヲカケテ居ク

玉宮氏ニ檢十六日頼ンデ居ク

鈴木午前中休ミ午後出ル 退役後頼ンデ居イタ就職ノ件デ習志野聯隊へ行ツタガコトワツテ來タトノコトデアッタ

上仲ノ昨年度ノ勤務振リヲ調査ス 一等多ク出タ月デ八割一分 最少二割三分 平均五割五分ノ出勤率 シカモ朝オソク午後早引ケデアル 本年ニナツテマダ半日出タダケ。如何ニモ我マン出來ナイノデ止メサセル決意ヲナス

今村本日帰場

▲▼15ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月12日(金)

天気 晴

鈴木局へ納金ト正憲ノ金受領買物沢野商店昨年度入金シナカッタコトワリニ上京

クラブ齋藤國松本日午後七時ノ汽車ニテ帰國ス

今村本日午後ヨリ出場

長屋ノ端ニ這入ツタ女本日引越シヲナス ■家先月分半分シカ入レズ自轉車ヲ預ケテ

帰ル 一ヶ月ノ期限

▲▼16ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月13日(土)

天気晴

風気味デ気分ガ悪ルカッタガ鈴木伊今日休ムトノコトヲ安岡ガ事傳ツテ來タノデ通信省へ正憲ノ金取リニ上京 局へモ挨拶シツヒデニ富田氏ニ井ノ件本人ノ幸福ニナルコトナク工場ノ方ハ少々ノ不便ハシノブカラ遠慮ナク止メテモイイト話シテ居ク  
一三式ノ買物ヲシテ大急ギデ二時半帰ル スグ床ニ這入りタカッタガ今日出懸ケニ云ヒツケタコトガサツパリヤツテナカッタノデ、ソレソレヤラセル 其爲メ角夜十二時迄夜業ス

▲▼17ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月14日(日)

天気晴

今日発動機試運転予定ノ處間ニ合ワズ 羽田ヨリ西田來 午後羽太氏來  
エキゾーストパイプ作り直スコトトナル ラジエター漏リ修理ス 発動機ケースヨリ水漏リ明日西田パッキン持参スル由

流山ノ梅沢氏來 明鯉ヲ持参スルカラ一杯ヤロウトノコト 承諾ス  
作業後五時頃床ニ入り薬ヲノム ウント汗ヲ出シタラ大變氣持チガヨクナッタ  
信太郎奈良原氏へ五円持参サセ三時頃出タノ二十時過ギルモ帰ラズ 心配シテ飯島ニ見ニヤル 途中會ツテ帰ル 市川ノ小學校時代ノ友人ノ宅デ遊ンデ居タトノコト  
仁三郎ガヒキツケタ様ニチツタトエミ子ガ青クナツテ知ラセニ來タノデ行ツテ見ル 青イ顔シテ眼ガウスカッタ シバラクスト、ハッキリシテ來タノデ自分達ノ方へ連レテ來テ寢カセル 後チ小便ニ起コスト又變ナ風ヲシタノデ長サンヲ來テ貰フ 何ンデモナク寢ボケタモノダトノコト 安心ハシタガ馬鹿々々シイ心配シタモノダ

▲▼18ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月15日(月)

天気晴

午前中梅沢氏來ラズ三時過ぎ來  
四時半作業後食事ヲ初メル 一尺二三寸ノ鯉三匹 洗ヒト鯉コクニス 七時過ぎ松崎氏ト梅沢氏帰ル  
会食安岡、黒沢、鈴木、沢柳以上

▲▼19ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月16日(火)

天気晴

西田ニ電話スル 明日行クトノコト

発動機廻スニ到ラズ試験日決定出來ズ局ノ方其ヨシコトワル

◆▼20ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月17日(水)

天気 晴

今日ハ終日一三式同乗席ノ内張りヲナス

西田來場 今夜泊ルコトトナル

夕食後佐藤同道千葉ニ行ク 内張用布一米半不足ス 其爲メ張り切レズ。調べテ見ルト四米ノハタシカニ買ツテアルノニ約ニヤール半ヨリナシ 4キロ貫ニノ玉モナクナツタシ 実ニ不思議ニ堪エナイガドウモ工場内ノモノカ又ハ工場内ノ様子ヲ知ルモノノヤリ方トシカ思エナイ

◆▼21ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月18日(木)

天気 晴

朝船橋ノ長サンヘスヘルマチンノ注射ニ行ク 今日ハ洗面ノ爲(ママ)キ六〇六ト同ジ色ヲシタ、鼻汗ガ出タノデ驚イタガ別ニ何ノコトモナカッタ 此頃六〇六ノニオヒガ特ニキツク、ムネノ悪イノハ四号ト云フツヨイノヲヤツテ居ルトノコトデアッタ

鈴木上京 内張用布買ヒニヤル

検査査(ママ)南波石田氏來 羽太氏モ來ル 東日機午後漸ク発廻シタガ不調ニテ野呂十年式内部ヲ受ケル 下翼張替トナル

◆▼22ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月19日(金)

天気 曇雨

西田八時頃來場 所員ノ方ガ返ツテ遅イ位デアッタ 午前中内張り残りヲナス 午後発動機ヲ廻シテ居タ。午後二時上京 四時ソラニテ平松氏ト會見 一三式代金四月頃ニナルコト 一〇式整備二月カラカ、ルコト 今月末カ二月早々三分ノ一 内部検査後三分ノ一 完成三分ノ一受領ノコト境氏へ通ジテ貰フ

上原中将四時十五分來 差支出來出席出來兼ネルトノコトデアッタ 五時迄ニ安岡奈良原、安岡、黒沢、衣笠、高崎、児玉ノ順序ニテ來 會食 一同會費ヲ支拂 十一円八十錢。雑談ノ内中空中タクシーノ計畫考慮ノコトヲ希望ス 尚本年俱樂部創立満五年ニツキ年末安岡ニ表彰方ヲ依頼予約ス 八時四十分帰宅

◆▼23ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月20日(土)

天気 晴

満州國帝政ヲ發表

米國四、五割平價切り下ゲ發表

東日機試運轉 漸クヨクナル 西田羽太氏來 羽太氏ヨリ金ヲ月末三十一日カ一日ニシテ吳レトノコト ヲチラカラ先ギニ貰フコトヲ頼マウト思ツタノニアベコベデ困ル

▲▼24ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月21日(日)

天気 晴

晴タレドモ西風強シ 昨夜二時頃久々田ニ火災アリ六戸焼ク

八時起床 十時半頃ヨリクラブ茶話会 奈良原氏、高崎少將來出席 今日ハ奈良原氏一人御話シアリ 談笑ノ中ニ正午散会。晝食後二時頃二人帰ヘラル 後チラジオヲ聞イテ少シ眠ル

夕食中清平來。月謝ノ件。徴兵検査津田沼デ受ケルコトノ相談

▲▼25ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月22日(月)

天気 晴

今日モ西風強シ 練習休

夕方沢柳氏帰場

本日ヨリ大工來場 プロペラ板削リヲヤラセル

今日モ收入ナク閉口

▲▼26ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月23日(火)

天気 晴

千葉ノ伊藤鉄工所ヘ輕飛行機ノ脚金具ヲ注文ス

▲▼27ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月24日(水)

天気 晴

日本飛行クラブノ拂下ニ関スル陳情アリ 鈴木ヲ代理ニ出張サセル

竹崎ヘ寄ラセル 不在デ奈良原氏ガ居ラレタトノコト

廿六日午前中二十円都合タノムトノ手紙ヲ事ツカツテ帰ル

今夜近所カラ二十円都合シ信太郎ノ月謝等ニアテル 明日ノ拂下引取りノニモ



▲▼28ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月25日(木)

天気晴

夕方風稍ヤ静マル

午前電話アリ午後東京モータークラブ会員二名來場 グライダーヲ水上デポートデ引キタイトノコト 二週間以内デ見積リヲ出スコトトス 山崎氏ニ電話スル  
朝六六ノ注射ニ行ク 今度ノ注射ハ二三日気分ガ悪ク前ノ十本位ヤツタ時ノ様ナ氣持ガスルノデ聞イテ見ルト、ツヨイノヲヤツテ居ルノダトノコトデアッタ 八日ニ取ツタ血ノ成績表ガ出來テ居タ ヤハリ十号ト變リナカッタ ワッセルマンノ四〇倍デハ一ニナツテ居タ 幾分ヘツタモノラシイ  
霞ヶ浦拂下引取り池本ヲヤル

▲▼29ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月26日(金)

天気晴

鈴木ヲ上京サセル 伊藤氏約手式百円一枚ヲ受取ル クラブノ練習費呉レズ。境氏明日電話 ニテ聞クコトニナル。竹崎君駄目 従ツテ買物何ニモ出來ズ夕方帰ル  
奈良原氏午前中二十円入用トノコトニクラブヨリ持參ス 爲メニ工場一円モナク閉口  
沢柳氏夕方上京  
山崎氏へ手紙ニテフロートノ件依頼

▲▼30ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月27日(土)

天気晴

鈴木ニ伊藤氏ノ手形ヲ金三替ルベク船橋ノ石井ト中台ヘヤツタガツヒニ出來ナカッタ。東日ハ大坂へ交渉シテ明日四時ニ金貰ヒニ行クコトニモナツタ  
三谷勝龜來 イクラカ持ツテ來タト思ツタラ二三日待ツテ呉レトノコト  
今日モ無収入デ買物一切出來ズ  
信太郎ガ写真ノ金五円 徳次ガ校友会費一円五十錢入ルノガ出來ズ學校ヲ休ム  
藤原ヘフロット發送ニ関スル件手紙出ス。福知氏へ藤原ノ件申シ送ル

▲▼31ページ▲▼ 昭和9(1934)年1月28日(日)

天気晴

第四日曜日ニツキ作業ヲナス 鈴木休ム

西田來 発動機試運轉良

三時過ギヨリ上京 東日ニ行キ百五十円受取ル スグ帰宅ス

◆▼32ページ◆▼ 昭和9(1934)年1月29日(月)

天気 晴

安岡黒沢外二名貨物自動車一台所沢へ出張 アンリオ拂下へ引取りノ爲メ  
局出張 明日ノ大毎機検査ノ件明後日トナル 両課長ニ藤原免状下附ニツキ他ノ二  
名ト共ニ皇太子殿下御降誕ノ特赦トシテ最(ママ)非實行方ヲ願ヒ居ク 後千川崎へコ  
ードロンノ件ニテ田中氏訪問 修理証書ヲ作ツテ同時ニ前同様竹崎氏宛引續キ発動機  
借入レ方願書出スコトトナリ、局ニ引返シ玉宮氏ニ諒解ヲ得ツヒデニ山田森両氏ニ藤原  
ノ件依頼シ買物ヲシテ七時帰宅

◆▼33ページ◆▼ 昭和9(1934)年1月30日(火)

天気 曇リ

伊藤西氏国粹ノ森本氏同道來場 整備中ノアブロ見テ帰ル アンザニー不良分森下氏  
へ贈ルニツキ明日金取りニ(三十円)來テ呉レトノコト ツヒデニ手形母ノ名議デ銀行渡  
リニ書キ替エルカラトノコト

◆▼34ページ◆▼ 昭和9(1934)年1月31日(水)

天気 晴

東日一三式検査 南波石田氏來場 羽太氏飛行 午後二時終ル 岡氏十年式ニテ離  
着陸練習ス 西田來場 野呂十年式翼内部発クランクケース交換分受検良 伊藤西  
アブロ機発共内部検査終了

木下豊吉君菊池氏同道十年式修理ノ件 幸ヒ航空官ガ居ラレタノデ見テ貰フ 上翼  
全部張替ヲ要スル由 ソレニヨリ見積書提出 壺千百余円トナル 兩人相談ノ上張替  
ヲ要セザル上翼アレバ讓ツテホシイトノコト 飯沼君ノ分張替ヲ要スルノガアルノダガ尚  
點檢サセル 一回位モツダロウトノコト 之レト交換シテ貰フコトトス。夜三田浜ニテ契  
約ス

鈴木伊藤氏へヤツタガ手形ダケ書替テ呉レタガ、発動機ノ方金クレズ

◆▼35ページ◆▼ 2月

軽飛速進

▲▼36ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月1日(木)

天気 晴

本日ヨリ直チニ菊池氏十年式ニ着手ス  
軽。ペラハギ昨日行フ

▲▼37ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月2日(金)

天気 晴曇雨

今日カラクラブノアンリオニ着手 自分自カラヤル ソレデナイト三月ノ試験ニ間ニ合  
ワナイカラ  
西田早クカラ來タガ雨が降り出シタノデ羽太氏來ナイコトニナリ中止ス  
羽太氏ニ電話シテ明日ノコトヲタノム  
夜雨が雪ニナル

▲▼38ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月3日(土)

天気 雪後晴

朝三四寸積ツテ居タ 晝過ギ迄降ル 後チ晴レル  
午前中工場 午後二時前ノ自動車ニテ上京 日日ニ行ク 羽太氏立川へ行ツタトノコト  
其内ニ四時ニナツタノデ電通ビルノクラブニ行ク 清平ガ來テ居タ 二十分程デ山崎氏  
來 グライダーフロートノ圖面ヲ貰ヒニ三質問シテ五時分レル 境氏ニ電話シテ六時  
頃平松氏宅ニ行クトニス 再ビ日日ニ行ツタガ帰ツテ居ラズ西田氏大坂へ事傳シテ清  
平ト夕食ヲ共ニシ平松氏ニ行ク 境氏ト二人居テ機體整備ハ賣ルコトヲ條件トシテ父ハ  
金ヲ出シテ呉レルトノコトニ其爲メニ整備シテ居イタ方ガ賣リヨイコト。保管料ハ分解  
シテ居ケバ取ラナイコトトシテ十日迄ニ返事シテ貰フコトトス 之レデ又給料ノ支拂ニ  
支障ヲ來シタ譯デ閉口

▲▼39ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月4日(日)

天気 晴

終日在所 信太郎受検用写真寫シニ佐倉へ行ク 縣君ヤ青木君ニ受験ノ模様ヲ聞キ專  
問(ママ)部ト予科トドチラガヨイカ聞イテ見ル 入學ハ予科ノ方ガヤサシイトノコト。  
終日讀書

東日へニ度電話シテ、明日一三取りニ來ル由

▲▼40ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月5日(月)

天気 晴

西田、羽太氏來 正午過ぎ自分同乗ニテ出發 羽田ニ行ク 二十分ニテ着 上昇中ハカ  
ナリ震動ガアル

日本飛行學校、輸送会社ヲ見學シタ方ニナル 羽太氏ト共ニ帰京 明日殘金貰フコト  
ニ極メ岡田氏ニ電話デ羽布 晁日取りニ行クコトヲ聞ク 七日ニツクトノコトデ  
アッタ 手形ノコトヲ話シタガナルベクナラ現金ニシテ呉レトノコトデソノコトトス

▲▼41ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月7日(水)

天気 晴

八時過ギテモ乗合來ズ 止ムナク、タクシーヲ呼ビ、カスミヶ浦ニ行ク 金町ニテ宗里氏  
ト會フ

拂下下見 午前發動機其他ヲ見午後機体ノ方ハ皆ニ頼ンデ自分ハ荒川沖ニ、タイムスノ  
機体ヲ見ニ行ク 程度不良。根岸ノ十年式處分ストノコト ビツカースポンツイテ居  
タノデ幾等デ處分スルカ返事スル様大崎君ニ置手紙シテ帰ル 二時十五分發ニテ帰ル  
車中飯沼ノ山田君ニ伊藤氏ノ手形ヲ渡シ一〇年式ラジエター戰闘機用一個代二十円  
ヲ差引八十円現金ニテツリヲ貰フコトヲ話シテ明日飛行館デ返事ヲ貰フコトヲタノム  
東日ニ行キ殘金ヲ貰フ 百九十八円六十錢也 銀座ヲ見テ帰ル

▲▼42ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月7日(水)

天気 晴

鈴木横須賀ヘヤル

昨日ノ金デ電話料保俵料古イ分佐野九十円ヲ支拂ヒ今村上京二十円渡  
正午ヨリ上京 ツヒデニ中台へ十五日頃百円ヤルコトヲ約束ス。局ニ行キ森サンニ免状  
再下附者ニ関スル件 出來レバ十一日ニ發表ニナル様ニ話シテ見タガ山田氏目下大坂ニ  
出張中 十日頃デナイト帰ラヌトノコト 其上ノ協議ニナルダロウ

御法川氏訪問 グライダー見積書提出

飛行館ソラニ行ク ダレモ來ズ 奈良原、田中、鈴木、相羽、加藤、デ永ク待チ横須賀  
ヘ行ツタ人達ハ五時半頃帰ル 夕食 井上氏ヨリ拂下ニ関スル話シアリ

奨励金ノ願書草稿ヲ作ル 尚明日ノ拂下(所沢)ニ対スル対策ヲ打合セテ散會

▲▼43ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月8日(木)

天気晴

鈴木所沢拂下入札ニ出張 夜食事中ニ電話アリ 配當ノ決(ママ)果百五十余円明日午前中ニ納入ヲ要ストノコト 飯沼へ渡スコトニシテ明後日現金ヲ持ッテ引取りニ行ク事交渉サセル  
夜中ニ眼ヲサマシテ、マツイ事ヲシタト思ツタラ又目ガサメテ眠レナカッタ

▲▼44ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月9日(金)

天気晴

鈴木伊ヨリ昨日ノ様子聞ク 飯沼ハツキリセズトノコト 今日午前中ニ拂込セネバ外人ノ引取り迄遅クラレテハ申訳ケナイノデ梶原ガ欲シガツテ居タト云フノデ梶原へ電話シテ引取ラセルコトトス。然シ時間ガ少シオンカッタガ、ヤツテ呉レルトノコトデアッタ 菊池氏午後二時頃來ルトノコトニ上京ノ予定ヲ中止シテ待ツタガツヒニ來ラズ

▲▼45ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月10日(土)

天気晴

鈴木菊アンリオペラ最(ママ)非讓ツテホシイトノコトニ飯沼宛名刺ニ書イテ持タセテヤル 全部飯沼ガ引取ルナラ、ソレデモヨイガ梶原ニ一譲ツテヤル様ニモ書キ添エテヤル 菊池、梅原來タガ金持ッテ來ズ明後日トナル 境君ヨリ電話アリ 修理確定シタカラ會ヒタイトノコト 明後日晝前行クコトヲ約ス 局検査打合せノ爲メニモ上京セネバナラナイノデ

沢柳氏午後帰場

明日休ムコトトス 但女工二人ダケタンクトワイヤー塗りニ來サセルコトトス

▲▼46ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月11日(日)

天気晴

朝鈴木菊來 昨日飯沼來ラズ 代理ノモノデアッタノデ話マトマラズ 兎三角飯沼ガ非常ニ怒ツテ居ル 品モノモ伊藤ノ方カラ挨拶ノアル迄ホツテ居クトノコトデアッタ由。金ガアレバ今日モ行ッテ、タ、キツケテヤルノニ。明日鈴木二百円ダケ立替ルトノコト 一ツ行ッテ話シガ分ラナケレバ昔ノコトカラ云ツテ聞カセテヤラネバナラナイ。大正十年頃貸シタ借用証ナド用意ス。何ンデモ手形デ融通シタコトマデ、ニ云ヒチラシテ居ルトノコトデアッタ 今日ハ終日其コトノミ頭ニ浮ンデ仕方ガナカッタ

▲▼47ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月12日(月)

天気 晴

局平松菊池会见ノ要アリタレドモ飯沼(モ最(ママ))非行カネバナラス所沢迄(ハ)行ケナイ  
ノ(デ)安岡ヲ同道ス 鈴木二百五十円貸セ(バ)全部ウマク行クノ(ダ)ガ拂下代ノ(百六十)円  
ダケニシテ(呉)レトノ(コト)。コイツモ(ド)コ迄モヌケ目ノ(ナイ)奴(ダ)デ 市ヶ谷カラ(安岡)ニ(菊池)  
氏(ヘ)電話ヲ(カ)ケ(サ)セ(タ)ガ(ダ)メ 自分(ハ)境平松君ト(会见) 金(六十五)日(ニ)受取ル(コト)ニ(ナル)  
考慮ノ(上)安岡ヲ(津田)沼(ニ)返ス 飯沼(ニ)行ク 不在トノ(コト) 山田(ニ)會フ ヨク(ジ)ユン(ハ)、  
ト(今)迄(カラ)ノ(コト)ヲ(解)キ(聞)セ(八)十(円)ノ(手)形(ノ)金(ヲ)返(シ)拂(下)品(中)イ(ス)パ(ノ)ト(アン)リ(オ)ペ(ラ)  
ダ(ケ)引(取)ル(コト)ト(シ)金(ヲ)拂(フ) 山田(八)十(円)ハ(最(ママ))非(持)ツ(テ)帰(ツ)テ(呉)レトノ(コト)デア(ッ)  
タ(ガ)無(理)ニ(居)イ(テ)來(ル)

局ニ(ヨ)ル 検査(今)週(中)ハ(ト)テ(モ)行(ケ)ヌ 來週(月)曜(日)トノ(コト)

菊池(氏)來 話(シ)タ(ガ)兎(ニ)角(出)ヨウ(ト)テ(船)橋(行)ク(ト)云(フ)ノ(デ)電(車)ニ(乘)ル 車(中)金(ヲ)又(明)  
日(ノ)晝(ニ)シ(テ)呉(レ)トノ(コト)ニ(帰)ル ヤレ(ハ)、今日(モ)又(ダ)メ

◆◆48ページ◆◆ 昭和9(1934)年2月13日(火)

天気 晴曇リ

九時(半)ノ(自)動(車)ニ(テ)木(下)宅(ニ)行(ク) 菊池(氏)來(ル)トノ(コト)ニ(待)ツ 十二時(近)ク(ナ)ツ(タ)ガ(來)  
ラ(ズ)自(分)ダ(ケ)上(京) 両(国)ヨ(リ)宿(ニ)電(話)ス(ル) マ(ダ)居(タ)ノ(デ)局(ニ)テ(二)時(頃)會(フ)コ(ト)ニ(シ)テ(木)  
下(ヘ)ス(グ)來(ル)様(打)電(ス)

局、課長(會議)ノ(爲)メ(三)時(頃)迄(待)ツ 菊池(氏)來 木(下)來(ラ)ズ 菊池(氏)宿(ヘ)見(ニ)行(ク) 課  
長(ニ)會(フ)タ(ガ)全(然)許(可)ス(ル)方(針)ニ(ア)ラ(ズ)止(メ)サ(セ)テ(呉)レトノ(コト)デア(ッ) 理(由)ハ(拂)下(ノ)  
ヨ(タ)飛(行)機(ヲ)滿(州)国(カ)ラ(兒)玉(氏)ヨ(コ)サ(ナ)イ(様)ニ(シ)テ(呉)レトノ(コト)ダ(カ)ラ、自(分)カ(ラ)頼  
ン(デ)ヤ(レ)ナ(イ)トノ(コト)デ、ハ(ッ)キ(リ)シ(テ)居(タ)ノ(デ)菊池(氏)ノ(宿)ニ(行)キ(右)ノ(話)シ(ヲ)ス 氏(ハ)ア(ク)  
迄(ヤ)リ(タ)イ(ト)ノ(コト)ニ(テ)種(手)段(ヲ)研(究)シ(八)時(頃)辭(シ)テ(帰)ル 今日(モ)金(ニ)ナ(ラ)ズ(明)日(正)午  
行(ク)コ(ト)ニ(ナル)。金(六)三(千)円(明)日(ソ)ロ(ル)トノ(コト)デア(ッ)タ

◆◆49ページ◆◆ 昭和9(1934)年2月14日(水)

天気 晴

十一時(十分)ニ(テ)船(橋)ニ(行)ク 木(下)君(同)道(ノ)予(定)ノ(處)ス(デ)ニ(行)ツ(タ)トノ(コト)ニ(菊池)氏(宿)ニ  
行(ク) 不在 梅原(機)関(士)居(ル) 一(時)間(余)リ(マ)ツ(タ)ガ(來)ラ(ズ) 東(日)ヘ(奨)励(金)願(書)ヲ(持)参  
報(知)ニ(ヨ)リ(吉)原(君)ニ(會)フ リン(ク)ス(ノ)件(ヲ)聞(ク) 三(式)ノ(拂)下(ヲ)待(ツ)テ(付)ケ(ル)ノ(ダ)トノ(コト)。  
菊池(氏)ヘ(行)ク 大坂(ノ)国(防)新(聞)社(長)高(木)氏(ニ)會(フ)。イ(ヨ)、中(止)ト(決)定(シ)タル(由) 菊池  
氏(ヨ)リ(二)百(円)受(取)ル

帰(途)久(シ)振(リ)デ(工)藤(写)真(館)ニ(ヨ)リ(一)時(間)程(話)シ(テ)帰(ル)

▲▼50ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月15日(木)

天気晴

式百円ノ内檜材ヲ引取りアト百八十円程ヲ皆シナニ分配サセル。十一時十分ニテ上京東日ニヨリ飛行館ニテ平松、境両氏ト會ヒ三百円小切手ニテ受取ル。二時十分ダガ、タレモ來ラズ。麴町ノ第百銀行へ現金ト替エニ行ク。三時頃帰ルト木暮君一人居タ。協會へ飛行場ノ金支拂ヒニ行ク。内藤君ノ照(ママ)介ニテ加藤氏出會フ。愛国婦人ノ地久節ノ飛行ヲ頼マレル。奈良原、飯沼、鈴木、梶原、安藤等集合。局へ奨励金ノ件ニツキ陳情ニ行ク。課長大坂ニ出張。山田氏ニ會フ。飯沼ノ話シニヨレバアノ晩ハツキリ引受ケルコトヲキメタノデ鈴木ガ、ヨツテ居テウルサカツタトノコト。手形ハ銀行ニ廻シタカラト八十円ヨコス。東日ニテ塗料ノ金受取り買物シテ帰ル。

▲▼51ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月16日(金)

天気晴

今日ハクラブノ例会デ午後カラ上京。晝前久シ振りデ辻本氏木下ノ十年式内部検査ニ來場

東日ニ行キ英商会ニ行キ、ソラニ四時五分過ギツク。石橋君ガ待ツテ居タ。協會ノ海外同胞號ヲポップジョイデ作ラセルコトニシ機体ヲ僕ノ處デヤルベク運動スルカラトノコトデ大賛成ス。

高見氏來。金ハマダデ炭坑ノ方ノ發起人ニナツテハドウカトノコトニ万事マカセルコトニス。安満、高崎、安満、奈良原、黒沢、沢柳、高見氏モ照(ママ)介ス。川辺君内田ノ父ト來古谷サンニ會フトノコト。後チ川辺君モクラブノ席ニ列ス。食事中上原氏衣笠氏児玉氏來。八時頃散會。今日ハ、タクシー實現方針トシテ安田財バツニ話スルコト。ソレニハ高見氏ノ親戚ガ林ト云フノガ安田ノ重役ヲシテ居ルトノコトニ高見氏ニ一任。

▲▼52ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月17日(土)

天気晴

終日在所。木下君來。廿五日ノ船ニテ大連ニ輸送ノ上彼地ニテ飛行ノコトニ決定シタトノコト。ソレデハ廿三日ニ完成セシメネバナライガ到底見込ミナキ旨返事ス。後升毘局カラ拂下納金ノ通知ガアツタノデ菊池氏カラ拂下代金ノ返金ヲ乞フベク手紙ヲ書イテ鈴木ニ木下ニ見セテ船橋カラ出サセル。

夜清平來。上京後初メテ。御金モ來。ニギヤカデ話シガ長ク十二時頃迄眠レズ。

女中ガ又宅カラ呼ビニ來タノデ家内ハ稲毛ニ行ク。子守ヲ一人連レテ來タガ十二デタ。

方ハ泣イテツヒニメシヲ喰ワズニ寝テシマッタ

▲▼53ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月18日(日)

天気 晴

朝拂下品ヲ出シ清平二八十五円持タセテ帰ス 夕方計算ノ決(ママ)果百円七十二銭トナル ボロ代全部支拂フ 差引受取り花屋へ五円持参ス  
午後三時頃左官屋ノ案内デ松ノ盆栽畑ヲ見ニ行ク 畑道ヲ自動車行ツテ大汗ヲ書イタ スツカリ、クタブレタ 夜ヨク眠ル  
子守夕方泣イテ困ル

▲▼54ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月19日(月)

天気 晴風強

西強風アリ ホコリデ困ル  
鈴木ヲ木下へ菊池氏來タカ見ニヤル 晝頃帰ル 來ラストノコト  
八年度決算表ヲ作ル  
野呂修理見込書ヲ作ル  
午後沢柳君帰場

▲▼55ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月20日(火)

天気 晴

朝奈良原氏來 奥サンノ父死去セラレタトノコトデ金ガ入ル由 今日葬式トノコトニ猪又ヨリ十五円借りクラブヨリ渡ス  
八年度分決算表ヲ作ル  
午後軽飛行機ノ重量ヲ調査ス 並翼コードロントグライダーヲ標準トシテ調査ス ドウモ六ツ間敷ラシイ  
沢柳君學校へ行クトテ帰ル  
小女帰タガツテ泣クノデツヒニ左官屋ヲ頼ンデ送ラセル  
夕方奥山君來 桂林ノ練習二十時間分ト発動機一台デヤラセテ呉レトノコト 大体ヨカロート返事シテ居ク

▲▼56ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月21日(水)

天気 晴



アタ、カイ春日和デアッタ 沢柳氏帰ラズ獨デ輕飛行機ノ重量予算ヲ作ル。翼ガ大分  
予定ヨリ重クナル  
午後胴体ノ重量ヲ出ス 木材ダケデ四十キロヲ越スソウダ  
桂林練習ノ件今朝電話デハ話シガ違ッタノデ更ニ計算ヲサセ練習費ヲ出シ發動機ハ一  
台八十円 二台ナラ百二十円デ引取ルコトニシテ安岡交渉ニ行ク。大体マトマッタノ  
電話アリシモ本人帰ラズ 今日モ金ナシデ困ル  
仙台ノ菊池ヘ電話シタガ不在トテ不明 送金ナシ

▲▼57ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月22日(木)

天気晴

午前中ハヨイ天気デアッタガ午後カラ風強ク今日モ練習中止 最数日ハ毎日陸海軍ノ  
飛行機ガ遭難 スデニ十数名ノ死者ヲ出シタ  
安岡昨日作業会社ヘ行ツタキリ桂林ノ練習費ヲ受取リツヒニ帰ラズ 見ニヤッタガ分明  
マダ酒ニマレルノハコマッタ奴ダ

上仲ノ船橋ニラケル素行ヲ調べニ前下宿先キヘ見ニヤル 毎日出懸ケテ夜モオソカッタト  
ノコト

木下來 明日ノ拂下代金大坂ノ国防新聞カラ出サセルニツイテハ同人ノ所有ニシテホシ  
イトノコト 自分ノ方ハ菊池氏カラ金ヲ返シテ貰フカラソレデモヨイト返事ス

明日ノ拂下代金ノ爲メイス。パノ一台拂下ヲ行フ 五十三円五十七銭入りピストン發電  
機台ハノコシテ

▲▼58ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月23日(金)

天気晴

局高川ノ願書、拂下代金納入、新井課長ニ藤原ノ件 尚監理課長ト想(ママ)談スルト  
ノコト。伊勢谷氏ニ会フ必要アレドモ今日ハ會はず。局ニテ吉原君ニ會フ 報知ニ行クノガ  
ハブケタ

協会飛行場使用願出ス。輕飛行機製作ノ件ヲ聞ク。マダ全然白紙ダトノコト 何ニ  
金ヲ使フカサエ極テ居ラナイ由ニツキ世界記録ヲ目ザシテ作ツテハドウカト進言シテ居  
ク。磯部氏児玉ト會見 ソラニテ晝食。磯部氏ノ満州ニ於ケル飛行競技大會同氏最后  
ノ事業トシテ後援シテ呉レトノコトニ色々氣ニ付イタコトヲ話シテ承認。竹崎行ツタガ  
金ニナラズ。菊池氏來タトノ電話アリ。スグ宿ヘ電話シテ六時頃迄ニ行ク約束ヲナス  
ベニヤ商会ブリジストンタイヤーニテ材料ニツキ聞合セ宿ニ行ク 六時 四時半頃ヨリ津  
田沼ヘ行ツタトノコト。スグ帰ル 木下ニハ寄ラズ工場ヘ夕方來タ由  
菊池氏ノ発内部検査アリ 南波氏

▲▼62ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月24日(土)

天気 晴

十時頃宿ニ菊池氏訪問 金持参セズトノコトニ明日ハ日曜ニツキ月曜日電報爲替ニテ送金シテ貰フコトニカタク約束ス  
電通ノ件ニテ水野法律事務所ニ行キ支拂方法ヲ取キメル。帰途尚菊池氏ニヨリ念ヲ押ス 三月一日飛ンデホシイトノコトニ五千円ニテ引受ケル  
帰りニ船橋ニヨル 佐藤ヘヤル金猪又デ借リサセルコトニシタガ出来ナカッタラシク宗里君ガ三十円貸シテ呉レタノデ夜池本ニ持タセテヤル

▲▼60ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月25日(日)

天気 晴風

五時半起床 黒沢オソク七時過ギ飛行機出發ス 自分ハ自動車ニテアトヲオフ 太田原風強ノ飛行不違トノコト 晝過ギ待ツタガ、ツヒニ中止トナル 午後山田氏ノオツキ合ヒデ玉突キニ行キ、夜食事ヲ共ニシ久シ振リデ、女ヲ上ゲテ十一時頃終ル 廿五円五十銭 女中三円ヤル 一人當リ鈴木、宗里各十円ヅ、トハ安カッタ  
午前奥山氏ニ会フ 関口ノ件 食事ヲサセテ貰フコトヲタノム

▲▼61ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月26日(月)

天気 晴

高川其他出發後船橋ニツク 無事往復シテ十二時頃帰ル  
三時頃迄船橋ニ居テ郵便局ヘ電話デ仙台カラノ送金ヲ待ツタガ來ラズ帰場 今日ハツヒニ來ナカッタ 船橋カラ打電シタノニ対シテモ返事モナシ 少々不安ニナル  
夜黒沢ヲ鈴木正憲ノ見舞ニヤル

▲▼62ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月27日(火)

天気 晴

高川場内試験ヲ終了  
今朝仙台菊池氏ヘ電話シタガ不在トテ要領ヲ得ズト云ツテ金ヲ送ツテ來タ時ニ飛行出來ナイト困ルノデ取リアエズ又古発動機ノ拂下ヲ行ヒ金ヲ作り鈴木ヲ上京サセル 警視廳ノ手續キヲサセル  
今日モツヒニ何等ノ返信モナシ

◆▼63ページ▲▼ 昭和9(1934)年2月28日(水)

天気晴

ルノートカーチス各一台ツ、拂下ヲナシ八十円ヲ得テ塗料ヲ取り其他ニ支拂ヒ仕事大ニ進ムアト太田、畠山等最(ママ)非必要ナ金ガ明日ニ迫ツテ居タガ今日菊池氏ニ打電シタガツヒニ返事ナシ

鈴木正憲井上病院ニ入院 輸血スルノデ埴山ヲ頼ミタイトノコトニヤル 夕方帰ル 二百瓦取ツタ由。トテモダメダトノコトデアッタ  
安岡流山へ出張サセル 一三式整備ノ件ニツキ

◆▼64ページ▲▼ 3月

菊池、野呂、伊藤機完成

軽飛速(ママ)進

工場能率増進考慮

◆▼65ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月1日(木)

天気晴

上仲帰場 作業服ヲ着テシャー、ハトヤツテ來タノデ今日迄ノ不誠意ヲコン、ハト話シ返(ママ)省シテカラ出直セト返ス

菊池金見込ミナク満州へ行ツタ由ニツキ安岡ヲ流山ヘヤル

◆▼66ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月2日(金)

天気晴

正憲輸血ノ爲メ飯島イヤガルノヲ諭シテヤル 百二十グラム取ツタ由。ヤハリ母親ヲイジメテ居ル由 タレガ看病ニ來テホシイトノコトデアッタガ、タレモ行キ手ガナイノミナラズ行ケトモ云エナイノデ困ツタ 母モ、カワイソウナモノダ

安岡ノ話シデ上仲明日ヨリ出ルトノコトデアッタ

明日信太郎學校へ持ツ金ニ困リ猪又ヨリ拾円取ル

東福寺今日中ニ五百円内入レストノコトデアッタガ其内半分ホド先キニ貰フコトヲ電話カケサセル 梅田氏東福寺へ行ツテ返事スルトノコトデアッタガ違ヒ返事來ラズ

◆▼67ページ◆▲▼ 昭和9(1934)年3月3日(土)

天気 雪後曇リ

朝眞白ニナツテ晝頃迄降ツテ居タ

毎年節句ニ金ノアツタコトガナイガ今年ハコトニハゲシイノデ閉口 白酒ドロコカ甘酒サエ  
出來ナカツタ 學校デハ學藝会ガアツタノデ小供ハソレニ氣ヲ取ラレテ居タ

信太郎ノ成績表アリ。シリカラ六番目デアツタガ兎ニ角五年間落第セズニ無事卒業出  
來タコトハ目出度

昨夜色々考タ末塗料ヲ北河ニタノンデ今月末拂トスルコトニシテ鈴木ヲ交渉ニヤルコト  
ニシタガ旅費ガ出來ナイノデ明日ニス

六日ノ飛行正憲機体ヲ使用スルコトニシテ埴山ニ届ケニヤル 上仲來ラズ黒沢ニス

◆▼68ページ◆▲▼ 昭和9(1934)年3月4日(日)

天気 晴

朝キリ深ク霜ハゲシ 九時頃迄花ガ咲イタ様デキレイデアツタ

昨夜考ヘタ通り鈴木菊雄ヲ呼び今月末迄三百円融通ヲ話シ式百円ダケ出來ル 明日  
ニナルガ今日信太郎ノ分ト鈴木ノ北河出張費ガ入用デアツタガ出來ナイノデ木下ト

野呂手紙ヲ持タセテヤル 野呂ヨリ二十円トゞケル。長屋ヲ貸シテアツタノガ五円持ッ  
テ來タ 実ニ感心ナ奴デアツタ 帰リノ旅費ニ一円貸シテ呉レトノコトニ負ケテヤル

奈良原氏來 数時間話シテ帰ラル 明日十二三円届ケテ呉レトノコトニ閉口シタ

今日ハ學藝会ニテ仁三郎ト恵美子ガ何ニカヤルトノコトデ家内ト女中デ見ニ行ツタ 信  
太郎ト自分デ留都(ママ)番

◆▼69ページ◆▲▼ 昭和9(1934)年3月5日(月)

天気 晴

上天気ダガ北風寒イ日デアツタ

鈴木菊十時頃ニナツテタ方デナイト金間ニ合ワヌトノ事ニ取アエズ上京 警視廳へ洲崎  
着陸ノ願書ヲ出シ北海タイムスニ寄ル 十年式木下へ頼ムコトニナツタ由 當方へハ新機

ノ爲メニ式ヲ送ルトノコト 報知ニ行ク 浅井氏ニ會フ コチラハ當分倉庫へシマツテ居タ  
ノダトノコトデアツタ 東日ニ寄ル タレモ居ラズ。羽止ヲ買ツテ三時半帰宅 四時鈴木

ヨリ二百円持參 鈴木伊二岡田ト今夜ノ夜行ニテ北河へ出張サセル。鈴木伊自家ノ家  
賃ヲ拂エナイトテ朝カラ仕事ガ手ニツカナイ様デアツタ 困ッタヤツダ 米屋ノ金十円

ヤル

島山三二十円ヤル

夜信太郎ノ中學卒業祝ヲナス 畠山ニ教ハタコトガアルノモ同人ト他ニ金太郎池本ヲ呼ブ。上仲本日ヨリ拙宅ニ寝起キスルコトニナル

▲▼70ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月6日(火)

天気晴

午前十時半地久節奉祝飛行ニ出發 一時間四十分ニテ無事帰ル 午後上京 局ニヨリ一二式改造ノ件ニツキ玉宮氏ニ話ス。許可ヲ取ツテカラニシタ方ガヨカロウトノコトデアツタ

協会ニ行キ加藤氏ニ合ヒ今朝ノ飛行料五十円受取ル

▲▼71ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月7日(水)

天気晴

八時自動車ニテ信太郎、張田、平野ヲ連レテ霞ヶ浦ニ行ク。モウ分配ガ出來テ居タ。タコムスノ發動機内部破損シテ居テ、モノニナラズ。上出君北海道ヨリワザ、上京シタノニ兎ニ角工場へ預ル事ニシタガ十年式ハ木下へ持ツテ行カレタ 本社カラノ差圖トアツタガ見積リモ取ラナイデヤツタ處ニ回リガアソウダ。上出君ノ話シテハ新機モマダ決定セヌ由。四時二十二分ニテ帰宅 七時着 自動車ハ五時ツイタ由

鈴木晝頃出勤 ダメラシカッタトノコト

伊藤機延期スルコトトス

▲▼72ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月8日(木)

天気 曇リ小雨

小雨午後止ム 午後ヨリ上京 局へ軽飛行機ノ鉄板一ミリニミリ試験片ヲ提出ス 東日二一寸ヨリ協会ニ行ク 木曜会奈良原、梶原君居ル 協会小野氏ニ會ヒ正憲死亡シタ場合ノ弔慰金ニツキ調査シテ居イテ貰フコトトス 本日ノ出席者右二人ノ外鈴木菊、相羽、木暮、田中、加藤、高橋、(新会員)以上 外ニ磯部氏ノ飛入り 満州ニ於ケル計畫ニツイテクラブノ賛成ヲ求メラレ承認。

高見氏照(ママ)介ノ人ト會フ 電線費ヲ込ミノコトデ英ト佐藤ヲ照(ママ)介ス

▲▼73ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月9日(金)

天気晴

温イヨイ天気デアッタ 奈良原氏來。十円渡ス

夕方奥山氏來 サル程度良好ナルモノ發動機手入済ミニテ三百円及三四百円位ト云フ 向フハ三百円デヤツテ貫ヒタイトノコトデアッタガ内部検査後デナイト確實ナコトハ出來ナイガ操縦線モゴム紐モ取換エズゴムカンカンタイモ一切交換位ナラバ三百円位デア來ルダロウト返事ス  
上伸本日ヨリ起キル

クラブへ加藤二郎新入会 クラブヨリ百五十円工場へ入金アリ ベニア板、保俵、中台、鈴木伊、宗里、其他少シヅ、分ケル

▲▼74ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月10日(土)

天気 晴

上天気ナレドモ風強ク練習出來ズ

沢柳氏本日ヨリ一三式改造設計ニ着手

上伸鼻治療ノ爲メ船橋ノ醫者ニ行ク

農業世界ニ癩ノ初期ノ兆候ト云フノガ出テ居タ 中ニ焼傷ノ様ナ水種ガ出來ルトアツタ。コレハ昨年一二月頃右足ニ出來タ何ニカ原因ノワカラヌモノニ思ヒアタツタノデ氣味悪カツタ 一應調査シテ見様カ知ラ

▲▼75ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月11日(日)

天気 晴

工場休マズ終日在所 住宅ト寄宿舎ノ設計ヲナス

▲▼76ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月12日(月)

天気 雪

午後カラ雪ニナル 上京 局ニヨル 管理課長ニ會フ 免状再下附ノ件スデニ決定セル趣キ 南波氏検査十六日ヨリ廿日迄ノ間ニ行クトノコト

飛行館ニ行ク 三時ガ少シ遅レテ、イルズ嬢ノ講演アリ 話シハブレゲーノ広告ニスギナカツタ 茶ノ會ヲ終リ奈良原氏ト共ニ帰宅

▲▼77ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月13日(火)

天気 雨

徳次ノ月謝ト信太郎ノ日大受験料ヲ心配ノ上猪又ヨリツヒニ二十円借りル

東福寺ダメナノデ一應ヨク説明ノ必要アリ梅沢氏ニ來テ貫ヒタイ旨手紙出ス

▲▼78ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月14日(水)

天気 曇り

朝春ラシイアタ、カサデアッタガ午後カラ返ツテ寒クナッタ。二三盆栽ヲ手入レス  
野呂君ヨリ銀色余タ十キロヲ使用シタコトニツキ色ヲナシテ抗議アリ 右ハ主翼以外ノ  
分モ含ンデ書キ出シテアッタコトヲ述ベル 先方ハ主翼分ダケト思ツテ居タトノコト 午  
後数字デ現ワシテ其間違ヒデナイコトヲヨク説明ス 貧棒(ママ)スルトツマラヌコトガ發  
生スシテ困ツタモノダ ソレニツケテモ一日モ早く輕飛行機ノ完成ヲ必要トス

▲▼79ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月15日(木)

天気 晴

野呂君本日ツヒニ姿ヲ見セズ 多少分ツタモノダロウ 本日主翼取付ケヲ終ル  
作業会社ノサル交換後飛來 二三日預ルコトニナル。夕方奥山君來 明日特別ノサル  
整理ニ持參スル由

今日ハ信太郎相手ニ終日盆栽ヤ庭ノ手入レヲナス 水(ママ)蓮ガ意外ニヨク、ソダツテ居  
タノニ驚ク。今日モ收入ニツキ考慮 奥山君ヨリ桂林練習費殘金タト五十円ヅ、デモ入  
金スル様安岡ニ話サセル 月曜日イクラカ作ツテ來ル由。

▲▼80ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月16日(金)

天気 晴

朝航空タクシーノ計畫書ヲ作ル  
木下君アプロ整備ノ件 明日機体ヲ船橋ニ運ビ向フテ手入レ 内部検査以後ヲコチラ  
デヤルコトニ話キマル

大口來 水上機ニテ大型ニ一台小型三台入用ト云人ガアルガ、イクラ云ツテヤロウカト  
ノコト 大型一五式ニテ式千五百円 小型六ナイ 大口ヨリ畠山孝太郎ノ居ル處ヲ聞ク。  
ソコ菊池氏モ居ルモノト思ワレルノデスグ手紙出ス 奉天浪速通上野屋旅館方  
二時半ノ自動車ニテ上京 クラブ例会八時半頃散会 今日ハ兒玉サンガ來ナカッタ  
先日、輕飛行機ノ金ノコトヲ云ツテヤッタノニ對シテ來ナイノデハナイカモ思ツタガソ  
ナコトモアルマイ。高崎、衣笠氏來 外二初メテ古谷中將來。ソラ急ガシクテギヤクタイ  
サル

▲▼81ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月17日(土)

天気晴

明日信太郎ヲ横浜ヘヤラネバナライノデ五円取ツテ居イタ處木材屋來 遊ビニ五円ト先付小切手ヲヤル 後チクラブヨリ五円補充ス

▲▼82ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月18日(日)

天気晴

上天氣 クラブ茶話会中止シタガ奈良原氏來 川辺君來 木下君ノ拂下ニ関スル件辨明シテ居タ 碁ヲ一石ヤル

信太郎横浜高工ノ検査明日ナノデ今日カラヤル 昨日クラブカラ五円用意シテ居イタ内埴山ノ千葉出張デー円ヘツタノデ空罐十カシヲ賣リ拂ヒ全部持タセテヤル アトテ奈良原氏電車賃ヲトノコトニ、クラブデ聞イタガ金ナク、猪又ニモ話セナイノデ家内カラ云ワセテヤット五円ツクリ内式円先生ニ渡ス

夕方ヨリ家ノ設計ヲヤリ十時頃終ル 大体理想ニ近イモノガ出來タガ、スグ建テルニハ一割前金ガ入ルトノ事デアッタ

伊藤西氏ノ約手不渡リニナツタト石井ヨリ知ラセアリ 午後手形ノ通ラノヲ見ルト裏書キヲシテナカッタ爲メトワカッテ安心ス  
平松君午後來

▲▼83ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月19日(月)

天気晴

昨夜カラノ風強カッタガ次第二風ギル 晝過ギテモ検査官來ラズ局ヘ電話スル 今日ハ中止シタ明日行クトノコト 何シノコトダ

今日信太郎ノ入學検定日 朝カラ心ノ中ニ祈ル 夜七時頃帰ツテ來タ 見物デモシテ居タカト思ツタラ四時迄カ、ツタトノコト 校長ガ大里君ノコトヲ聞イタトノコト。ソコニ望ミヲ懸ケラレタデモナイガヤハリ、ソシナ譯ニモ行クマイ。式円四銭金ガ余ツタト返シタ 皆ヤリタカッタガ丁度明朝弘益社ヘ人ヲヤル約束ヲシタガ旅費ガナカッタノデ取ツテ居クコトニス

▲▼84ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月20日(火)

天気晴

上天氣 鈴木ヲ弘益社ト局ヘヤル

十時頃検査官來 野呂、菊池ノ十年式ニ台無事終了ス 四時頃検査官帰ル 奨励金ノ都合上堪航証ハ來月貰フコトニナル



黒沢明日伊藤氏ノ約手受取りニ銀行へ行ツタガ時間ガ五分遅レタトノコトデ泊ツテ今日朝取りニ行ツタ處期日ヲ過ギテ居ルカラ支拂ヘヌトノコト 伊藤氏へ行ツテ小切手ガ現金ニ替エテ帰ルトノコト 之レハ又ウマク行ケバヨイガト思ツタガ、アンノ状クレナイトテ帰ツテ來タ

今日木下君ノ處へ來タ池田君ノ手紙ニヨルト今月三日菊池氏ハ池田君ヲ新京へ居キザリニシテシマツタトノコト イヨ、ケシカラン男デアル

迫細君來 サルムソン當方ノ発動機ヲ付ケテ整備スルコト 完成後迫細氏ノ方デ引取ラネバ元價デ當方ニ引渡スコト 以上承認シテ帰ル

▲▼85ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月21日(水)

天気 曇風雨

昨夜カラ吹キ初メタ風次第ニ強ク午後八風雨トナル 庭ノ桐ノ木タオル 大格ノ櫛ノ屏タオル

午後三時作業ヲ早仕舞ニス

家ノ内モドコモ砂ホコリデ大変デアッタ 午後雨ガ降り出シテホコリタケハナクナツタ 夜電氣ガツイノデ先ヅヨカッタ

▲▼86ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月22日(木)

天気 晴

昨日風デ函館大火 市ノ大半ヲ焼き死者千名ヲ越セル由

今日八屏ヲ直シ桐ハ下駄屋へ譲ル 金四円ナリ 安カッタ

小鳥ガ逃ゲ出シテ漸ク銀鳩ハトラエタガ、カナリヤハ二匹共ツヒニ帰ラナカッタ セキセイ一匹逃ゲル

鈴木正憲本日長屋へ千葉ヨリ移轉ス

▲▼87ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月23日(金)

天気 晴

今日モ又風強クホコリデ困ル

一三式東福寺用ヲ引出シ胴体部品取ハツシニカナル 自分ト飯島ニテ行フ パイプ廻リ発動機部佐藤島山行フ

池本大坂へ帰リタイノデ旅費ヲトノコト 東福寺ヨリ金ノ這入ル迄待タセル。工場ヲ止メテ満州へ平田ト行ク計畫アル由信太郎ヨリ聞ク 見込ノナイ男ダカラ行クコトハサシツカエナイガ、ソレトナク平田ヲタヨリニスル事ヲイマシメテ居ク

◆▼88ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月24日(土)

天気 晴

東福寺本日來ルツモリデ待ツタガツヒニ來ラズ 午後急用ニテ行ケヌトノミ電報アリガツカリス クラブヨリ五円借り五十錢ヅ、皆二分ケル  
今日モ終日一三式分解作業 飯島ト二人デ行フ

◆▼89ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月25日(日)

天気 晴

予報ハ雨デアッタガ朝カラ上天気 朝食後インコーノ巢箱ヲ作ツテ入レテヤル  
晝頃魚屋ト碁ヲ二石ヤル 三石目三川辺、内田來 一三ベンヅ整備ノ件タノマレル 内  
部検査向フデ手入レシテアト引受ケルコトトス 見積リハ其上ノコト  
後チイチゴト盆栽ノ植替エヲ行ヒタ方迄カ、ル 毎日働イタ方ガ氣持ガヨイ  
ヒサ母親トケンカシテ東京ヘ行クカラ暇ヲ呉レト云ツテ來タノデ宅ニ留メ居キ鈴木伊ガ  
丁度來タノデ、ヒサノ宅ヘ話シニヤル

◆▼90ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月26日(月)

天気 晴

東福寺ヨリ今日三時ニ來ルトノコトニ準備シテ待ツタガツヒニ來ラズ。寒ニ閉口ス

◆▼91ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月27日(火)

天気 曇リ

朝流山ヘ電話カケサセル 昨日來ルツモリノ處來ラレナクナッタノデ今寺ヘ行ツテ居ルト  
ノコトデアッタ

宗里氏ヲ見舞ニ千葉ノ醫大ヘ行ク マダ病源ガハツキリシナイノデ丁度レントゲンヲカケ  
タリシテ居タ 帰リニ国吉ニヨル 百円ダケ都合出來タラソレデ話ダケ取キメテ又延期  
シテ居クカラ最(ママ)非ソレダケ作ツテ呉レトノコトデアッタ

夕方四時頃松崎氏梅沢氏來 タッタ百円内入 寒ニコマッタガ仕方ナカッタ 飛行ヲ九  
月ニ延期シテ金ヲツクルコトニナル 五月中ニ多少マトメテ入レルトノコト 晝頃村山工  
場入口デ自動車ニハネラレ、ケガシテ渡辺ニ入院 一週間デサオル退院出來ルトノコト

◆▼92ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月28日(水)

天気 曇晴

今日ハ來客デー 奈良原氏來 晝食後帰ル 四月二日差押競賣ノ日ダトノコト 二十  
円都合シテ呉レトノコトデアッタ

夕方鈴木正憲來テ呉レトノコトニ行ク 川辺カラアブロ貸セトノ話シアッタソウダガ反  
対ハシナイガ考慮シタ方ガヨイト云ツテ居ク 練習生ノ件モアッタガ、コレハ來ル迄ハ仕方  
ガナイ。今日葉ガ切レテ金ガ入ルトノコトデアッタガ何ントカシテヤロウト思ツタガドコ  
カラモ何ントモナラナカッタ。夜聞ケバ中台デ十五円借りテ行ツタトノコト マヅヨカッ  
タ

鈴木上京サセル 伊藤氏金呉レトノコトニ

午後鳥飼氏來 夕食後自轉車デ帰ル 元氣ニ驚ク

▲▼93ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月29日(木)

天気 大雪

庭ノ桜桃ガスデニ花盛リヲ過ギタノニ今日ハ大雪 朝カラ夜迄降りツゞケル 三四寸積  
ツタ。トケナケレバモット積ツタコトデアロウ

鈴木昨夜帰ラス 今日伊藤氏受取り局モ今日間ニ會フダロウトノコト

▲▼94ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月30日(金)

天気 晴

今朝伊藤西夫氏局金貰ツテ帰ル 皆ナニ分ケル 保俵六年度全部終ル ヤット方ツ  
イタ

午後ヨリ鈴木上京 平松氏ノ内金タノミニヤル

木材輕飛スパーロンゲロン十年式ロンゲロン材料着 思ツタヨリ早くツイタノデ早速明日  
ハ全部引割リタク大工ヲ頼ム 來ルトノコト

新潟へ安岡ニ手紙出サセタアトへ中田來 五日ニ重役連中來ルトノコト

▲▼95ページ▲▼ 昭和9(1934)年3月31日(土)

天気 曇リ

鈴木自宅ヨリ上京 夜帰ル 境氏ノ父ニ會ヒ明後日岳君ニ持参サセルトノコト

徳次ノ本ヲ買フノニ困リ川辺ニ話シタラ内田君ヲヨコシタガ内田モ金ヲ持ツテ居ナイト  
ノコト 内田ニ金ヲ借りル理由ナシ 川辺ノヲ請求シタノデアッタ。鈴木正憲母ヨリ金  
ヲ貸シテ呉レトノコト 事情ヲヨク書イテ一円ダケ入レテヤル

昨夜ノ肉ノ喰ヒ過ギトスグ床ニツイタノデー 日腹ガハッテ居タノデ兔函ヲツクリ腹コナ

シロナス 夜ヨクナル

夜内田來 今一三式川辺君ノ連中デ手入中ナレド何ントナク気味悪クナッタノデ全部ヤツテ呉レトノコト 川辺下障突シナイ様注意ヲ與ヘル

◆▼96ページ◆▼ 4月

軽飛促進

能率増進策研究実施

◆▼97ページ◆▼ 昭和9(1934)年4月1日(日)

天気 雨

終日雨 東京へノ飛行中止

兎ノ函完成 後子夜住宅設計ヤリ直ス 以前ヨリハ又ヨイト思ツタ

晝頃奈良原氏來 例ノ件アトクサレノナイ様ニスル爲メ辨ゴ士ガ六十円デ全部スム様ニシテ呉レタ 内十五円竹崎カラ借りテ來タトノコト 徳次ノ本代トシテ取テアッタ十五円ヲ奈良原氏ニ提供 アト三十円ガ出來ナイノデ川辺君ヲ呼ビニヤリ想(ママ)談ス 近ク奈良原氏ガ講演ニ出張サレル講演料ヲ木下君カラ都合サセルトテ行ツタガ夜ニナツテモ帰ラズ 止ムヲ得ナケレバ買戻スコトニキメル

◆▼98ページ◆▼ 昭和9(1934)年4月2日(月)

天気 曇

晝前電話アリ 境氏來ラレナイノデ鈴木上京ス

川辺君ノ方ツヒニ間ニ合ワズ 金太郎ヲ買受人トシテ奈良原氏ヘヤル 九日ニ延期ニナツタトノコト ツヒデニ、サツキノ木振りヲ直ス爲メニ持参セシメ帰りニ兎ヲ貰テ來ル

内田二一三式見積リヲナス

安岡東京へ飛行ニ行ツタガ發動機故障ニテ帰ル 研究ノ末サクシヨンパイプノ先キノ穴ガ大キスギタコトガ分リ直ル

木下君來 明日機体ヲハコビ翼ヲコチラデ手入サシテ呉レトノコト

◆▼99ページ◆▼ 昭和9(1934)年4月3日(火)

天気 曇小雨

信太郎口頭試験 夜八時頃帰ル

夜清平來 十六日學業初マルト月謝ト。パスデ七十円程入ルトノコト ヤリキレナイ。信太郎ノ件日大ノ教師ニ聞合セルコトヲタノム  
信太郎本日ヨリ工場デ仕事ヲヤラセル。スナヲニ働クコトハ嬉シイ 清平ノ爲メ仕事ヲ覺エテ居クコトヲヨク話シテ居ク

▲▼100ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月4日(水)

天気 晴

海軍ヨリ大尉二名クラブヲ參觀ニ來場 晝食ヲ出シ五時頃追話シテ帰ヘツタ 奈良原川辺自分ト會談ス 内一名ハ崎長大尉トテ 大尉上海事變ニシヨト機ヲ討落シタ時ノ操縦者デアッタ。駒林木目田両氏來場 平松十年式クラブアンリオ翼トイス。パノ三百一台内部検査ヲ終ル  
正憲母數回來 又入院サセナケレバナナイトノコトデ五十円程何ントカナラナイカトノコトデ後内田ニ話シテヤル。今日ハ奈良原氏カラ十円タノマレタガドウニモナラス川辺君カラ五円作ラセル 徳次ノ電車ノ。パスガ買エナイノデ猪又ヲ呼ビニヤツタガツヒニコナカッタ

▲▼101ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月5日(木)

天気 曇夜雨

仙台ノ梅林高橋へ菊池ノ様子ヲ聞合セテヤル  
鈴木菊ヨリ二百円請求アリ  
安岡昨夕三嘴ノ一三空輸ノ爲メ名古屋へ出張ス  
大坂国粹ヨリマグネトト集合板到着ス

▲▼102ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月6日(金)

天気 曇

鈴木弘益社金受取りニ上京サセル  
鳩巢函作り

▲▼103ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月7日(土)

天気 曇リ

午後沢柳氏來 満空ノ設計部へ入社ト決定 十三日東京駅發ニキマッタトノコトデ氏ノ爲メ大ニ祝シ輕飛行機ノ方ノ圖面ノ引繼キヲナシ夜急ナト金ガナイノデ自宅デ所

員六七名デ送別会ヲ催シ夜帰京ス。出発迄ニ少シ金ヲ作ッテ上ゲタイノダガ間ニ合ッテ呉レレバヨイガ  
今日ハ鳩ノ巢ヲ作ル  
上仲ト宗里見舞ニ鈴木ヲヤル 上仲二十五円入用トノコト 十五円支拂ヒニ渡シアト  
小使十円ハ後ノ事ニサセル

▲▼104ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月8日(日)

天気 晴

久シ振リニヨイ日曜デアッタ

奈良原氏來 一円五十錢渡ス

鈴木母數回來 ドウシテモ注射薬ガホシイトノコトニ向島デ取ッテヤルコトニシタガ工場外ノモノハ現金ニシテ呉レトノコトニ一寸閉口 尚醫者ノ証明モナクテハ賣レナイトノコトニ渡辺サンヘ頼ンデ証収ヲ取ッテヤリ三色各一箱ヅ、三円四十錢 鈴木菊雄ノ分ヨリ借リテ支拂ヒ買ッテ渡ス ツヒデニ注射ヲ中止スル様手紙ニ書イテヤル  
鳩小屋内ノ巢函完成 取付ケル  
夜ツカレルノガトテモ眠ク八時頃眠ニ入ル  
上仲退院

▲▼105ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月9日(月)

天気 晴

昨日カラ和子ガ、ムヅカッテ居タガ今日ハコロガッテ痛イ、ト云フノデ長サンヘ行ッタガ分ラズ夜又久々田ノ醫師ヲ呼ンダラ熱ガ八度一分アッタノデ輕微ナ風ノ爲メ腹ノ虫デモアバラレテ居ルノダロウトノコトデ薬リヲ貰ッテ來テノマセル  
信太郎日大試験ノ結果縣君ニ聞イ貰ッタ處ダメラシイトノコト 清平ニ運動方ヲ頼ム  
鈴木伊協会ノ高川ノ金ヲ貰ヒニヤル

▲▼106ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月10日(火)

天気 薄曇リ

昨日協会ヘヤッタノニ、カンジンノ願書ヲ持ッテ行カナカッタトノコト 馬鹿ナ奴ダ。今日又出張サセル  
鈴木母來 マタ、パピナル一函買ヒニヤル 菊雄ノ預リ金全部ヲナクス 今朝取リニ來タガマダ貰ワナイトコトワル。一日二三回位ヅ、泣キニ來ラレルノニ閉口ス 早く病院ニ入レルヨリ方法ハナイ

安岡一昨日名古屋発 豊橋二泊 昨日豊橋ヲ出發シタトノコト 今日モツヒニ何處ニ居ルカ不明 木下モツヒニ來ラズ  
午後高田治作君外数名來 各小學校ヲ持チ歩ク爲メノ何ニカ飛行機ノ見セルモノガ作リタイトノコトデアッタガドウモ素人考ヘデドレモ面白クナカッタ 聞カレルマニ色々話ス

鈴木今日ハ早ク帰ル様云ヒツケタノニツヒニ帰ラズ  
和子朝右ノ耳カラ耳ダレガ出テ居タ 今日ハ痛ガラナカッタ 之レデ耳ガ痛カッタト分ル

◆▼107ページ◆▼ 昭和9(1934)年4月11日(水)

天気 曇リ後晴

信太郎日大イヨ、ダメト決定シタノデ何ントカ入校サセタク清平ト打合せ今日午後二時御茶ノ水デ会フ約束ニヨリ上京 昨日高川ノ金半分百円ヨリ呉レズ ズット協会ニ行キアト百円受取ル。ツヒデニ日大中ニ加納サンヲ尋ネタガ病氣静養中トノコトデ御茶ノ水ニ行ク 少シ早カッタノデ待ツ 田中敬吉先生ヨリ日大ノ浅川先生宛名刺ヲ持テ面会 補欠デモト頼ンダ處今日午前ニ第二次撰コウヲ終了、スデニ發送済ミダカラ何ントモナラナイトノコトニガツカリシタ 昨日呉レバヨカッタと思ツタガ間ニ合ワズ 清平ト今後ノ方針ヲ相談シテ帰宅 信太郎ヲ呼ビコン、ト注意ヲ與ヘ今後ノ善處ヲ考慮サセル

◆▼108ページ◆▼ 昭和9(1934)年4月12日(木)

天気 曇風

風強シ

検査官今日來ラズ。伊藤酉氏ヨリ高井氏來場 ムナシク帰ル

◆▼109ページ◆▼ 昭和9(1934)年4月13日(金)

天気 雨

終日雨 上京 局ニヨリ輕飛行機ノ檜ト柁樹ノテストピースヲ出ス。飛行協会ニ行ク 木下君ト會ツタガ委任状ノ判ガ違ッテ居ル爲メ金ニナラズ 電話ヲカケテ本人ヲ述ブトノコト

奈良原氏ト會ヒ東京駅ニ行ク 一時発ノ沢柳氏ノ満州行ヲ見送ル 木村氏ニ會フ 沢柳氏ノ代リガ入ラヌカトノコトニタノム 清平ニモ會フ 検査官出張ト聞キイソイデ帰ル 辻本、西川、両氏來場 内部検査全部終ル 雨ノ爲伊藤氏ノ完成出來ズ。丁度帰

宅シタノト自動車デ帰ルノト同時デアッタ

▲▼110ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月14日(土)

天気 曇リ

野呂金ノ請求ヲナス

平松境両君來 平松君へ計器三ツ賣ル 月曜日金受取ルコト

木下豊君來 八十円内金受取ル 翼検査通行 修理スルコトトナル

工場内整理シタラ大変広クヨクナッタ

池本來 五六日前カラ來テ居タノニ今日初メテ來ルナリ金ヲ呉レトノコトニコソ、不心得ヲサトス

▲▼111ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月15日(日)

天気 曇晴

五時半起床 鈴木菊又金ノ請求ニ來タ

安岡ヲ日本飛行クラブ代理トシテ宗里君見舞ニヤル 元氣ハヨイトノコト 病源モ分ツタ由

黒沢弘益社ノ宣傳ニ行ク 帰ッテ信太郎徳次同乗飛行ス

十一時頃富田氏友人ト來 同乗ノ爲メ 黒沢オソクナルノデ鈴木ヘタノム 晝食ヲ共ニス

鳩舎ヲ作ル 來客ノ爲メ遅レ完成ニイタラズ

夕方桜田氏來 三里塚ノ帰リノ由

▲▼112ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月16日(月)

天気 雨

通信号命名式雨ノ爲メ延期

九時頃ヨリ上京 平松君ニヨル 後チニシテ呉レトノコト 會フ處ヲ打合セテ協会ニ行キ

小野氏ニ面會 正憲慰助金ノ件ト宗里二十週年飛行料ノ件ヲ懇談シ諒解ヲ得

局ニ行ク 課長ニ正憲ノ件ヲ報告シ定期検査ノ補助金ヲタノミ井上氏ニアブロ賣ロニツキ相談シ同氏ノ名デ國粹、飯沼、御原サンへ聞合セテ貰フコトトス。平松氏局へ來 計

器(高度計、速度計、回轉計)三ヶ代四十円受取ル コレヲ信太郎ノ予備校入學資金ニアテルコトトス。十二時半帰宅。發動機部ニ行クトマダ火ニアタッテ居タ 時二一時十分

前 佐藤ヲ呼ビヨセ、キツクシカリ居ク



◆▼113ページ◆▼ 昭和9(1934)年4月17日(火)

天気 晴北西強風

通信第一號ノ命名式アリ

風強ク御国アブロ明日試験ニ試飛行出來ズ 発動機テストダケ午後行フ スロー不調  
ツヒニ直ラズ

信太郎白鳥ト共ニ上京 予備校ヲサガス 日進ニキメタト帰ル 四十円ニテ月謝ト洋服ヲ求メテ帰ル 弘益社金受取レザリシ由。サテ。パスト靴ヲドウシテヤロウカシラ  
北海タイムスへ甲三翼トボス一個送ル 午後自分デ荷造リヲナス

◆▼114ページ◆▼ 昭和9(1934)年4月18日(水)

天気 晴

風弱ノ上天気

西川辻本両氏來 御国アブロ漸ク無事終了 シリンダー一本ロツカーアーム三個交換  
ヲナス。西川氏ト久シ振リデ色々話シ會フ

信太郎弘益社ヨリ四十円受取リ二十円ライジシクサンニ支拂ヒ二十円余ツテ、パス二  
枚ヲ買ツテ、内田へ昨日女工ニヤルベク借リタ五円ヲ返ス

鈴木菊へノ弘益社ノ二十円、五円不足ニナツタノデ手数料トシテ五円取ルコトトス  
夜食事ハ小供達ト面白オカシクニギヤカニ終ル 和子ガ、分ツタラ手上ゲロト云フト手  
ヲ上ルノガオシカッタ 金ハナクトモ、タノシイモノデアアル

◆▼115ページ◆▼ 昭和9(1934)年4月19日(木)

天気 晴

快晴 鳩小屋ヲ完成サセル 近所ノ畑ヲ荒スノデ入ル様ニシタノダカ中々這入ラナイ  
午後中台主人ヲ呼ビニヤリ品物ヲ今朝ヨヨサナイト云ツタコトニツキ話シ會フ ソウデ  
ナク寒ハ中台ノ間屋ノ方カラ六百円バカリニ対シ督促ヲ受ケタノデ百五十円バカリ都  
合シテホシイトノコトデアッタ

後チ上京 伊藤酉氏訪問 計算書ヲ出シ四百八十二円余ニ対シ奨励金ノ外二百八十  
二円余ヲ現金ニテ貰ヒタイトノコトヲ申出ル 廿一日返事スルトノコトデアッタ

新宿ノ中村屋ニテ木村氏照会ノ内田吉ニ君ニ會フ 感ジノ悪クナイ人デアッタ 明日  
ノ理事会ニモ二人共出席スルトノコトデアッタ 今日ハ雑談ニスゴシ不日津田沼へ來テ貰  
ツテ万事キメルコトトス

大急ギデ帰宅スルトジヨンガ自動車ニハネラレテ死ンデ居タ

徳治明日ノ旅行ニ御菓子ヲ買ツテ帰ツテヤツタラ中台デ取ツタトノコト

▲▼116ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月20日(金)

天気 曇り夜雨

上京ノ途木下君ニヨリ作業ノ都合上廿九日ニ飛行ヤルカ否ヤ確定的ノコトヲ知ラセル様話シテ上京 日本電話建物会社ヲ太平署デ調べタガ署デハ知ラナカッタ

局ヘ行ク 今日ハ初メテノ通信記念日デ御休ミデアッタガ辻本、西川、両氏ニ會ヒ御国アプロノ発動機ノ結果ヲ報告ス 東日ニヨッタガ羽太氏不在 警視廳ニ行キ菊池ノ件人事相談デ聞キ合セ協会ニ行ク 二時半 少々早過ギタノデ顔ヲ、ソリソラデ待ツ 今日ハ將軍連ハ航空会(陸軍)ノ会合ガアツテ其方ヘ行ツテ居ルトノコトガ衣笠氏カラ報告ガアツタ 出席児玉氏、木村氏、奈良原氏、安岡君、内田氏等合計七名 十時帰宅 ヒドク、ツカレタ。スグ床ニ入ル

▲▼117ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月21日(土)

天気 曇り

夕方内田君來 主ナルモノニ引合セ、條件トテ固クルシクセズ電車賃位ヲ出スコトニテ話マトマリ明後日ヨリ來ルコトニナル 當分一週二三回デ差當リベントト神風ノツケ替ノ出來ル機体(小旅客機ヲ)計設(ママ)ニカ、ツテ貰フコトトス

▲▼118ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月22日(日)

天気 晴

ヨイ天気ニナッタ

奈良原氏來 デラルミン板ノ焼戻シ講習ヲ行フ 張田、矢野、吉田、出ル 佐藤一寸來テスグ帰ル 焼戻シ全部終ル

上仲千葉ヨリ帰ル

清平徴兵下検査ニ行キ晝頃帰ル 夜夕食後帰京ス

▲▼119ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月23日(月)

天気 晴

クラブヨリ二十円入 内十円鈴木伊渡 残りニテベニヤ板引取ル 徳治ノ月謝マダヤレズ

安岡局へ出頭ス

鈴木午後休ム

上仲本日ヨリ千葉ノ市川醫院へ通フ 尚十日間クライカ、ル由  
信太郎スプリング坐金ヲ英へ買ヒニヤツタガナカッタ  
正午内田氏來 五時帰ル

▲▼120ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月24日(火)

天気 雨

今日ハ珍ラシク鈴木ガ菊池ノ金取立ニツイテ心配シテ居タ 船橋ノ警察へヤル 夜又加  
藤氏へ行ク  
終日降ル

軽飛行機ノ圖面調ベヲ行フ

児守リ小學校へ上ガラネバナナイトテ帰ル

和子三十八度六分熱アレドモ元氣ヨク遊ブ

自分モ今日寒氣ガシテ身体ガカナリ変デアッタ 熱六七度二分ハカリアッタ 自分トシ  
テハ多イ方デアル

▲▼121ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月25日(水)

天気 晴

今日ハ佐藤ガ金ガホシイト云ツテ居タガツヒニ出來ナカッタ。電話料モ徳治ノ月謝モ出  
來ズ

野呂君ハツヒニ奨励金ニヨル外ナサソウダ

奥山君來ルトノコトデアッタガ來タガ金ハ持ツテ來ナカッタ。

菊池ニ対スル訴訟状ヲ作ツテ居イテ貰フコトトス

▲▼122ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月26日(木)

天気 晴

今朝川辺ヨリ五円取り之レニテ鈴木ヲ上京 局へ検査ノ打合せト境、伊藤西両氏へ金  
ヲ今月中ニ貰ヘル様交渉ニヤル

内田君來場

夕方クラブヨリ五円取ル

電話料今日モ出來ズ 止ムナクサルノラジエターヲ處分シヨウト思ツタガ猪又居ラズ明  
日ハイヨ、止ルカモ知レナイ 猪又夜モコナカッタ

クラブアンリオ進行ス

▲▼123ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月27日(金)

天気 晴

漸ク猪又ニサル、ラジエーター一 同タンク一、ピストン廿五個デ三十九円余ニナリ晝頃局へ電話料納入 徳治ノ四月分月謝十円佐藤へ二円明日鈴木ノ上京費二円デ三十円ハナクナル

アンリオ明日受験二間ニ合セルベク奮闘 夕方試験轉良好 ヤ、安心 明日ハ最(ママ)非來テ貰フコトニ鈴木ヲヤルガ、サテ天気ガドウカシラ 作業会社サル発動機付替取降シダケ工場員ニテ行フ 取付ハ作業会社員デ夜業ス

▲▼124ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月28日(土)

天気 晴

鈴木早朝上京 局へ出頭 検査ノ件ヲ頼マセル 十時過ギ電話ニテ南波氏晝頃行クトノコトニ待ツ 一時過ギ自動車ニテ來場 アンリオ終ル 飛行三十二分シカ出來ナカッタノデ明日五十分程飛ンデ居クコトナル

宗里君危篤トノ報ニ検査後千葉ニ行ク スデニ三日前ヨリ意識ナシトノコト 明日ハ祭日ト日曜ナノデ盆栽デモ持つテ行ッテヤリ話シデモシヨウト思ッテ居タノニスデニ出ルイキバカリデアッタ 六時四十五分木部君ガ來テ二十分タ、ナイ内ニ臨終トナッタ。死体ハ明日患部解ボウノ上、火葬トシテ明後日船橋へ骨トシテ歸ルトノコトニ話マトマリ 外ニ出テ宅へ電話デ其旨シラセ今夜通夜スルカラト川辺鈴木ニモ通知シ再ビ病院ニ歸ルオソク鈴木來 川辺不在

▲▼125ページ▲▼ 昭和9(1934)年4月29日(日)

天気 曇リ雨

明ケ方一寸(二十分程眠ル) 葬式ハ自宅ニテ二日午後二時ヨリ三時迄ニ行フコトトシテ通知状ノ原稿ヲ作リンレ、手配シテ七時ノ自動車ニテ帰宅 床ニ這入ツタガヨク眠レズ 晝食前ニ入浴 酒ヲ一本ノンデ漸ク二三時間グッスリ眠ル。ソレデモ眼ガ痛カッタ シツカレタノハ、ドウモカラダガ弱タラシイ。宗里君ノ例モアルカラ死後ノ計ヲシテ置イテヤラネバナラナイ

鈴木ヨリ明日ノ報告ヲ聞ク 境氏二日ニシテ呉レトノコト 伊藤氏會エナカッタガ高井氏ニ依頼。明日行クコト。タイムス西氏ニ明日貰ヘル様諒解濟ミノ由。處ガ上出君ヨリハガキニテ品ハツイタガ見テ居ナイカラ五日ニ歸ッテ見タ上デ送金スルトノコトデアッタガ、ソレデハダメト思ッタノデタイムス社ノ方へ通信料付ニテハネシヨウシウルヤイナヤイト打電ス。明日コノ返信ヲ持ッテ支局へヤルツモリ

明日中台へヤレルヤ否ヤアヤシクナツタノデ親父ヲ呼ビニヤツタガ來ラズ、太田ガ來タノ  
デ話シニヤツタガ策ガナイトノコトデアッタ コチラノ話シダケサセテ居ク

▲▼126ページ▲▼ 昭和5(1930)年4月30日(水)

天気 雨後曇

埴山ヲ局へアンリオノ堪航書受取りト吉木君ノ銀行ノ金受取りニ上京サセ鈴木ヲタイ  
ムスト伊藤西氏へヤル タイムス昨日ノ返電ナク其マ、ヤツタ 午後受取ツタラ埴山ニ持  
ツテ帰ラセル様云ヒツケタガ埴山持參セズ。タイムスニ電話シタガ渡サナイトノコト 晝  
頃返電ガアツタノデ其電報ヲ手紙デ送ルコトニス。ソレニヨリ上出ノ諒解ナレバスグ呉レ  
ルトノコト クラブヨリ四十円入 小拂ヒニアテル 保俵署電話アリ タイムスノ方分ヲ  
又先キデアツタノデ時間中ニ間ニ合エバ持參サセルコト、サモナケレバ明朝早朝ヤルコトニ話  
シテ居ク。村山ヨリ海ノ金又請求アリ

山田航空官角田氏來 口頭試問ト縣、桂林場内ダケ終ル

宗里君葬儀委員長ニ奈良原氏 副委員長ニ川辺君ニ実務ヲヤツテ貰フコトトシテ行ッ  
テ貰フ 午後木暮君來 共ニ宗里ニ行ク 原君來アトノコトニツキ葬式翌日協議会ヲ開  
クコトニホゞキメル

▲▼127ページ▲▼ 5月

軽飛速進  
能率研究

▲▼128ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月1日(火)

天気 晴

雲多キモ次第ニ晴レル 久田一番機九時十五分發 次ギハ桂林、出タガ、プラグノ線  
キレテ引返シ直シテ出發ス 久田行道不明 三時頃漸ク電報ニテ小名浜ノ手前植田附  
近ノ中田海岸ニ不時着 無事トノコトデアッタ。桂林歸リモ又一度引返シタガ無事歸  
還ス

今日ハ日本飛行學校モ二台共不時着 一台ハ大破負傷シタル由。夕刊デ見ルト陸軍モ  
海軍モ一機ヅ、ヤツテ居タ

終ツテスグ船橋ニ行キ寺ヲ一人デハト思ツタノデ三人ニシ、ツヒニ通夜ヲシタ

▲▼129ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月2日(水)

天気 晴

モヤハアツタガ上天気 縣野外飛行九時半頃出発 宇都ノ宮ニ不時着ノ爲メオク(ママ)、夕方五時五十七分津田沼ニ降りラレズ船橋へ降ス。ソレデモ先ヅ無事終了  
一時半西田航空官ト船橋ノ告別式ニ行ク

◆▼130ページ◆▼ 昭和9(1934)年5月3日(木)

天気 晴

朝迄ズツト昨日鈴木上京タイムスモ伊藤西モ境モ皆金貰エナカッタトノコトデ悪夢ガツバイタ。朝聞イテ見ルト昨夜上仲ガ鈴木ニ會ツテ其事ヲ聞イテ帰ツテ自分ガ聞イタノデアツタソウダ 夢ト事実ガ一所ニナツテ居タノダ。保俵署電話デコトワル 電燈ガ拂エナイノガサテ一番困ルガ、中台モ品モノヲヨコサヌノデー一現金買ヒヲシナケレバナラズ、米モ又アスハ取ラネバナライシ、塗料ヲ取ラネバ境君ノ仕事ガ仕上ラズ、出来ネバ金ガ取レヌト云フ訳デ今日ハ実ニ苦ニ■タ 塗料ハ運送店へ先付小切手ヲヤツテ引取ル。正油薪ハ、老母ノ金五円ヲ借りテ間ニ合セル

◆▼131ページ◆▼ 昭和9(1934)年5月4日(金)

天気 晴

航空局へ高度計四個返シニ行ク 玉宮氏ニ八日検査ノ件事情ニツキクワシク話シ同情ヲ得タガ、ハッキリ來ラレル様ナ返事デハナカッタ。來週ハタレモ居ナクナルノダンウダ 協会ニテ今井ノ奨励金ヲ貰ヒ正憲ノ入院ノ爲メニ貸スコトトス  
タイムスヨリ本社ヨリノ手紙ヲ見セル  
東日ニヨツタガ羽太氏不在  
帰宅 船橋ニテ國粹ノ安井氏ニ會フ 同道シテ飛行機ヲ見セ一日モ早く引取り方ヲ依頼ス 伊藤西夫氏ヨリ値上ヲ請求シテ居ル由。コレガ問題デアル。

◆▼132ページ◆▼ 昭和9(1934)年5月5日(土)

天気 晴

在所 午後宗里君カラ電話ガ來タノデ行ク 武崎君ノ甲三ノ件デアッタ。アトノコトハ十日ニ遺骨ヲ国へ持つテ行クノデ其後ニヤメタイト妻君ノ希望デアッタ 青木君ハ皆サソデキメテ貰ツタ方針ニヨツテ、ドンナニモヤツテ行クトノコトデアッタ。取アエズ航空局ダケハ挨拶ニ行ツタ方ガヨイトノ自分ノ意見デ月曜日ニ妻君ヲ同道スルコトトス  
今日ハ手紙ヲ数通書ク

◆▼133ページ◆▼ 昭和9(1934)年5月6日(日)

天気 晴

朝鳩ノ止リ木ヲ作り盆栽二三植替エヲナス

午後小供ヲ連レテ久シ振リニ海ニ行ク。マテ貝ガステキニ取レテ面白ク四時半頃上ル。

夜ハ貝<sup>ニ</sup>テ食事ヲナス

妻今朝來熱アリ床ニツク

東日ヨリ電話アリ 尾花沢ヨリ十年式ヲコワシタノデ送タトノコト

上仲 午後晝前ヨリ居ナクナル 弟<sup>ニ</sup>デモ迎エニ行ツタラシイ

◆▼134ページ◆▼ 昭和9(1934)年5月7日(月)

天気 晴

鈴木伊出場 スコブル機嫌悪ルシ 今日中ニ二十円入ルトノコトデアツタガ取り合ワナ

カッタ。安岡ノ収入ガ多過ギル様ナコトヲシキリニ云ツテ居タガ馬鹿ナ奴 クラブノ会

計ニギ念ヲハサンデ居ル様ラシカッタガ、ウタガワシクバ、シラベル様ニ命ズ

宗里未亡人同道局ト協会ヘ挨拶ニ行ク 日日ニテ花環ノ代十五円受取ル 英ニテ、カン

タイ 残金ニテ買入 境君ニ会ヒ検査ノ延ビソウナコト 延ビタ場合十日頃金一部分

支拂ヒヲ乞フ旨タノム。武崎奈良原氏ニ会ヒ宗里甲三ノ件交渉 弍百円ダケ出ストノ

コト 理由ハモットモラシカッタ 帰リニ、木下君ニ其當時ノコトヲ聞ク

帰宅シタラ橋本善喜ガ來テ居タ

◆▼135ページ◆▼ 昭和9(1934)年5月8日(火)

天気 晴

鈴木局検査打合せ、東日運賃貰ヒニ、区裁判所資格証明取リニヤル

橋本善喜輕飛試作奨励金ノ内ヨリ返済ノ証書ヲ書イテ渡ス

野呂氏ヨリ二十円受取ル 東日ノ花環代十五円合セテ三十五円出來ル 夕方猪又ヲ

呼ビニューム古板拂下ヲ行ヒ明日畠山ノ金送金シテヤルコトニス

平松十年式翼取付ケタガ銀塗料不足 止ムヲ得ズ運送店へ話シ十六日付ノ小切手ニ

テ引取り間ニ合セル

◆▼136ページ◆▼ 昭和9(1934)年5月9日(水)

天気 晴風

終日南風強クホコリデ困ル

東日十年式到着ス

鈴木午前中出勤 午後休ム 昨日出張八区裁判所ヲ目的ニヤッタノニ時間ガナクテ間ニ合ワナカッタトノコト 局ト東日デー日ヲツヒヤシタコトニナル 馬鹿ナ話シダ 午後現圖引キ

清平徴兵検査ニ行ク 第二乙種トノコト

母、信太郎二人八度バカリアリ熱ガ出テ寝ル

▲▼137ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月10日(木)

天気 晴風

西風強シ 伊藤西氏金請求ノ爲メ電話シタラ母死亡明日告別式トノコトニ取ルノガ出ルコトニナツタ。タイムスへ朝返信料付テ送金シタカ上出宛ニヤッタガツヒニ返事ガナカッタ。夜境君ニ電話シテ明日百円ダケ都合シテ貰フ様ニタノム

今日木曜会ニ出席 出席ナイノデ電話ヲカケテ奈良原氏ガ行ツテ居ラレタノデコトワツテ居ク 運送店ノ小切手ノ期日デモアリ電話料ガ今日入レネバ止メルト云ツテ來テ居タリ米ガ無クナリカケテ居ルノデ氣ガ氣デナカッタ

鳥飼氏來 晝夜食事シテ帰ル 例ニヨツテ二三品物ヲ持ツテ帰ル

▲▼138ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月11日(金)

天気 晴

風止ム 内田ノサルニ全員カヽラセル 内田ヲ呼ビ検査願書ヲカキ發動機ヲ請求スモシ間ニ合ワナクテモ機体サエ出來レバ金ヲ入レル様ハツキリキメテ居ク

鈴木上京サセ裁判所デ資格証明ヲ取ラセル

境君昨夜タノシダノガ出來タトノコトデー一寸イキ

タイムス今日モ返ナシ 請求スルニモ電報料モナシ

▲▼139ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月12日(土)

天気 晴

日本飛行學校ノ格納庫開キ 信太郎ヲ學校ノ歸リニ代理ニヤル

佐野利一來 大分嚴重ナ話シデアッタガ結局月末五十円ヤルコトニシテ小切手ヲ渡ス

他人へ渡サナイコト

菊池正次手續キノ書類ヲマトメサセル

軽飛胴体ノ木材重クナリソウデ心配。ソレニシテモ獨逸ノクレムノコトヲ思エバ出來ソウ

ダガ



▲▼140ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月13日(日)

天気 雨

春雨初夏ラシキ雨 局デ借りタクラーク機ノ説明書ヲ写ス 三時頃迄カヽル  
夕方奥山君サル整備ノ件ニツキ來場 話シ後夕食ヲ共ニス ソコニ安岡ガ來タノデトボ  
シイ中カラ酒ニ升ヲ取り十一時迄ノム

▲▼141ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月14日(月)

天気 晴

昨夜ノミ過ギテ気分悪ルカッタガ六時十分宅ヲ出テ電車ニテ金町ヨリ荒川沖ニ行ク  
井上氏安藤氏木暮氏梶原氏御原代理氏 以上下見終ッテ古川ニテ協議 明日自分  
代表トナルコトトシテ價格ヲ決定 ○時廿分ニテ帰途ニツク 上京 東日ニヨリ羽太氏  
ト面會 十年式修理箇所調ベニテ修理ノコトヲ決定 明日平田出張スル由。夕方帰宅

▲▼142ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月15日(火)

天気 晴

鈴木ヲ横須賀ヘ入札ニ出張サセル  
明日ノ試験ノガソリン無ク安岡ヨリ作業会社ニ話シ八カン取ルコトトス  
加藤氏來 明日仙台台ヘ行ク由 菊池ノ件依頼ス 印紙代立替テ呉レルトノコトデアッタ。  
西田來 胴体モワイヤー、ユルンデ居タ  
奈良原氏來 明日デモ金少々必要トノコト  
宗里対竹崎甲ニフ件三百円デ折レ合セル様タノム

▲▼143ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月16日(水)

玉宮木目田両氏來場 境君來 十年式合格 其他内田サル、一三、鈴木アブロ内部  
検査全部終了 宗里ヘ行カレル  
鈴木横須賀ノ入札昨日終ラズ今日モ行ク 井上氏モ行ツタ由 千四百五十円 初メノ  
予定ノ通りニテ落札ス

▲▼144ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月17日(木)

天気 晴

局へ出頭 境君ノ堪航証江口君へ間ニ合セテ呉レタガ玉宮氏ノ報告ガ出ズ明日ニシテ呉レトノコトデ境君モ今日ハ不在ニナルカラ明日ニシテ呉レトノコトデアッタ

材料規格ヲ写シフオカーノ分ヲ借りテ帰ル

東日ニ、十年式ノ見積書ヲ提出 飛行協会ニ行ク 相羽先ヅ來 奈良原氏ヲ呼ビ木暮君局へ課長ヲ呼ビニ行ク 五時頃田中、梶原、鈴木、飯沼、高橋參集。伊勢谷課長小野少尉ト会谈 次第ニ打解ケテ、競技会ハ皆大ニ必要ヲ認メル 実行方法ニツキ各方面ヲ集メテ意見ヲ聞キ金ノ出所ヲキメタ方ガヨイトノコトデア散会 山水楼ニテ夕食 帰宅十一時

▲▼145ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月18日(金)

天気晴

境君トタイムスへ鈴木上京サセル

昨日借りタ材料規格表今村ニ写サセル

▲▼146ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月19日(土)

天気晴

昨日境君又金取レズ明日曜日持參スルトノコトデアッタ由 タイムスダケ受取ツテ帰ル 中台二十五円ヤリ米ト買物デ五六円残ル 明日

今年マダ成田山へ一度モ參詣シナイノデ明日詣ル予定ナリシモ境君來ルトノコトニ午後ヨリ恵美子仁三郎ヲ連レテ行ク 參拜ヲ終ツテ公園ヲ散歩シタ 今日ハ池ヲ隈ナク歩イタノデ大變広ク感ジタ 六時帰宅 往復五時間ヲ費ヒヤス 夜ハツカレヲ感ジテ九時頃眠ル

▲▼147ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月20日(日)

天気晴

待チニ待ツタ境君父子晝頃來タガ小切手デ式百円ダケ。ドウニモナラズ今日モ又同ジヨウナ借金取リノ云ヒワケ 頭ガイタム 清平モ月謝ヲ待ツテ居ルコトデアロウ

▲▼148ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月21日(月)

天気 曇少雨

信太郎學校ノ歸リニ小切手ヲ現金ニカエサセル

式百円ノ分配ニ大骨折リ 電話会社交渉シテ半額ダケニス 太田二十五円ヤツテアトハ  
ホシノ小遣ダケ  
内田昨日帰郷シタトノコトニ金電送方打電シタガ返ナシ  
クラブヨリ電話ノ金支拂ツテ呉レテ此方ハ一安心  
ドウモ近頃右前頭部ガ変ニサツタイアツクサレル様デ忘レポク、ツカレ(頭ガ)安ク晝デ  
モ眠クナル。ツマラヌ金ノ心配ノ爲メト思ワレル  
伊藤西氏電話デ請求シタガ不在 高井氏ニ話シテ居ク

▲▼149ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月22日(火)

天気 曇風

信太郎二手紙ヲ持タセテ伊藤西ヘヤル 例ニヨツテ不在 明日又ヤル  
晝頃太田ノ父來 話シガ長ク三時頃帰ル。然シ旅行ズキナ處ガ氣ニ入ツタノト旅行中  
ニ色見タコトヲ帰ツテ小供ニ実行サセル處ナドハ大ニ参考ニナツタ。老人トハ話シスベキモ  
ノ  
日本一周飛行競技ノ予定ヲ作ル

▲▼150ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月23日(水)

天気 曇風勝ち

フオカーノ規格書出來ズ 自分モ朝カラ手傳ヒ自分受持チハ夜迄ヤツテ出來タガ今村  
ノガ大變オクレテ明日ハ持ツテ行ケナイ

▲▼151ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月24日(木)

天気 晴後小雨

上京 局ニヨリ 棟鉄板ノ試験成績聞イタガ分ラズ  
石田氏が居ラレタノデ、タイムスノ甲三制限付(曲技ニ使用シ得ズ)ニナツタノハ左下翼  
ノ爲メカト聞イタガ全体古クナツテ居ル爲メト明言セラル  
東日ニテ十年式注文書ヲ貰ヒ式百円内金ヲ受取リライジクサン四月分ダケ拂フ予定  
五月分モ最(ママ)非入レテ呉レトノコトニ二ヶ月分支拂ヒ水野(電通分)ハ四日分五円  
支拂フ 協会ニ行ク 内田君來 十円ダケ渡ス。局カラ出席者ナク小野氏不在ニテ井  
上氏ト會談 自分ノ案ヲ第三案トシ(日本一週飛行競技)次回ハ通信省ニ寄ルコトニシ  
局ノ都合ハ遠藤君ガ聞キニ行クコトトナル

▲▼152ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月25日(金)

天気 曇り晴

在所 作業方針ヲ定メ 一日ノ検査機ヲキメル

▲▼153ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月26日(土)

天気 朝少雨後晴

明日ノ準備ヲナス 注文スルモノハ注文シタガ出席返事ノナイノガ上平サン 児玉サン、志賀サン 外ハ大部分欠席 僅カニ衣笠氏ダケデアッタ 婦人飛行士坐談会ニ上仲出席

鈴木伊藤西ヘヤル予定ノ處手紙來 六月五日頃ニシテ呉レトノコトデ其日間違ヒノナイ様特ニ手紙ヲ出サセル 輕飛デユルミン不足分川西ヘ注文ス

▲▼154ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月27日(日)

天気 晴

上天氣デアッタ 信太郎ニサンドウイチヲ東京ヘ買ヒニヤリ金太郎ニ天プラノ準備ヲサセルナド用意ヲシタガ來タノハ奈良原氏二人衣笠氏四人ダケデアトハ工場トクラブノモノバカリ。不愉快デアッタ

内田予定通り帰ツテ二百円受取ル ホットシタガ最小支拂ノ半分ニモ足りナイノデ又苦シミガ一ツ増シタ

▲▼155ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月28日(月)

天気 晴

局ヘ拂下ノ金四十九円持参

長岡氏ノ銅像除幕式ニ参列 実ニヨク出來テ居タ

奈良原、竹崎氏ニ會ツタノデ第一ノ甲三ノ件今月中ニ話シダケデモ極メテ居ク様タノム

東日ニヨリ一日検査ヲ受ケルコトヲ話シテ居ク

上仲ノ後援会ニ今日會ツテ呉レトノコトデ協会デ待ち合セルコトニナツテ居タノデ電話シタガ來ナイトノコトニスグ帰宅 四時半ノ自動車デ帰ル

▲▼156ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月29日(火)

天気 晴

今日ハモウ一銭モ金ナクナリ、女工ノ親ガ來テ談ジラレタノニ六閉口。ムシロナサケナクナル

圖面函ヲ整理ス

輕飛胴体組ヲ見ル

▲▼157ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月30日(水)

天気 晴

記事ナシ

▲▼158ページ▲▼ 昭和9(1934)年5月31日(木)

天気 晴

今日ハドウシテモ最低五十円ばかり入ルノデツヒニ内田ニサルノ發動機ヲ賣ルコトニ決シ百円デ話シキメ品造。ソレ、支拂ヒニアテル

鈴木伊又手紙デ自今毎月必ず正確ニ給料ヲ貰ヒタイ、全体ノ収入カラ見レバ、ソレ位出來ナイコトハナイト書イテアッタ。大ニシヤクニサワル 馬鹿者ガ

▲▼159ページ▲▼ 6月

輕飛速進

▲▼160ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月1日(金)

天気 曇リ晴レ

氣ツカワレタ天気ガヨクナリ検査ハ順潮ニ終了 本日ハ鈴木正ノアブロ完成、空中作業ト大毎十年式内部検査終ル

サルトベニヤ板來 サル發動機スグ分解ス 案外内部ハヨカッタ

田端ナルモノ來 サルガホシイトノコトカラ内田ノサルヲ譲ラセ内田ニ二十年式ヲ買ワセル事ニ考ヘ相談スルコトトス 但シ千円ダケシカ金ガナイトノコトデアッタ

昨菊池カラ十年式賣却 俣委任状ガ來タガ印紙ガ張ツテナカッタノデ加藤氏ニ聞キ、ソレハソノマ、預リ先キノ登録申請ト譲リ渡証ヲ請求シテヤル

▲▼161ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月2日(土)

天気 晴

温ナ日デアッタ 朝鈴木伊ヲ呼び一通リ話シテ居ク。聞イテ見レバ月給取りラシイ  
將來ノ考ヘヲシテ居ル

所沢ノ高橋ツヒニ來ラズ。内田夜來 サルト十年式交換ノ件ホゞ話シマトマル

午後三時頃船橋ヨリ電話アリ 今島村ガ甲三ニテ墜落即死シタトノコト スグ四五人  
連レテ行ク。マダ現場デア醫師ガ手當中デアッタガ、ハンドルガムネヲツキヌイテ居ルノデ  
アッタ 日ガ暮レルトスグ兄ヤ叔母ガ來初メ校葬トシテ告別式ヲヤルコトニシテ葬儀屋  
ヲ呼ンデキメタガ郷里デアルコトニナリ、明日火葬ニスルコトナル

鈴木局へ変更登録申請ト東日ヘヤル 縣、境君來 練習費ヲ三十円ニテキメル 安岡ノ  
教官料其ノ内ヨリ支拂フコト

◆▼162ページ◆▼ 昭和9(1934)年6月3日(日)

天気 雨風

高橋弥ノ助來 鈴木アブロ内金四百円入レ岡山津井氏へ送ルコト 引換証爲替付不拂  
ノ場合ハ四百円ハ返戻セザル事ニテ決定 四百円受取ル

昨日東日ニテ鈴木式百円受取ル

十時過ギヨリ宗里へ行ク 万事準備OK 二時僧、來。三時出棺ス 自分ハ町ノ途中迄  
送リテ東方デア注文中ノ名札ト判ヲ取り一先ツ宗里ニ歸リアト仕末ヲ相談シ、少シ金  
ガ不足トノコト二十五円貸シテ歸ル

田端君へ内田ノサル讓ル件昨日内田ガ大体承認シテ居タノデ明日十時契約スル様ニ取  
キメテ居ク

誕生日ニテ祝ス

八時頃奥山君安岡鈴木伊ト來 酒三升 一尺バカリノ鯛三好持參 十一時頃迄ノム

◆▼163ページ◆▼ 昭和9(1934)年6月4日(月)

天気 晴薄曇リ

昨夜伊藤西氏ヨリ七日ニ金延期シテ呉レトノコト電報アリ。今日麻布ヲ買ニ鈴木上京  
サセル 明日東郷元帥国葬日ナノデ休業スルノデ所員ニ正憲ノ内ヨリ百円借りテ小遣  
ヲ分ケ清平ノ月謝ニヶ月分信太郎ニ東京迄持タセテヤル 徳治ノクツモ破レタノデ信  
太郎ト共ニ買ワセル

正憲アブロ積出シ引換証受取ル 六時頃讀ム

奈良原氏へ十円持參サセル サツキ受取ツテ來ル 昨日約束シタニ内田來ラズ 十円  
千三百円 十年式トズブ取り替ナラトノコトニ破談トナル

▲▼164ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月5日(火)

天気 薄曇り

東郷元帥國葬日

国葬ニフサワシイ天候 午前中ラジオオデ国葬儀ノ御模様ヲ聞ク。アナウンサーノ戻マ  
マ声ニツヒサソワレテヤハリ泣ク

木下君來 塗料ノ金今日コレカラ行キマストノコトデアッタ

▲▼165ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月6日(水)

天気 薄曇り

鈴木事ム員勤勉ニナル 現金ヲ男ダ

夕方三塩熊太ナル人來 八丈飛行ノ予算書ヲ作ツテ呉レトノコト 約束シタガドウモ  
インチキクサイ

正憲母夕方來 今井ノ五十円ト外ニ家賃十円持ツテ來ル

今井へ百元返金ス

千葉ノ花環屋ガ金ヲ取りニ來タノデ五十五円支拂

▲▼166ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月7日(木)

天気 曇晴

今日カラ朝練習 縣、境岡君本日ヨリ十年式初メル

鈴木伊藤西集金ト買物 ライジックサン交渉ニヤル アトへ伊藤氏ヨリ二三日延バス様  
電報來

作業会社カラ五十円最(マ)非貸シテ呉レト安岡カラ話シアリシモ塗料ノ金作業会社  
ヨリ貰フ筈ノヤツアベコニナッタガ、木下ガ呉レタラト取りニヤツタガ、コレモダメ 漸ク  
廿五円ダケ都合シテヤルコトニス コレデ正憲ノ金ト竹中ノ金全部ナクナル

夕方遠足ノ爲メ正憲カラ呉レタ家賃十円デ惠美子ノ服ヲ買ヒ二千葉へ行ク 外ニ二三  
買ツタラ丁度ナクナッタ

▲▼167ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月8日(金)

天気 晴

夕方遠藤君明後日ノページェントノ件ニスキ來場 安岡ト鈴木菊雄出ルコトニ決定

▲▼168ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月9日(土)

天気 晴

熱イ位ノ夏ラシイ日ニナツタ

第一ノ倉持君金五円持参 受取ルツヒデニ写真ノ件ニツキ貸シテ貰エナイラシイノデ何シタモノカトノ相談アリ 午後散髪方々 船橋ニ行キ妻君ト青木ト二人ニ協議シ根本策トシテ写真機ト飛行機ハ貸ス事 事ム所ト現像室ハコトワルコト 料金ニツイテハ青木君ガ研究シテキメルコト 以上ヲ決定シテ帰ル

今日ハエミ子ト仁三郎ノ遠足ニ祖母ガツイテ行ク 停車場へ五時集合ト云フノデ三時カラ起キテ準備シ四時ニ出ス 遠イノデ帰りハ家内ガ向ヘニ行キ自動車デ連レテ帰ル

▲▼169ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月10日(日)

天気 晴

霞ヶ浦ノ委託學生ガ見學ニ來ルト云フノデ江戸川飛行場見ニ行クノヲ中止ス。十時頃來 晝前帰ル

午後草賀ガ二人連レテ來テ消音飛行機ノ見積リヲ見テ呉レトノコトデアッタガ二三寸ノ至極カンタンナ圖ダケシカナイノデ製作圖ヲ作ツテ來ラレタヲ見積リヲスルト返事シテ帰ス

▲▼170ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月11日(月)

天気 晴

終日在所 仕事ハカドラズ

午後現在ノ航空界ヲ、マン晝化シタ案文ヲ作ル

▲▼171ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月12日(火)

天気 晴少曇

奈良原氏來場 十時頃ヨリ共ニ江戸川飛行場予定地ヲ見ニ行ク 巾三百米 長サ五百米ハ完全ニ取レル タ、南北ニミジカインノガ一寸悪イガマツヨサソウデアッタ

江戸川区役所ニ行ク 区長不在 土木課長ニ面會ス 大ニ乗氣ニナツテ來テ実現確實トナル

帰途作業会社ハ金ヲ取りニヨツタヲ酒ヲ出サレテツヒニオソクナリ大分ヨワサレタ。金ハ勿論クレズ

鈴木午後上京 局へ行ツタ由

▲▼172ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月13日(水)



天気 曇、晴

東日十年式發動機廻シニ來ルトノコトニ中央翼ヲ取付サセタリラジエター、オイルラジエターカバーヲツケサセル。十時頃須田君來。晝過ぎ羽太氏來。晝食ヲ共ニス。国粹ノ森本氏來。飛行機發送シテホシイ、伊藤西氏ハ話シガツイテ居ルト云ワレタトノコトス。グ電話ヲカケテ伊藤氏ト話シ十五日ト二十日ニ呉レルトノコトダガ、ソレナラ小切手ヲ今日貰ヒタイト云ツタ處今日ハ高井ガ居ラナイカラ明朝十時ニ渡ストノコトニ承認ス。荷造費廿五円預ル

試運轉終リ發動機ヨク五時ニテ皆帰ル  
川西ヨリ取ツタデラルミン今日引取ル

▲▼173ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月14日(木)

天気 晴

午前伊藤西氏ニ行キ種々交渉ノ末明日ノ協会奨励金百二十円ノ委任状トローン八十  
一台サルタンク一台ニテ百十円 残りノ内百二十円ヲ廿九日付小切手 アトハ値引ニ  
テスツカリ貸借関係ヲ終ル 保管ノ破損機体ハ貰呉レルトノコト。新翼ダケ返送スルコ  
ト

局ニ行キ山田サンニ藤原受験ノ件安藤ニテ受ケタイコトヲ諒解ヲ得。モングース拂下ノ  
コトヲタノミ飛行協會館ニ行ク、奈良原、小暮、相羽、鈴木、梶原、遠藤集リ本年小  
規暮(ママ)ニテヤルコトニ協会へ交渉スルコトトシテ終ル

▲▼174ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月15日(金)

天気 曇リ

曇リタレドモ暑カッタ 朝鈴木菊ヨリ十五円今日夕方返ス約東デ借り奈良原氏へスグ  
持タセテヤル。之レデ氏モモーニングデ出席出來ル譯デアル

十一時半自動車ニテ高川ヲ連レテ出ル 連(ママ)中徳永氏ト同車ス。評議員会ニ出席  
アト奨励金授與式ヲトビコウリナク終了 後午後五時ヨリ輕飛クラブノ例会ヲナス  
今日ハ飛行士連モ皆出席シタノデ十六名ニナツタ。児玉氏終了後來 サラニ相手ヲシ  
タノデオソクナル

日本飛行クラブモ一寸集リ協会カラ競技会ニ対シ非公式ナガラ約二千円出スコトニナ  
ツタノデ今年小規模ノモノヲヤルコトニ決定 日本飛行學校ニ立案ヲ委(ママ)願ス

自分ハ伊勢谷課長へ送ル銀製模型ノ注文ヲ引受ケ奈良原氏ト共ニ行ク 明日見積リヲ  
取ルコト奈良原氏ニ依頼ス

霞ヶ浦拂下引取リ太田出張サセル

▲▼175ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月16日(土)

天気 雨

久シ振リデトウ、本降ニナツタ 木々ハヨミガエタ様ナ色ニナル。百姓モ嬉(ママ)ンデ居ルコトデアロウ

昨日ノ金ヲ少シヅ、分ケタラタ方ニナクナツタ 上仲昨夜帰ラズ今日午後帰宅 奈良原サンヘモ行ツテ來タラシイ。帰ツテ來テシキリニ今迄悪ルカッタカラ、改メルト泣イテ云フノデ、ユルスコトニス モト、改メサセル爲メニ、シカッタノダカラ

伊藤西氏ヘアブロ翼送リローントサルタンク引取ル 之レニテ伊藤氏トノ關係ハ全然ナクナルアトハ廿九日ノ 手形小切手ダケ。其小切手ハ今日運送店ニヤツテ塗料ヲ引キ取ル

▲▼176ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月17日(日)

天気 晴

終日在所 上仲女流飛行士クラブ創立ノ爲メ上京

午前中庭ノ手入レヲ行フ 朝顔ノ植替モナス

▲▼177ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月18日(月)

天気 晴

ステキナ天気 野呂君十一時半大坂へ出発 タゞチニ打電シテ居ク 橋本ニ照(ママ)介ヲ呉レトノコトニ手紙ヲ添エル ツヒデニ利子ノ件コトワル

大坂ノ兄カラ拂下材ヲ引受ル様取ハカラツテ呉レトノコトデアッタガ之レハ少量ナノデ川西へ照(ママ)介状ヲ送ル

クラブ休ミ

昨日モ今日モ一度ツ、フト頭ガ貧血デモ起シタ様ニナツタ ホンノ一時デスグ何ントモナイガ此前六六注射前ノ鼻ガ悪クテナツタ時ト氣持チガ少シチガウ。注意ヲ要シハシナイカ

▲▼178ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月19日(火)

天気 晴

朝奈良原氏來 江戸川飛行場出頭 願書ニ記名捺印ヲナス。上仲ノ飛行計畫ニツイテノ趣意書モ提出ス

正憲飛行機ノ残金六百元到着 受取ル 佐藤ニ持タセテヤルツモリノ處ツヒデニ譲リ

渡書ヲ取ルノガ、鈴木伊書クノガ間ニ合ズ延バス

三谷ノ代引ノ金四十円モ來ル 之レハ航空神社材料代トシテ充テ、ヤル予定ナリシモ今日米ヲ取ル必要アリ取ツテ支拂ニアテル タチマチナクナル

▲▼179ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月20日(水)

天気 雨風

終日風雨強シ

上仲ノ日本一週飛行計畫案ヲ作ル 但シ本人ニヤラセル爲メ参考書ヲ渡シ自分ノ作ツタノハ見セズニ居ク  
午後東日胴体ノ標式紙張リヲ行フ

▲▼180ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月21日(木)

天気 雨後晴

廿七八日頃受檢ノ予定ヲ發表シテ仕事ノ方針ヲ定メ急ガセル 受檢機完成三台 内  
部二台 外ニ發内一台 作業会社本日差押ヲ受ケルトテ安岡ノ處へ写真機ナドトラッ  
クニ一台預リニ來タ由。尚サルムソン機體來ル 取引ニ來ル様電話ス。木下住所不明ニ  
テ困ル 明日サガシテ受檢ノ件通知スルコト

正田マリエ夫人來場 グライダーデ飛行機ニ引カセテ二千米突位カラヤリタイトノコ  
ト 賣名家ダ

上仲正田ノ上京 女ノ洋服ヲ作ル方法ヲ取りニ行クトノコト 明日板野通信次官ニ奈  
良原氏ト會フ爲メ今日中ニ計畫ト予算書ヲ作ル様昨日参考書全部與へテ居イタノニ  
出來ス。ツヒニ作ツテヤル

▲▼181ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月22日(金)

天気 晴

航空局新旧監理課長ノ觀(ママ)送会ヲ日本飛行クラブガ協会鳩ノ間ニテ行フ 三時  
頃終リテ局ニ行キ玉宮氏ニ検査日取り取キメ廿七八日トス 時間ヲツブシテ四時半東  
京駅ニテ清平ニ會ヒ廿一円ヤル

今日ノ金ハタンク、ヤランブランヲ拂下四十円出來タノデアッタ。奈良原氏ニ廿五日拂  
下ノ金ヲ義勇ヨリ貰フコトヲ話シテ居ク

▲▼182ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月23日(土)

天気 晴

朝上仲帰り又腹ガイタカッタノデ泊ツタト云ヒ訳ケ 昨日ノ板野次官ト会見ノ報告ヲ聞ク。昨夜ノ電報モ見セル 今朝來レ(ママ)クレトノ電ナノデ又上京。ツヒデ二局デ作業会社ノ標式(ママ)ヲ聞カセル

菊池正次へ十年式千円デ賣ルカト打電ス 夜返電アリ「イサイセウチヨロシクタノムキ」四時二十分奈良原氏ヨリ電話アリ上京 義勇ニ行キ前ノ貸金一切ヲ五百円今日中ニヨスコト 式百円内金受取り厚木ノ格納庫出來ル迄預ルコトニ話キメル。帰ハ新橋迄開通シタ地下鉄ニ乗ル

帰宅後入浴夕食 十時床ニ入ル

▲▼1833ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月24日(日)

天気 晴

午前中工場ニ出テ居タガ、ムネガ悪ク堪エラズ十時頃床ニツク 醫者ヲヨシダガ、大シタコトハナイラシガ、下リモ上ゲモセズ腹カラムネへ、コミ上ゲテ來ルノガ氣持チガ悪カッタ 終日床ニ居ル 絶食ス

▲▼184ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月25日(月)

天気 曇少雨

朝フラ、シタガ、野菜スープヲノシダラ足ガシツカリシタ

川辺、鈴木、呉ト八時半ノ自動車ニテ所沢ニ行ク 十一時半着 木暮氏其他オイ、集リ十三名トナル 入札打合セラナス 川辺アンリオ一台優先権ヲ呉レトテ皆ノ同情ニヨリヤルコトニス 野田又井上氏ヨリ紹介アリ 特ニ一台割當アル。下見スベテ程度アリ ローン八十ノ部品ハ全部新品 入札モ順潮ニテ予定通り終ル 一人鈴木菊雄、第七號ニ式百五十四円ト入札ス 之レハ三十円位ノモノデアツタガ同人頭ガドウカシテ居タラシイ ヤット自分ガ頼ンデヤツテ六十五円ニ落札サセテ貰フ 角ニ上ニ帰り分配シ夜九時半迄方、ル。最后ニ國粹ガ川辺野田ノ優先権問題ヲ持チ出シテ自分自由入札ヲスルトノコトカラ皆持テ余ス 自分止ムナクロヲ聞イテヤット高橋ノ程度ノ悪イ分ヲヤリ繰ツテオサメ十時ノ電車ニテ帰ル 十二時半津田沼 タクシー十円渡ス 鈴木へ百円奥山へ五十円貸ス

▲▼185ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月26日(火)

天気 曇晴

縣、黒沢、境十年式、高川アンリオ拡張 山田、斎藤氏來 無事終了。山田氏ヨリリン

クス、三式ノ書類借りル

木下アブロ 大毎十年式完成 明日試飛行 明日検査廿八日トナル

木下來 川辺氏ヨリ話シアリ 廿九日百円 一日百円電送スルカラアブロ渡シテホシイ

トノ希望 承認ス

上仲又昨夕ニ帰ラズ今朝オソク來 奈良原サンへ行ツテ來タトノコト 夕方又長山サン  
ヘヤツテ呉レトノコトデアツタ、ガ許サズ

昨夜ハ気分ヨク元氣モアツタ。モノヲ食ハナイノモヨイモノラシイ

晝宗里夫人來 主人ノカタミ分トシテ洋服ノ上着ヲ呉レタ。外二三話シノツヒデニ注  
意ヲ與ヘル

▲▼186ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月27日(水)

天気晴

今日ハ暑イ日デアツタ 廿九アツタ由

明日ノ検査ノ爲メ準備多忙 十年式アブロ試飛行終了 サル検査ニ着手

作業会社タレモ來ラズ 奥山君昨日所沢デ入院シタトノコト 立替ノ五十円這入ラズ

閉口

明日霞ヶ浦鈴木伊ヲ出張サセルコトトス

今日ハ夜右横頭時々ハゲシク痛ム。ノベツ來ルノデ晝頃少々横ニナル タチマチ眠クナル。

ツカレラシイ 夜モ本ヲ讀ムノヲ止メテ眠ル

呉拂下ノ禮ニ夕方金包ヲ持ツテ來タガ返ヘス アトデビール一打サイダー一打トゞケテ

ヨコシタ

上仲愛国婦人会へ会長ト行ク爲メ朝出カケル

▲▼187ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月28日(木)

天気晴

五時起床 今日ハ頭ノ痛ミモ大分ウスライダ 朝食後船橋ニ行キ実印ヲ注文シ散髪シ

テ作業会社ニ行キ五十円受取りガソリン屋ノ拂ヒラシテ帰場

検査南波玉宮両氏來 東日ヨリ須田、羽太両氏來ル

東日十年式 木下アブロ、菊池改メ奈良原十年式完成 豊田アブロ内部 内田サル發

内部終了ス 四時過ぎ帰ル

奈良原霞ヶ浦下見ニ鈴木伊出張サセル

▲▼188ページ▲▼ 昭和9(1934)年6月29日(金)

天気晴

今日モ左頭時痛ム 朝少シ下痢ス 食物ニ用心ス

鈴木伊横須賀行

奈良原氏晝過ぎ來 義勇ノアブロ、三型十年式ト三台ヲソロエタイトコトニ東北ノ分ヲ賣ルコトヲ依頼ス 上仲昨日一昨日二日遂行シタ由 今日マダ帰ラズ、夕方四時頃帰ル

川辺ヨリ木下分送金ナク午後川辺宅方木下宛來ル爲メニ金受取レズ

東日明日金受取ルコトヲ依頼ス

夜木下百円爲替券ニテ持参シ内十円貸シテ呉レトノコトニ現金ニテ貸ス

◆▼1891ページ◆▼ 昭和9(1934)年6月30日(土)

天気晴

鈴木午前中休ム

辻本坂本両氏來場 午前中ニ終了 晝食後船橋宗里へ行ク 自分同道ス 昨日奈良原氏ヨリ托サレタル青木君へノ義勇ヨリノ謝礼ヲ渡ス 同所ノ内部検査ヲ終リ二時半ノ自動車ニテ帰ル

東日義勇ノ金信太郎受取ツテ帰ル 五百円ヲ皆ニ分ケ其他ヲ他ノ支拂ニアテル

鈴木正憲正(ママ)死ノ境ダカラアト式百五十円今日中ニ最(ママ)非呉レトノ手紙三本モ一時ニ來ル 少々シヤクニ、サワツタノデ、ソシナニ皆使ツテシマツテハアト困ルダロウカラ入用ノ時ニ渡スコトニシ様ト返事ヲ出シテ居ク

木下十時半出發 途中ドコカエ降りテ居タモノカ四時四十分ツイタトノ入電アリ

◆▼1900ページ◆▼ 7月

軽飛速(ママ)進

◆▼1911ページ◆▼ 昭和9(1934)年7月1日(日)

天気晴

女子飛行士クラブノ發会式ガ飛行館デ航空時代ノキモ入デ行ワレルノデー時半ノ自動車ニテ上京ス 予定ノ三時ガ三時半ニナツテモ亜細亜ノ女連ガ來ラズ四時頃其マ、開會シタラヤガテアトカラ三名來タ

奈良原氏ト帰途銀坐ヲ歩イテ富士クリームヲノミ上仲ノ運動方針ヲ聞イテ帰宅ス

黒沢青森へノ飛行ノ爲メ本日洲崎迄空輸ス

夜川辺木下ヨリ無事スンダアス○オクルトノ入電アリ  
横尾母來 横尾へ帰シタコトニ謝罪シテ將來氣ヲ付ケサセルカヲ上ニ練習ハアキラメサ  
セタカラ發動機工ニシテヤラセテ呉レトノコトニユルスコトニシタガ内田ノ方ガ解決スル迄  
返ス

◆▼192ページ◆▼ 昭和9(1934)年7月2日(月)

天気晴

東日機午後三時羽田へ空輸ス 岡君操縦 須田君同乗  
実印変更届ヲ當役場及大坂浪速区役所へ届出ル

三日ノ記事

内田ノ助手來場ヲ禁止シタノニ今日モ來テ居タノヲ安岡ニ注意サセタ處何ニカト文句  
ヲナラベルノデ、カンニサワリツヒニ帰レトドナリ付ケテ出ス

◆▼193ページ◆▼ 昭和9(1934)年7月3日(火)

天気晴

黒沢洲崎ヨリ仙台ニ着陸ノ上青森ニ飛行ス 午後六時三十分無事到着

岸ノ家ヲ呼ンデ生垣ノ手入レヲサセル

川辺ヨリ木下ノ百円到着

坂本辻本両氏來 鈴木アブロ胴体及内田サルポールヲ見テ船橋ノ第一へ行カレル

津田沼船橋ノ飛行學校合同案ヲ作製ス

十時頃上仲帰ル

◆▼194ページ◆▼ 昭和9(1934)年7月4日(水)

天気晴

青森天候不良ニ付黒沢帰ラズ

中君カラ聞合セテ居イタ、タクシーノ料金ヲシラセテ呉レタノデキロ當リ日本貨ニ直シ  
自分ノ計畫ト比較研究ス

奈良原氏ニ電話ニテ義勇十年式如何ニスルカラ聞合ス 出來レバ明後日ノ入札ガアルノ  
デ手金貳百円入レサセル様タノム

長野ノ矢野君來 練習ヲサセテ欲シイガ特別値段ニシテ呉レトノ奈良原氏ノ紹介モア  
ツタガ工場ノモノデサエ規定通り支拂ツテ居ルノデアアルガ特ニA級並ニ一時間十七円ニ  
スルコトニシタガ、練習費ヲアト金ニシテ呉レトノコト 之レハコトワル

◆▼1956ページ◆▼昭和9(1934)年7月5日(木)

天気晴

上京 局二行キ木下願書提出 内田サル標式貰フ 協会二行 桂林奨励金受領書提出  
千葉支部ヨリノ支拂書ヲ貰フ

三時日比谷トウ、亭ニテ上原閣下ニ會見 軍部ガ真ケンニ飛行士ヲ多数欲シテ居ル  
ヤ否ヤ 事実然リトスレバ民間ヲ大別シテ名古屋、日本、伊藤ノ三ツニ合同セシメ一人  
三三千元ヅ、補助シテ養生セシムルコト 財原(ママ)ハ製作会社注文機ヨリ一台千円位  
ヅ、値下セシムレバ分ケノナイコト 右ニツキ今夜アタリ陸軍大臣ニ會フカラ様子ヲ聞イ  
テ見ルトノコトデアッタ

義勇飛行会ニ行キ菊池十年式賣ヲ壱千壱百円ト主張セシテ決(ママ)局手取り九百五  
十円 但シ定期ノ際發動機交換シテ残ガイハ當方へ貰フコト 之レヲ約五十円ト見積リ  
手取り千円 アトノ百円ハ義勇へ寄付スルコトトス 但シ之レノ五十円ハドウモクサイ五  
十円デアアル

◆▼1966ページ◆▼昭和9(1934)年7月6日(金)

天気晴

所沢拂下ニ出張 十二時着 奥山君ヲ齋藤病院ニ見舞フ アス退院スルトノコトデアッ  
タ

サル發動機十九台 甲四三台 其他写真機部品等 部品ガ大變予想ト違ツタガ三百  
二十九円ニテ田中名議(ママ)ニテ取り全部二分ケル 自分ノ處へハサルニ台 甲四一台  
取ル 増田ガ一昨日來テ写真機ヲ欲シガツテ居タノデ兎三角三個取ツテ居ク  
全部支拂ヒロナシ十時帰宅ス

◆▼1977ページ◆▼昭和9(1934)年7月7日(土)

天気晴

今日モ熱イタタ日デアッタ

吉田重雄來 田中ニアイソヲツカシタカラ止メタイトノコト 安岡ニ報告サセテ希望通  
リニサセル

夕方佐々木、山本、ハー坊三人ニテ來 写真機ノ件デアッタノデ昨日引受ケタ分ヲ讓  
ツテヤルコトニス

川辺ノ写真機モ聞イテ見テヤツタガ小谷ノ方へ聞イテ入ラネバ賣ルトノコト 但シ一ツ  
百円位ナコトヲ云ツテ居タ。アキレタモノダ 鈴木立替金四十九円帰ル 作業会社來



ラズ 千葉へ桂林ノ金取りニヤツタガマダ來テ居ナイトテ受取レズ

◆▼1988ページ◆▼ 昭和9(1934)年7月8日(日)

天気晴

日本航空學會ノ初総務会アリ上京 飛行館ニ行ク 遅レテ奈良原氏來。晝食ノ時上原氏ト会见ノ模様及學校ニ対スル自分ノ所見ヲ話ス  
明日厚木行キハ中止ス。一時頃工場ノ電話ニテ大坂ノ兄ガ來テ居ルトノコトニ岡田氏トノ会见ヲ急ギ靈南坂協會(ママ)ニ行キ岡田氏ニ会ヒ五十円渡シ麻羽布二十二米ヲ受取ツテ帰宅

協会ニテ増田來 写真機三個共讓ル 金廿一円ヨコス 外ニ包ミ金銀ダト云ツテ十円ヨコス

帰宅後久シ振リデ大坂ノ模様ナド聞ク 來京ノ予定ハ手紙ニアツタ通り飯沼トノ取引デアツタ。ダメカモ知レヌガ明日行ツテ見ルコトトス

◆▼1999ページ◆▼ 昭和9(1934)年7月9日(月)

天気晴

所沢引取り兄、高川、吉田ヲ連レテ行ク 倉庫ガ三ヶ所ニナツテ居タノデ五時頃漸ク終ル 帰途兄ト飯沼ヨリニューム層取引ニツキ交渉サセタガ現在ノ處價(ママ)段モノニナラズ。飯沼ヨリ十年式ラジエター、真空ポンプヲ受取ル 之レニテ飯沼ヨリ十年式一台預テアルダケニテ一切終ル

新宿ニテ夕食ヲ取り十時帰宅 飯沼ニ居ル頃雨降ル

◆▼2000ページ◆▼ 昭和9(1934)年7月10日(火)

天気晴

十三日ノ検査日ヲ十四日ニ延期シ工場ヲ急ガセル 一二日居ラナカッタノデ仕事ガ、ハカドドラナカッタ 終日在所

晝頃川辺カラ一寸來テ呉レトノコトニ行ク 広島デパラシユートヲヤルノヲ西山ガ行ケナイノデ永山ヲタノンダ處今コトワリニ來タガ、初メカラコトワラナイデ今ニナツテコトワラレテ困ルトノコトデアツタ ツマラヌコトデー々呼ビニ來ル人ダ 永山ヲ宅ニ連レテ來テ色々話ヲ聞イタ上止メルコトニキメテ川辺君へ返事シラセル

黒沢仙台ヨリ通知ナシ。安岡荒木ノ野外飛行ニ同乗シテ熊谷ニ不時着 間モナク帰場ス

▲▼201ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月11日(水)

天気 晴

十四日ノ受験準備デ急(ママ)ガシカッタ

▲▼202ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月12日(木)

天気 曇リ小雨

局及技術本部へ行ク。野田アプロ土曜日検査 月曜日野外飛行ノ爲証明書遂ニ出シテ  
貰フ爲メノ打合せト霞ヶ浦拂下代金ノ納入  
技術本部グライダーノ件ニテ長沢大佐ニ面會ス 時勢目標ノグライダーダトノコトデ  
アッタ 参考材料ヲ提出 一週間位デ返事スルトノコト  
飛行館ニテクラブ會合 前伊勢谷課長へ贈ル、記念品(自分考案ノ銀製模型)出來ル  
一同ニ見セル 賞賛ヲ得テヨカッタ。飛行競技会ノ原案ナル 尚局へ対スル希望條件等  
ヲ作製 明日奈良原、木暮両氏局長へ行ツテ貰フ

▲▼203ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月13日(金)

天気 小雨

梅雨氣分デ寒カッタ

明日ノ受験ヲトクレイ 夜十二時迄夜業

▲▼204ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月14日(土)

天気 曇小雨

野田アプロ内田サル検査 野田アプロ合格 内田サルポンプヨリ水漏レ直スニ爲メオクレ  
中止ス

▲▼205ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月15日(日)

天気 曇リ小雨薄日サス

今日ハ休ミ 兄ニドジョウウヲ喰ワセタク船橋へ行ク 毎年廿五錢位ノガ今年ハ卅五錢シ  
タ。五十疋ヲ、サカセ百目ヲ鍋ニスルコトトス 夜安岡ト三人デ食事ヲ共ニス  
先日書イタ民間航空界内輪話シガ今日印刷ガ出來テ來タノデ無印ノ封筒デ航空方  
面へ出スコトトス 合計六十九通トナル 航空局へハ八枚入レタ 明日信太郎ニ東京デ入  
レサセル

▲▼206ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月16日(月)

天気 小雨

昨日ヨリ今日ハ天気ガ悪カッタ 山田サンガ來テ居ラレルトノコトデ船橋ノ第一へ行ツ  
タガツヒニ中止トナル 受検者ハ久田ト荒木  
今日ハ工場ハ休場者ガ多カッタ 自カラ差(ママ)図ス

▲▼207ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月17日(火)

天気 曇雨

全体ニ曇リ 稍ヤ不適トアリシモ決行 第一二機クラブニ機全部予定通り完了スア  
ト第一二人ノ野外トクラブ二人ノ場内残ル  
鈴木伊休ム 安岡ノ話シデハ就職ロヲサガシテ居ルトノコトデアッタ  
内田君來

▲▼208ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月18日(水)

天気 雨

終日細雨 飛行中止トナル  
仙台ノ飛行機修理成リ○送レトノ入電アリ 安岡出張サセル  
奈良原アンリオノ金到着ス  
島山正式ニ辭表提出ス 佐藤帰場後決定スル事トス

▲▼209ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月19日(木)

天気 晴

晴天 風強ク午後次第ニナギル  
船橋ノ二等終ル 少シマヨッタ様デアッタ

▲▼210ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月20日(金)

天気 曇リ

二等場内飛行五時頃終ル 黒沢ノ一等ハ天候不良トマグネト不良ニヨリ中止シテ貫フ  
コトトス

四時半頃局ヨリ電話ニテ東日一三墜落 入江西田即死 同乗者中學生三名ノ内二名

死亡一名重傷トノコト アレハ四人シカ乗レナイノニ五人乗ツタノハヨクナカッタ 小供  
ダカラト云ツテモ二人デモ少シテールヘビーデアッタノダカラ、ソレヲイツモノツモリデ  
上昇旋回スレバストールスルコトハ當然デアル。夜御通夜ニ行ク 聞ケハ、入江氏ハ旋回ニ  
イツモ機首ヲ下ゲナイノデ西田ハキラツテ居タトノコトデアル  
五時半仙台ヨリ十年式安岡操縦佐藤同乗帰ル

▲▼211ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月21日(土)

天気 細雨曇リ

五時今村ト佐藤ヲ起シ七時半ヨリ局ヘ行ク 八時半ツク 辻本氏ト今日ノ検査雨ノ爲  
メ中止 廿八日一所ニスルコトニキメル。

昨日ノ事故違反ニツキ違反ニシナイ様課長初メ種々研究ノ結果人員ハ多イガ積載重  
量ニ於テ多クナカッタト云フ事ヲ以テ不問ニスルコトナル。之レニハ大ニ自分トシテハ異  
議ハアツタガ、ダマツテ聞イテ居ク

鈴木正憲国粹カラ午後電話アリ。スグ飛ンデ來テ呉レトノコトデアッタガ天候不良  
明日午前五時ニ來テ呉レトアツタガ天候尚悪イ見込 境氏ト打合セタガ延期ス

▲▼212ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月22日(日)

天気 曇リ

島山洲崎ヘヤル マグネトー交換 黒沢飛來ス

今日ハ終日ダルク眠カッタガ人が來タリ電話ガアッタリシテ、オチツケナカッタ

▲▼213ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月23日(月)

天気 曇小雨

朝鮮南大洪水

作業ニツキ打合せ。倉庫内ノチューブ整理ス

十二時半ノ自動車ニテ上京 丁度二時青山齋場ニツク 告別式ノ初夕處デアッタ 式  
ハスデニ終ツテ居タ 焼香後大蔵、鳥飼安岡鈴木相寄り雑談シテ鳥飼、渡辺、井門氏  
同乗 和合ビルニ行キ○ノ話シラス 三百円今日クレルトノコトニ午(ママ)刻モー一度行  
クコトトシ鳥飼井門氏ト日比谷松本樓デ会食 鳥飼氏オゴル 終ツテ義勇ニ行キ三百  
円受取り、協会ニ行ク タレモ居ラズ 買物ニ汗ダクニナツテ京成押上ヨリ八時半帰宅

▲▼214ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月24日(火)

天気 曇り小晴

鈴木ヲライジンクサンノ辨護士、電通ノ同ジクヘヤル  
徳治東京迄同道コーケンエナメルヲ持ツテ帰ヘス  
午前中昨日買ツタネジ型ノ入レ物ヲ作ル  
青木君來 明日ノ引取りタノマレル。鈴木モ同ジク

▲▼215ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月25日(水)

天気 曇り小晴

五時起床 信太郎徳次ヲ連レ霞ヶ浦へ船橋ヨリトラックニテ出張 八時半着 一時間  
早クツイタ 九時半入庫 積込ミ十時ニ終ル。名古屋飛行學校ノ佐藤君ニ話シ荒川沖  
ニ預ケテアツタ三式ノ翼ヲ貰フ。見タラ金具六十二瓦ナクヒドイモノバカリデアツタガ積  
ンデ帰ル 何ニカニナルダロウ 二時半帰場  
昨日ノ報告ヲ聞ク ライ社先方ヨリ返事アル筈 電通承認シタ由

▲▼216ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月26日(木)

天気 雨

鈴木ヲ局へ検査延期ノ件ヲタノミニヤル。ツヒデニ二三買物。三時頃帰ル 廿八日ト卅  
一日ト二日來ルトノコトデアツタ  
夕方申正午田村修造來 日本飛行學校カラハンサーヲ買ツタカラ見積リヲシテ呉レト  
ノコトデ今村ヲ同道 見ニヤル  
八月一日運搬スル様ニナルトノコトデアツタ

▲▼217ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月27日(金)

天気 曇り

朝ハンサ見積リ書ヲ作り早速田村及越午鉄道宛ニ通午前ノ便ニテ発送ス

▲▼218ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月28日(土)

天気 晴曇

西川辻本両氏來 内田サル完成 呉アンリオ内部無事終了  
内田ノ計算書ヲ作り夕方渡ス 協会委任状ヲ作ラセルコトニ話ス 明日判モ持ツテ來ル  
由

鈴木伊午後町内ノ納涼大會ニ谷津エ代理トシテヤル

日本飛行クラブ創立當時ノ新聞記事ト自分ノ日記デ記録ヲ作ル  
鈴木菊五十円受取ル  
木下ヨリ塗料到着 ベニヤ板到着

▲▼219ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月29日(日)

天気 雨

昨日検査デヨカッタ

鈴木ヲ局ト内田ノ奨励金ノ件ニテ協会ヘヤル

▲▼220ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月30日(月)

天気 曇リ

▲▼221ページ▲▼ 昭和9(1934)年7月31日(火)

天気 雨

雨ノ爲メ検査明日ニ順延

定期タクシー等ニツキ考慮ス

▲▼222ページ▲▼ 8月

軽飛板金工ノ件

▲▼223ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月1日(水)

天気 小雨後晴

検査官西川辻本両氏來 アプロ鈴木分完成検査 少シ振動ガアツタノデ心配シタガ其  
方ハ何ソノ事ナク飛行中ガソリンパイプ取レ三十分後再飛行 無事終了。プロヘラボス  
ノ處修理後堪航証出ルコトナル 五時ノ自動車ニテ帰ル

千葉郵便局へ東京都ノ通信状況ヲ鈴木ニ聞キニヤル。西川氏ニ話ス 千葉迄ダト不連  
普通郵便料ダケ貰フトトテモ、モウカルコトニナル 本日ヨリラジオ体操ヲ初メル

今日カラ軽飛ス。パー削リ初メル

内田君出場 十円渡ス

▲▼224ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月2日(木)

天気晴

午前中郵便飛行ノ計算ヲナス 結局百キロニ対シ千五百通トシテ三錢ト一錢デア全額貫ワナイト一キロ五十錢ノ割ニナラナイ。ダカラ銚子千葉ヲ合セテ半額ナラヨカロウ鈴木菊ヘアプロBBID引渡シヲ終ル  
船橋ヨリ開発來 見習トシテ入レル事トス 夜早速來ル

▲▼225ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月3日(金)

天気晴

上京 局ヘサルノボールベヤリング及二重操縦装置ヲ見テ貫ヒニ持ツテ行ク 西川石田両氏ニ見テ貫フ 合格。鈴木菊ノ。ペラヤハリハギ直スコト 郵便飛行ノ件先ヅ千葉迄トシタ方ガヨカロウトノ西川君ノ意見 課長ニハマダ話シテ居ナイソウダ 十二時帰宅  
佐々木泰介來テ居タ サルガ欲シイトノコト 細迫ノ分ヲ聞キニ來タノデアッタ 鈴木菊ヨリ百円 内田分二百円入 皆ニ式百円余リ分ケ電氣屋ニ二ヶ月分ヲ支拂フ  
今朝カラ恵美子トラジオ体操ヲヤル 第二体操モ今日カラヤル エミ子ガ先生ダ

▲▼226ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月4日(土)

天気晴

鈴木買物ニ上京 五時過ぎ帰ル  
昨ヨリ信太郎二甲四分解ヲ初メサセル 今日ハタンクヲオロスノ二分ラズ手傳フ  
サルワイヤー調ベナド行フ  
アプロデ九時半頃安岡ニ船橋へ送ツテ貫フ 本年初メテノ飛行。野田へ名議(ママ)変更ノ書類ニ判ヲ貫フ。奨励金ノ判代十三円呉レタ 二時間弱話シテ帰ル。高川サルノ調整ヲヤラセル

▲▼227ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月5日(日)

天気晴

朝清平大坂兄、児玉氏、上原氏、へ暑中挨拶ノ手紙ヲ出シ兄ヨリ知ラセテ來タ元志ノ妻ノ死ニ対シ四郎平君へ悔状ヲ出ス  
家内ガ風気味デア気分悪ルソウデアッタガ寢ル程デモナソウデアッタ

◆▼228ページ◆ 昭和9(1934)年8月6日(月)

天気 晴

信太郎徳次甲四手入レ 午前中ハ勉強サセル 恵美子ハ課外ト宿題デ遊ブ暇モナクカ  
ワイソウデアッタ

七日ノ記事

保俵署ヘ二三月分保俵料ヲ信太郎ニ持参サセツヒデニママシヲ一本買ワセル

菊池正次昨夜電報デ手紙見タ忒百五十円アスゼヒ入ルカラ送金タノムトアッタガ今  
日作業会社百円ヨリ入金ナク送金出来ナクッタ 佐野ノ手形分トシテ五十円小切手  
ガ出テ居ルノデ九八ヘ久シ振りニ七十円入金シテ居ク

◆▼229ページ◆ 昭和9(1934)年8月7日(火)

天気 晴

鈴木菊ヨリ五十円入

梅沢君午後來場 大坂ノ東郷ハガネカラ出資ヲ得テ満州飛行ヲヤリタイカラ書類ヲ  
作ツテ呉レトノコトニ契約書ヲ作ル

野呂、内田両名共入金ナク鈴木ヨリ請求ス

毎朝ノラジオ、タイソウトタ方ノ水マキデ大辺身体ノ工合ガヨサソウニ思ワレル

◆▼230ページ◆ 昭和9(1934)年8月8日(水)

天気 晴

朝奈良原氏來場 明後日クラブノ理事会及明夕日本飛行クラブ会合ノ件打合せ義  
勇ノ状況ヲ聞ク。東京千葉間郵便飛行ニツイテ話ス

角ニ鈴木ノペラ修理昨日カラヤラセル 今日完成 ラストピース取ル

信太郎徳次午後甲四手入レ 胴体ヲ終ル

夜十一時頃雷雨アリ 本夏初メテ

◆▼231ページ◆ 昭和9(1934)年8月9日(木)

天気 晴

上京 局ニ行キ検査ノ打合せ十四五日頃トキメル

宗里ローンノ事ヲタノム 然ルニ呉レナイトノコト 理由ハ小供ニヤレヌトノコトニ課長ニ



会ッテ話ス 青木ヲ校長トスルコトニス。郵便定期ノ事一寸話ス 個人デハ許可シナイト  
ノコト 会社又ハ法人組織タルベキコトトノコト。東日ニヨリ二時頃迄散髪ナドシ協会図  
書室ニ行ク 義勇ニヨリ、ニユポールノ名議(ママ)変更書類渡ス

奈良原氏トソラニ行ク 磯部児玉氏待ツ 井上勝氏來 久シ振リデ會フ。今日ハ出席  
者少ナク相羽木暮鈴木、遠藤、梶原七名 磯部氏ヨリ民間合同ノ話シアリシモ徹底セ  
ズ 井上氏ノ質問ニ対シテモ話シトシケンカン ウヤムヤニ終リ、席ヲカエ曙ニ行キクラブ  
員ノミニテ、クラブ会員確定ノ事、ヲキメ、大正七年創立當時ノコトヲ話シクラブ歴史  
ヲ作ルコトトス  
十一時帰宅

▲▼232ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月10日(金)

天気晴

晝頃丁度仲山君ガ自動車デ東京へ帰ルカラ乗セテ行クトノコトニ、西瓜ニツデ頼ムコト  
ニシタ 大口十八日ノ船デ南洋へ行クトノコトニ今日二瓶へ同道シテ奈良原氏ノ直昇ノ  
機械ヲ預ケテアルノヲ見ニ行クコトニス。行キニ第一ニヨリ青木君ヲ校長トスルコトニツキ  
相談シ明日早速手續キヲナスコトトス 二瓶引越シシテ引越シ先キヲ聞イテ行ツタガ分  
ラズ 其内ニ時半ニナツタノデアトハ大口君ニタノミ飛行館ニ行ク

岡田勇氏手形書替エヲナシ十円ダケ内入ヲス 本日ノ出席児玉、高崎、依笠、上原、  
奈良原、黒沢以上 八時半帰宅 会計報告ト上半期ノ成績報告

▲▼233ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月11日(土)

天気晴

二日續ケテ上京シタラ馬鹿ニツカレタ

床次通相ト井上勝好君ニ自分ノ意見ヲ発表セル会報二部發送ス  
稲毛ヨリツヤ子トカオルガ來タ カオルハ久シ振リデ途中デ會テモ一寸ハカルマイト思ワ  
レタ

▲▼234ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月12日(日)

天気晴

日曜ナレドモヤスメズ作業ヲヤル

日本義勇飛行会ノ客トシテ羽鳥商店主及店員十四五名 加藤市会議員外二名同乗  
飛行ニ來場 午後オソク帰ル

五時頃作業ノ加藤氏金ノコトワリニ來場 三十分余リ話シテ帰ル

女工ダケ今日金ヲ渡シ榮助ノ地代ハ月末迄延期スル様話シテヤル

▲▼2355ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月13日(月)

天気晴

今朝ハ眠クテツヒ三六時ノ体操ヲ止メテ七時ニヤル ソレデモ一日眠カッタ 体操ガスン  
ダト思ツタラ有坂マサオ君ガ親戚ノ小供ダトテ惠美子ト同ジ年ノ子ヲ連テ來タ 大  
正十二年頃丁度家内ノ病氣ニツイテ居タ看護婦デ大辺太ツテ居タ 今夜ハ泊ル  
黒沢局ヘ拡張試験ノ件ニテ上京 ツヒデニ検査ノコトモタノム 辻本氏ヨリ電話アリ 十  
五日トキマル

鈴木ペラノ材料モ持タセテヤツタガ、少シ弱イトノコトデアッタ。早朝ヨリ奥山氏來サ  
ル完成ニイソグ クラブサルモ翼ヲノセル 明日中ニ発動機モ廻セヨウ

▲▼2366ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月14日(火)

天気晴

明日ノ受験準備デ七時迄ヤル 発動機ニ自信ガ出來テ安心  
徳次ニ朝エナメル買物ニヤル

日本飛行クラブヘ卒業生ノ住所氏名ヲ送ツテヤルト同時ニ向カラ、ソレ等ヘ送ルベキ書  
類ヲ送ツテ來タ 大口來 十七日ニ南洋ヘ出發スルガ向フニツクノガ廿五日ダカラ今月  
ハ金ヲ送ツテヤル訳ニ行カナイカラ、タノムトノコトデアッタ。虫ノイ、ヤツダ

▲▼2377ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月15日(水)

天気晴

今日ハ予期シタ通りイソガシカッタ 駒林坂本氏検査ニ來場 作業ノサル奈良原ノサル  
完成。同甲四機体内部浜野發サル内部皆終ル 晝食後船橋へ同道 青木君病氣シテ  
居ルトノコトニ飛行デ奥山君ニ佐藤ヲ連レテ行ク コレモ無事終了 作業ノゴムカン交換  
ノコト 宗里カーブレター調整ノコトガ残ル 工場早ジマイニシテ明日ハ休ム  
晝頃山田、早川氏來 拡張試験ノ爲メ 杉本、今井、稲田ノ十年式 黒沢ノ甲三、内  
田ノサルト一二皆終ル 講評ハ定着宜シカラズ 免状ハ出スガモット練習ヲスルコト  
有坂今日夜帰京。安西君來テ泊ル

▲▼2388ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月16日(木)

天気晴

局ハ黒沢ガ行クノ登録申請ヲタノム 八時半ノ自動車ニテ鈴木菊ト飛行協会ハ防空演習ノ件ニテ行ク 十時ノ会合ガ十一時半頃漸ク本題ニ入ル 東京警備司令部ヨリ今井少佐、局ヨリ山田、警視廳ヨリ交通課長ト助川氏。民間側ハ輸送会社、各新聞社(飛行機ヲ持ツ)民間飛行學校等。日取ハ八月廿四日ト九月一日二日 飛行ニツイテノ打合セ後出場飛行機種ヲサル十年式程度トスルコトナリ明日局へ操縦士同乗者ヲキメテ提出 十八日軍人会館ニテ十一時ヨリ飛行ニ関スル打合セアル事トナル 式時半頃終リテ帰途宗里ニヨル 青木來テ居タ 丁度加藤氏モ居合セタノデ今日ノ話シヲシテ出場機ヲキメル 帰宅後安岡ニ明朝迄キメル様ニ云フ 矢野、高橋埼玉縣へビラ散飛行ニ行ク

◆◆◆239ページ◆◆◆ 昭和9(1934)年8月17日(金)

天気 晴

クラブカラ廿五円入 長巨(ママ)離電話料ヲ納金 予定期日ニ納金シタノハ今日初メテ位ノモノダ

上京 九月一日二日ノ飛行ノ出場機及人名表ヲ山田サンニ提出 内田次郎ダケハ取替エタラトノコトニ鈴木菊雄ニ直シテ居ク 義勇ニ行ツタガタレモ居ラズ一時間以上待ツタガ帰ラズ 明倫会ニ井上氏ト会见 先日ノ失禮ヲ呉ニ謝ス 自分ノ会報ノ意見モ讀ンデ居テ呉レタニ対シ民間學校合同シテ軍部ノ後援ニヨツテ組織アル學校ヲ作ルコトヲ話シタニ対シ床次氏今回ノ航空事業振興論ハ明倫会々々長田中大将カラ出テ居ルコトヨツテ意見ヲ書イテ出シテ見タラ取ツイデ見ルトノコトデアッタノデ書ク事ヲ約シテ再ビ義勇ニ行キ奈良原氏ト會フ。大島カラ昨夜帰ツタトノコトデアッタ アプロ賣物アルコト、上仲郷土飛行工場主催ニテ協会ノ金デヤラセルコトニキメタコトヲ報告ス 今日其手紙ヲ出シタバカリデアッタ  
第一ニヨリイスパノ一台借りルコトヲ承認ヲ得ル

◆◆◆240ページ◆◆◆ 昭和9(1934)年8月18日(土)

天気 晴

防空演習最後ノ打合セニ上京 九時半ノ自動車ニ乗リソコネ十時ノ自動車ニナツタノデ秋葉原カラタクシーデ丁度五分前ニツイタ マダ局ノ山田サント木暮君ダケデアッタ 第二飛行隊長タル飯沼ハツヒニ來ナカツタ 飛行時間機数高度等ノ打合セラ終リ晝食ノ馳走ニナツテ帰ル。ドウモ頭ノ工合ガ悪ルカツタ  
帰途久シ振リデ工藤写真館ニヨツテ一時間程話シテ四時帰宅

◆◆◆241ページ◆◆◆ 昭和9(1934)年8月19日(日)

天気 晴

朝眠ク体操七時ニヤル 午前中床ヲ取ル 昨日カラ北風デ冷イヤリシテ居タ  
清平帰ル 今西泊ル

東京夕刊新報記者來 航空界ノ今昔ヲ話シテ呉レトノコトニ一通リ話ス 写真ヲ貸シ  
テ呉レトノコトデイヤデアッタガ二三枚貸ス 借用証ヲ取ツテ居ク

夕食 清平ト大坂ノ話シナド聞キナガラ今日同窓会ヘ行キ夕方帰ツタ信太郎ト会食ス

▲▼242ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月20日(月)

天気 晴

今日モ風冷ヤカデアッタガ後チ南風トナル ソレデモシノギヨカッタ

安岡下志津ヘ行クツヒデニ正憲此頃注射シタサニアバレテ仕方ガナイノデ、主任醫師ニ  
様子ヲ聞キニヤル ソシテ更ニ入院サセルコトニス。帰ツテノ話シデハ、死ス様ナコトハ絶対  
ニナイ 本人ノ意志ガ弱イノデアッタトノコトデアッタ

清平朝返ル

今日倉庫用ノ小箱ノ出來タノヲ見ルト甚ダシク悪イノデ工場デ信太郎ヲサン、コト  
サラシカリ飛バス 信太郎工場ノモノモヤッタノハ分ツテ居タガ信太郎ハ自分一人デア  
ツタト云ツテ呉レタノハウレシカッタ 夜ホメテ居イテヤル

▲▼243ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月21日(火)

天気 晴

五時起床 六時宅ヲ出テ金町ヲ経テ霞ヶ浦ニ行ク 井上氏安藤氏、佐藤氏、木暮氏  
以上ニテ下見ヲ終リ晝食後十二時二十分ニテ帰途ニツク

▲▼244ページ▲▼ 昭和9(1934)年8月22日(水)

天気 晴

黒沢、田端ノサルムソン、齋藤国一三擴張ノ爲メ森航空官來場 午前中ニ終ツテ晝食  
後スグ帰ル。九時半頃奈良原氏來 昨日話シノ鈴木商店主來ルトノコトデアッタガ午  
後ニナリ三時頃主人恭次郎、磯田芳太郎両氏ニテ來場 工場ヲ見自分ヨリ拂下ノ状  
況ヲ一通リ話ス 奈良原氏一番多ク語ル 船橋迄行ツテ貰ヒタイトノコトデ自動車ヲ  
呼ビ夕食ヲ共ニシ契約書ノ草案ヲ作ル 恭次郎氏ハ用件ノ爲メ中坐ス 七時過ギ終ッ  
テ分レル

一万円ヲ先ヅ限度トシテ拂下資金ヲ出スコト 利益分配方法ニツイテハ先方ニテ考慮ス  
ルコトトス

鈴木正憲又入院サセル 今度ハ治療デ精神科へ入レタガ食料ダケ一日七十銭出シテ呉レトノコトデアッタ ソレデーヶ月ヲ限ルトノコト 其間ニ何ントカ方法ヲ講ジルコトトス

◆▼245ページ◆▼ 昭和9(1934)年8月23日(木)

天気 薄曇リ

正午内田君來 次ギノ機体ニツキ乗員三名二十平方米 時速百九十キロト云フコトデアッタガ高翼ヲ低翼ニ直スコトトス。

軽飛ノス。パー骨組前ダケ出來タノデ目方ヲハカル 一本四キロアッタ。予定通り出來ソウデアッタ

四時ノ自動車デ上京 東京飛行クラブデ熊川君ノアメリカノ話シヲ聞ク

大蔵大坂ヨリ小供ヲ連レテ上京同道 宅ニ泊ラセル

静岡ヨリ青島夫妻デ子供ヲ連レテ來ル 明日夕方古イモノダケアツメテ食事ヲ共ニサセルコトトス

◆▼246ページ◆▼ 昭和9(1934)年8月24日(金)

天気 晴

朝作業会社へ行ク 第一ノ過日ノ飛行ノ禮トシテ五円贈リ今日ノ打合せ会ニ出席フヒ第一ニ行キ青木君ニ五円渡シタコト 貸シタ三十円ハ今月中ニ貸ス由ヲツタエ渡辺三具君ヲ見舞フ 経過ハヨイソウデアト一週間位デ退院出來ルソウダ 八百屋モノヲ買物シテ帰宅 十二時

二時鈴木菊、青木、奥山、黒沢、野呂、安岡以上六名ノ操縦士今春自分ヨリ今度ノ防空演習ノ趣意ヲ述ベ飛行ノ協議ニウツル 一日ノ夕少シ早キ爲メ万一帰還不可能ノ場合ハ洲崎ニ泊ルコトヲ打合せス。其他飛行経路、爆弾投下ニ関スル打合せヲ行ヒ三時半散会

六時ヨリ安岡、布施、今村ヲ呼び青山ノ來ルノヲ待ツタガ東京へ行ツテオソクナルトテ、ツヒニ來ラズ 不都合ナヤツデアル。幸ヒ豊田君ガ休暇デ來テ居タノデ同君ノ歓迎会トナル

今夜ノラジオデ民間飛行ノ振興策ニツキ陸海通信三省打合せノ結果ノ方針ガ発表サレタノニヨルト、コトゴトク自分等ノ希望通りデアッタノハ嬉シカッタ

◆▼247ページ◆▼ 昭和9(1934)年8月25日(土)

天気 晴

晴レタレドモ雲アリ 縣君ノ大坂行き延期ス

九時ヨリクラブノ坐談会ヲ開ク 本田君ヲ中心トシテ陸軍殊ニ爆ゲキ機ニツイテ話シ多シ

今朝ノ新聞デ航空局ハ一億数千万円ヲ五ケ年間デ民間飛行ノ振興ヲ計ルト出テ居タ計畫ハ主トシテ定期航空路ノ拡張デアッタガ国防ノ第二隊トシテノ民間飛行士養生ニモカフソ、グモノト考ヘラレタ

上仲帰ル 昨日アマリオソイノデ手紙ヲ出シタ處ナノニ日光へ弟ヲ連レテニ三日行ツテ來タトノコト。ドコ迄モ人ヲ馬鹿ニシタ奴ダ。小學校ノ校長ガ後援会ヲ世話シテヤツテ呉レルトノコト 來月末金ガ來タラ、安岡ニ場所ヲ見ニ行ツテ貰ヒタイトノコト

◆▼248ページ◆▼ 昭和9(1934)年8月26日(日)

天気晴

縣君離着陸ノ練習ヲウントヤル

下志津ノ中山君來 女一名同乗飛行ス。安岡、奥山内田五名ニテ谷津へ晝食ニ行ク 午後雑誌ヲ整理ス

◆▼249ページ◆▼ 昭和9(1934)年8月27日(月)

天気晴

縣一時三分大坂へ出発 四時頃入電アリ 三保ニ發動機故障ノ爲メ不時着 スグタツ。後チアサアサタツトアリタリ

作業会社サル大宮迄行キ帰途川口ニ不時着 燃料補給シテ帰ル 帰着 水滴ハゲシク 發動機頭部少シ焼ケル 原因水ヌキゴムホースガ破レテ居タ ドウシテ破レタカ不明 鈴木伊局協会買物等ニ上等(ママ)サセル

永ク考ヘテ出來ナカッタ 新ラシイ飛行機ノ性能表ヲ作り初メル。コマカイ字ヲ見テ居ルト目ガチロ、シテ分ラナクナル 年ノ精カ少シ早イ様ナ氣ガスル

◆▼250ページ◆▼ 昭和9(1934)年8月28日(火)

天気晴

日中ハ暑ガ朝夕ハ冷ヤリスル 例年ヨリ少シ早イノデハナイカシラ

鈴木昨日ノ買物スツカリダメ 自分デ上京 佐藤ニテ買直シヲナシ電話デ聞イタ上義勇二行ク 三十円ガソリン代内金受取りゴム紐ダケ買ツテ買ツテ帰ル 二時帰宅 縣何等通信ナク夜十時頃浜松ニ不時着トノ知セアリ 承(ママ)細不明ナレドモイヨ、マクネトーナラント思ワル

一昨日カラタシヤクヲ止メタノデ今日アタリ大分腹工合ガヨサソウダ

◆▼251ページ◆▼ 昭和9(1934)年8月29日(水)

天気 晴

今日ハ山縣ノ日 ラジオ体操ヲ終ツテ小供ヤ家内モ皆一所ニ花ト線香ヲ持ツテ御参リニ行ク

縣君ニ電報デ様子ヲ聞イテヤル 夕方返電アリ プラッグダケダカラ天気ヨケレバアスタツトアリ

午後一時三十五分作業会社ノ田端機北海道へ行クベク今日ハ仙台泊リトシテ石田機關士同乗出發ス 三時三十五分福島縣磯部海岸ニ不時着陸 皆無事トノ入電アリ 今日ハ倉庫内整理ニ着手ス

夜早く床ニツク

正憲施料(ママ)入院ノ件ニツキ鈴木ヲ千葉縣社会課、千葉大學等ニ出張サセル 大分免(ママ)倒ラシイ 協会カラ食費ダケ出シテ貫ツタラトノコトデアッタガ到底不可能トキマツテ居ルノデ一應話シテ居ク 書類デ返事ヲ取ツテ其上更ニ社会課ニ交渉スル方針ヲ取ル

◆▼252ページ◆▼ 昭和9(1934)年8月30日(木)

天気 曇リ後晴

夜中カラ朝へ雨降ル 午後晴レ

義勇三型ノ板金巻キタレモヤルモノガナイノデ自分デヤル

晝食後三田浜へサルヲ見ニ行キ帰場 スグ見積書ヲ作り鈴木ニ金ノ請求方々持タセテヤル

野口君來 卒業生ノ数ヲ知リタイトノコトデ表ヲ出ス。羽田ノ木下ノ工場ノ出資ガ兒玉阿部両氏カラ出テ居ルコトヲ初メテ聞イタ

◆▼253ページ◆▼ 昭和9(1934)年8月31日(金)

天気 曇リ

プロヘラ板金巻キニ七時半迄夜業。出來上ル

今日ハ急(ママ)ガシカッタ 鈴木ヲ義勇へ集金ト正憲ノ嘆願書ヲ持ツテ協会ヘヤル

今夕ノ汐デ明日ノ飛行不可能ト知レ朝汐ニテ洲崎へ運航ノコトニ決ス

作業会社機仙台へ安着ノ由

◆▼254ページ◆▼ 9月

- 一 學校対策ノ件
- 一 輕飛行機進行ノ件

◆▼255ページ◆昭和9(1934)年9月1日(土)

天氣 曇後雨

今夕ノ汐引カナイノデ午前ノ汐デ洲崎迄飛行セシムクラブ安岡機ヲ先頭ニ作業ノ奥山ヲ殿リトシテ七時半カラ八時半迄ニ全部出發ヲ終ル  
 協会ヨリ井上少將來 飛行場ヲ見鈴木ト宗里ヲ案内シ船橋デ晝食ヲ共ニス  
 飛行場維持奨励金ノ件海面使用料ダケ出シテ呉レルコト 他ハダメダトノコト 無理デモナイ 正憲ノ嘆願書ニ對シテハ書面デハイケナイトハ回答シカネルカラ宜シクタノムトノコト 其變リ多少何ントカシヨウト考ヘテ居ルトノコトデアッタ  
 井上氏ト共ニ洲崎ニ行ク 雨次第ニハゲシクナル。ツヒニ飛行中止ト決定 同乗者五名ハ飛行場へ 操縦士六名ト自分ハ両国ニ宿ヲ取ル  
 防空演習ハ續ケラレ終夜サイレント、ドラト機関銃ノ音デ眠レナカッタ

◆▼256ページ◆昭和9(1934)年9月2日(日)

天氣 曇少雨

昨夜ノ大雨ニ打タレ皆始動ガ困難デアッタ  
 四時半起床 五時半飛行場着 六時十五分第一ノサル青木一番機ヨリ鈴木作業ガオクレテ殿トナリ出發 野呂機ハツヒニ始動セズ中止ス  
 洲崎ノ第二隊モ二機不参加デ五機飛行 津田沼モ五機飛行ス 七時洲崎機無事着陸ヲ見テ井上氏ノ自動車デ送ラレ両国ヨリ乗車 八時ノ自動車ニテ帰宅ス 皆無事帰ツテ居タ 晝頃迄ニ全部飛行ノ報告書ヲ取マトメ終ル  
 牛肉ヲ買ツテ來タノデ晝食ニ小供等ト食フ 百瓦デハ中々足りナイ  
 今夜ハ二百円入ル 午後ハ購読クラブヲ讀ム  
 又アスカラノヤリクリト工場ノ方針ガ氣ニナル

◆▼257ページ◆昭和9(1934)年9月3日(月)

天氣 雨曇リ

和子ハ近頃大變言葉ガ出ル様ニナツテ面白クナッタ  
 正憲治療ノ件ニツキ鈴木ヲ千葉縣社会課ニ出頭サセル。出來ダケ、サイセイ會ノ球(マ)ヲ療ヲ受ケラレル様依頼シタトノコト



サルケースニツ拂下ゲル 外ニ少々デ五十円ニナツタ

佐藤二十円ヤリ入院中ノ藤田三三円持タセテヤル

防空演習飛行ノ報告書ヲ作ル

夕方清平來 泊ル

広島ノ分國サンカラ津田沼デクラシタイカラ家ヲ見付ケテ呉レトノコトデアッタ 今迄  
マダ一人デ居タラシイ 妹夫妻モ一所ニ行クトノコト 家内ヨリ一度一人デモ先キニ見  
ニ來テカラ、キメタ方ガヨイト云ツテヤル

◆▼258ページ◆ 昭和9(1934)年9月4日(火)

天気 曇晴

九月初メト思エヌ寒サデアッタ

八時半ノ自動車ニテ上京 局ニヨリ奈良原サル奨励金願書提(ママ)正シタ分ヲ提出

十時半ヨリ協会ニ行キ圖書室ニテ少シ待ツ 十二時頃漸ク初マル 青木、安岡ツヒニ來  
ラズ。外ハ大低來テ居タ 今井少佐、ト局カラ山田、玉宮、監理課長外三四名。飯沼ハ  
例ニヨリオソク式時頃來 第三義勇ノ統一ヨロシク且ツ雨ノ中ニ野外ケイ留ニシタコトニ  
ツキ同情ヲ得 將來ニツキ飛行場設置ヲ希望ス。義勇飛行隊常設説ニ傾キ研究セラ  
ル、コトトナル。奈良原氏モ出席セラル 終ツテ三時ヨリスグ帰宅 船橋ニテ内田君ニ會  
フ

◆▼259ページ◆ 昭和9(1934)年9月5日(水)

天気 曇リ

市電ゼネスト初マル

大朝機大坂北平間無事着 東朝機中止

上原閣下ニ會フ爲メ八時半ニテ出懸ケル 其前奈良原氏來場

十時丁度上原氏飛行館ニ來 話シハ或ル会社ゴロガ飛行機製作会社ヲ作ル爲メ奔走シ  
テ居ルノデ君ノコトヲ一寸話シタカラ多分行クカモ知レナイガ、ダマサレナイ様ニウマク  
ヤル様トノ注意ダケデ少々期待ニソムイタ訳デツマラナカッタ 東日ニヨツタガ羽太氏  
不在 スグ帰宅 局カラ木下ノ奨励金百三十四円來テ居タ。佐野ノ五十円ト白鳥ヲ  
支拂ヒアト少シヅ、三四人ニヤル

上仲三日程休ンデ今日オソク來 シカリ居ク

◆▼260ページ◆ 昭和9(1934)年9月6日(木)

天気 曇リ

鈴木正憲母役場ト千葉へ行き本日本村病院ニ入院手續キ終リ入院ス 之レで一安心  
鈴木伊作業会社へヤル

厚木飛行場へ十年式アブロ、三型空輸ヲ行フ 三型黒沢 アブロ熊谷同乗別府操縦  
十年式安岡 自分同乗ス 雲低カッタ 三十五分カ、ル 東京コトニ横浜ノ埋立ノ多イ  
ノニ驚イタ アブロ着陸ノビ主權ノ先キヲ折ル。局ヨリ森サン來 トニカクセマイカラモツ  
ト広クナツテ許可スルトノコト

二時五十分厚木発ニテ帰ル 新宿迄丁度一時間 円タクニテ海上ビルニ井上氏ヲ訪フ。  
何ノコトカト思ツタラ南洋ジヤワボルネオ方面へ定期ヲヤルニツイテ材料調査ヲシテ  
ホシイトノコト 極秘ニトノコトニ引受けテ帰ル

▲▼261ページ▲▼ 昭和9(1934)年9月7日(金)

天気 曇リ

今日ハ土曜日ト間違エテ居タ

朝鈴木恭次郎へ拂下代金貰ヒニ行ク旨電話シタラ向カラ來ルトノコトデ明日ヲ約ス。  
少シオカシイ

上京 昨日依頼ヲ受ケタ件調査ノ爲メ氣象台ニ藤原博士ヲ訪フ 氏ハグライダーノコ  
トデ來タト思ツタノカ來月報知デグライダー競技会ヲヤルコト ソレニ工場ノグライダ  
ーヲ賞品トシテ出スコト等ノ話シアリ 後局デ南波玉宮氏ノ諒解ヲ得ル。南洋ノ氣象  
狀況ハ二三日中ニ印刷シテ呉レルトノコトデアッタ 局ニ行キ国際法規ト飛行場ノ設備  
等ヲ調査シ郵船ビルニテ地圖ヲ購入 尚足ラナイノデ小川町デ更ニ買入レ帰りニ第一  
ト作業会社ニヨリ帰宅ス  
入院中ノ藤田ニヨウ毒シヨウヲ起シ重態トノコトニ埴山出張。面會モ出來ナイトノコト  
ニ看護婦ヲ付ケ国元へ打電ス

▲▼262ページ▲▼ 昭和9(1934)年9月8日(土)

天気 晴雨

七四〇ミリノ颱風ハ日本海へ出テコチラハ先ヅ無事デアッタガ吹イタリ降タリ照タリシ  
タ

藤田父挨拶ニ來 今日ハ大分ヨイトノコト

終日南洋 ■大島へノ定期予算書ヲ作ル

右記事ハ日曜日ノ分 天気モ同ジク

▲▼263ページ▲▼ 昭和9(1934)年9月9日(日)

天気 曇り

鈴木恭次郎へ朝電話スル 今日磯田君ガ行クトノコトニ待ツタガ四時迄ニツヒニ來ラズ。四時ノ自動車ニテ上京 義勇ニ行ク 奈良原氏ニ會フ 磯田晝來テ五時ニ來ルトノコトデアツタガ六時十五分前迄ツヒニ來ラズ 木村氏等トノ約束ガアルノデ飛行館ニ行ク 木村、内田、清平、待ツテ居タノデ、スグ打連レ曙ニ行キ、五一型ノ補助翼取付ノ件等ヲ聞キ後チベント、モングース、神風、付替得ル軽飛行機ニツキ協議 胴体鋼管 主翼木製、低翼單葉 二〇〇キロ目標ニ三人乗トシテ進ムコトニ決定 プロフィールノ撰定ヲ木村氏ニ依頼ス

藤田昨日ヨリヤ、マシトノコト 父來ルノヲ十一時迄待ツタガ來ラズ 病院へ電話シタラ今來タトノコト

本記事八八日分

◆▼264ページ◆▼ 昭和9(1934)年9月10日(月)

天気 晴曇

颱風一過ト云フ晴レ、シイ天気ニナラナカッタガトニカク晴レテ朝日ノ北京行キ残りノ新野機モ出発 無事到着シタ

飛行協会ニ行キ防空演習ノ金ヲ受取り義勇ニ行ク 磯田氏來テ居タガ結局コトワリニ來タモノデアッタノデ一通リ井上ヤ安藤ニ照(ママ)介 努力ノ點ヲ話シテ居ク

義勇ノ金受取り局ヘカスミケ浦納金ニ行ク 七十八円 尚セレベス、ヒリピンニ飛行場ノ有無ヲ調査シ、地図ヲ買ヒ帰宅 木下待ツテ居タノデ自分ニ貫ツタ防空演習ノ金ヲ二十円貸シテヤル

東京ニテ内田君ニ、十円渡ス

◆▼265ページ◆▼ 昭和9(1934)年9月11日(火)

天気 曇後晴

内田治朝サルニテ高岡へ飛行ス 二時間ニテ無事着 其前貸シタ金トプロペラヲ返ス様談ジタガ金送金來ラズ。ペラ又松本ヨリ來ラズ止ムナク貸スコトトス

晝食後上京 曙へ置キワスレタ金具ヲ取りニヨリ東日ニ羽太君ヲ尋ネ南洋飛行用ノ機体ニツキ相談ス 神戸ノフォカー代理店大毎へ聞キ合セテ呉レタガ四時迄返ナシ 明日聞キニ行クコトトス

グライダーノ件デ吉原君ニ會フベク電話シタガ不在 明日行クコトトス。東京牛塚市長ノ招待ニテ一日ノ防空演習ノ慰労会ニ出席 軍人会館ニテ。知ツタ人ハ少ナカッタ 相羽遠藤、福士場長、小野少将 今井少佐位デアッタ

佐藤ニヨリ買物シテ十時帰宅  
義勇ノアブロ矢野ガコワシタ由 太田出張ス

◆▼266ページ◆▲▼ 昭和9(1934)年9月12日(水)

天気 晴少曇

初メテ軽飛行機ノ検査 石田航空官來 メンスパーダケ終ル ツヒデニクラブアブロ機  
体内部検査ヲ終ル 内田君來  
終日在所

上仲国府ノ台ヘサルノ離着陸練習ニヤル 安岡同乗 三回ヤツテ見込ミナク帰ツタトノ  
コト 云ワナイコトデハナイ 練習不足ガ之レダ

◆▼267ページ◆▲▼ 昭和9(1934)年9月13日(木)

天気 曇小雨

内田金。ヘラ共ニ來ラズ 打電セシモ返ナシ

上京 局ヲ行氣象台ニ藤原博士ニ會フ。グライダーノ方ノ話シ 後南洋氣象圖マダ出  
來テ居ラズ

局ニ行ク 木曜ノ会食デ二時過ギ待ツタガソレデモヨク分ラズ(サイクロンノ消費量)  
井上氏ニ明後日ノコトヲ聞キ報知ノ吉原君ニ會ヒグライダーノ件頼ミ義勇ニ行キ協弁  
飛行館ニ行ク 日本輸送ノ技術室(行クト商務ト小川君ガ居テ一時間程話ス。ソコデ  
サイクロンノコトモ分ツタシフオカーノ代理店モ聞イテ五時十分地下室ニ行ク。奈良原、  
木暮、鈴木、田中來テ居タ アトカラ相羽飯沼、梶原、高橋、遠藤來 競技会ノ件会  
場デ洲崎説ト羽田説ニ分レ、後理事問題デ田中ガ初メカラゴテツヒニ奈良原氏ヲ怒ラ  
セタノデ最後ニ僕ガ田中ヲキメツケルコトニナツテ、引立ゲカケタ處皆ニ止メラレル 奈  
良原氏ハサツサト帰ツタ。初メヨリ田中ノゴテルノハ分ツテ居タガ奈良原氏ガモツトダマ  
テ貰ヒタカッタ。自分モ注意シナカッタノハ失敗デアッタガ兎三角田中ノ悪ク木暮相羽  
君ノセツソウノナイノモタシナメル

◆▼268ページ◆▲▼ 昭和9(1934)年9月14日(金)

天気 曇少雨

五時半起床 六時徳次ノ登校ト一所ニ宅ヲ出ル 八時半所沢着 大變早カッタ 十時  
下見 十時四十分ヨリ入札 二回ニテ落札 木暮代表シ三上三引上ゲ自分木暮外ニ  
氏デ評價シ代金納入。羽鳥氏二人來テ五百円封筒ニ入レタノニ自分ニ渡シテ呉レタノ  
ハ、ウレシカッタ。作業会社、第一、川辺、クラブ、全部デ百十七円余デアッタノデ百

二十円借り三上へ十円返す 終ッテ一時半ヨリ徳川少将ト學校ニ訪問 今朝帰ッタバカリトノコトデアッタ 二十分程學校問題ニツキ意見ヲ交換シ、イソガシソウデアッタノデ、スグ引上ゲル。帰りニ義勇ニヨリ奈良原氏ニ會ヒ羽鳥氏ニ來テ貰ヒ、仮借用証ヲ入レ廿一日カスミヶ浦ノ分ヲ今一回見テ後チ共同事業トスルカ否ヤヲキメルコトトス 柳瀬奈良原氏ト曙ニ行キ食事 十時帰宅

本記事八十五日ノ分

▲▼269ページ▲▼ 昭和9(1934)年9月15日(土)

天気 曇リ少雨

昨夜オソクナッタノト風気味デ気分ガ悪ルカッタ  
終日卅七度三分アッタ 石田航空官輕飛行機ノ圖面見ニ來 五時帰ル スグ床ニ入り 薬ヲノミ汗ヲ出ス 夜大辺気分ヨクナル  
九時頃奥山君來 今日田端ノ飛行機ノ翼ニフレ田中不二雄ニ等飛行士死ンダトノカ ンタンナ入電アリ 其爲メ金送ッテ來ズ 明日ノ拂下ニ困ルトノコトニ羽鳥商店カラ金 ガ出ル筈ニナッテ居ルノデ引受けテ居ク  
鈴木菊來 競技規定ヲ作ル

▲▼270ページ▲▼ 昭和9(1934)年9月16日(日)

天気 晴

信太郎昨日ヨリ土日曜ノ受験講習ニヤラセル 今日ハ朝カラアルノデ出テ行ッタ  
風気味ガマダトレズ九時頃風葉ヲノンデ床ニツク 汗ヲ出ス 明日所沢ノ引取りノ手配 ヲ第一タノム 金太郎ヲヤルコトトス  
午後奥山君來 金明日何ントカスルトノコトデアッタ。桂林ノ後援者モ明日來ルカラ金 ヲ持ッテ來タラ、出來ダケ沢山持ッテ來ルトノコト  
朝起キヌケニ千葉ノ國吉來 約束ノ五十円奥山ノ方ノ返事有リ次第知ラセルコトニス 夜早く寝ル 今日カラセキガ出初メテ困ル

▲▼271ページ▲▼ 昭和9(1934)年9月17日(月)

天気 曇リ小雨

今日ハ又小雨 今朝ハセキニムセテ吐キ氣ガシテ苦シカッタ 夕方ニハムセカラ、セキガ出 ル様ニナリ夜ハセキノ度ニイタクナッタ

午後作業会社へ金取りニヤル 三十円ヨコス。夕方宗里未亡人來 此間ノ立替ト奨励  
金ノ一割五十円ヲ持ツテ來タ 内三十円ヲ国吉へ持参サセル 佐藤ニタノム  
内田來 主翼支柱取付部ノ圖ヲ作ル  
所沢拂下引取り夜九時頃帰ル 鈴木、作業会社ノモノハ積メズ運送店扱トス

◆▼272ページ◆▼ 昭和9(1934)年9月18日(火)

天気 曇雨

降ツタリ止ンダリインウツナ天気

昨夜セキデヨク眠レズ今朝七時起床 七時二十分ノラジオ体操ヲヤル

雨ノ爲メ検査官來ラズ 内田君ダケ來

佐藤東京ラシエンザニー試運轉ニ出張サセル

奈良原氏來 江戸川飛行場ニ関シ東京府カラノ照介(ママ)ノ返書ニ自分ノ履歷書ヲ添  
エル

上仲今日ハ早く來タ。今日ハ後援者ガ同乗ニ來ル日デアッタカラ 実ニ現金ナヤツダガ  
雨ノ爲カ後援者ハツヒニ來ナカッタ

◆▼273ページ◆▼ 昭和9(1934)年9月19日(水)

天気 雨

今日モ終日降ツタリ止ンダリ

梅川厚木へ出張サセル

昨日安岡厚木へ行ツテ居ルモノト思ツテ照介(ママ)サセタ處黒沢ヨリ來テ居ラヌトノ返

今日モツヒニ帰ラズ

夜五時半頃広島ヨリ竹内君金主ト共ニ來。一五式整備ニツイテ來ル 明後日霞ヶ浦デ

見タ上ノコトト決メル

木下豊吉へ金取りニヤル 不在中ニ妻君ガ十円ヨコシタ處ヲ見ルト十七日金六來タラシ  
イ

◆▼274ページ◆▼ 昭和9(1934)年9月20日(木)

天気 曇雨

局へ行キ一時半頃迄雨止ミシテ義勇ニ行キ飛行料其他ヲ貰ヒソラニ行ク。タレモ來テ居  
ナカッタ。シバラクシテ相羽、木暮、來 今日ノ打合せヲス。出席者イツニナク多ク殊ニ  
新顔トシテ高崎及浜松ノ田中氏出席 十数名ニナル 規束(ママ)ノ改正ヲナシ次ギニ理  
事ノ改正ニウツリ自分が進行係トナリ、撰コウ委員ヲ指名スルコトトナリ旧理事ヨリ

三名相羽、鈴木、遠藤、外二梶原ノ四名ヲ指名シ、センコウニ入ツタガ決セズ一時間半位カ、ルアマリキマラナイノデ相羽君ト鈴木ニ止メテ貫ヒ代リニ梶原ト高崎ノ重田氏ヲ入レル。之レニテキマリ。尚クラブノ経歴ヲ初メカラ大体話シ、明朗ナル気分デ規定ハ無視ハシナイガトラワレナイコトヲ希望シ田中不二雄モソレヲ、チカツテ無事終了目下來リツ、アル颱風ニツキ自分デ皆ニ警告シテ居ク

▲▼275ページ▲▼昭和9(1934)年9月21日(金)

天気 曇雨風

大暴風通過 各地被害甚大

颱風來ニ引取り自動車ハ連レテ行カズ自分ダケ、カスミケ浦ニ行ク。金町アタリカラ南東風ガソロ、強クナリカケテ來タ。午前ノ引取りヲ終リ晝食ニ行ク頃カラ猛烈トナル一時半終ル。羽鳥氏モ來タガ其マ、デハ引取り兼ネルトノコトニ関根ニ取ラセ整理シタモノヲ羽鳥へ送ラセルコトトス。帰リニハ少シ静カニナツテ居タ。ホシノ二時間位ノ間ニ二十米突位上アツタ。汽車中竹内君ノ一五ノ大体ノ予算千円位カ、ルコトヲ話シ尚クワシク見積リ書ヲ送ツテ呉レトノコトデアツタ

船橋へ着イタ時丁度ニュースノ時間デ立聞キスルト大坂ハ丁度中心ガ通ツタノデ大障害アリ。洲崎ノ遠藤、飯沼田中モ全滅シタトノコト。意外ノ悪化ニ驚キスグ第一ニ聞クトコ、ハ大丈夫トノコト。帰宅シテ居タラ中格ノ戸ガ三枚。工場ノ戸ガ一枚ハヅレタダケデ無事デアツタ

大坂方面へ見舞電報ヲ打ツ

▲▼276ページ▲▼昭和9(1934)年9月22日(土)

天気 晴後雨

朝晴レテ居タガ次第ニクモル

奈良原氏來川辺ヲ呼ビニヤリ被害ノアツタ處ヲ見舞ニ行クコトニシ各飛行場、ビール一打ツ、トシ在郷ガ残ツタ由ニツキ田中、遠藤、飯沼小栗、作業会社へ贈ル方ハクラブ、伊藤、川辺、鈴木、宗里、義勇トノ六人カラトシテ晝前ヨリ奈良原川辺鈴木自分ト宗里ニ行キ、ソレカラ加藤ニヨリ洲崎ニ行ク。田中ハ半分残ツテ居タ。遠藤モ住居ノ方ガ残タノハマツヨカッタ。何ニシテモ遠藤君ガ一番苦シイダロウト思ツテ氣ノ毒デアツタ。久シ振リデ久松氏ニ會フ。丁度讀賣ノスチンソンガ東日本ノ一週ヲ終ツテ帰場スル處デアツタ。終ツテ五時頃鈴木ト二人デ浅草へ廻シ久シ振リデ大勝館ニ入りターザンヲ見ル。十一時帰宅

▲▼277ページ▲▼昭和9(1934)年9月23日(日)

天気 晴

久シ振リノ上天気 夜ノ月モ殊ニヨカッタ

今日ノクタブレタカ起キラレス九時半迄寝タ

木下明日ノ福島ノ飛行ニ飛バセテ呉レトノコトニ川辺ガ行クトカ行カナイトカ云ツテ居  
タノデ聞キニヤル 晝前スデニ出發シタトノコト 馬鹿ニシタ人ダ 飛行サセル。午後八講  
談クラブガ來タノデズット讀ム

夜広島カラ來タ客人ト初メテユックリタ食ヲ共ニシ話シヲ聞ク

竹中、関口、飯田三人一升サゲテ來タノデ肉ヲ取り又ノミ直シ九時半過ギ帰ル

▲▼278ページ▲▼ 昭和9(1934)年9月24日(月)

天気 晴

午前中手紙ヲ書イタリ一五ノ見積リヲ作ツテ送ル

國吉明朝來ルトノコトニ佐藤ニコトワリノ手紙ヲ持タセテヤル

午後寢ル 夜アンマヲ取ル

電燈会社ニケ月分ニ対シ電燈ヲ止メルト云ツテ來タ由

木下ヘタ方金送ルカ帰ルカ打電ス

▲▼279ページ▲▼ 昭和9(1934)年9月25日(火)

天気 晴

上仲タマニ早ク來タト思ツタラ国カラ金ヲ送ツテ來タトテ式百五十円ノ爲替券ヲ出シ  
タ アト五十円ハ今日東京ノ濃飛クラブへ行ツテ來ルトノコトニヤル

早速電氣屋ヘ一ヶ月分其他拂ヒ日本塗料ガ風見舞ト云ツテ來タノデ金支拂ヒグライ  
ダー塗料ヲ注文ス

明日一等ハ羽田カラ出發トノコトニ三時サルハ安岡十年式黒沢空輸ス

午後ノ天気概要ヲ聞クト支那海ノ低気圧ガ來ソウナノデ明日ノ試験氣ヅカワレル  
霞ヶ浦引取り出張 四時頃帰ル。イスパノクランクケース一組宅ノ分ガ全然ナカッタ  
トノコト

夜川辺來 木下機体破損シタル由

▲▼280ページ▲▼ 昭和9(1934)年9月26日(水)

天気 雨

今日カラ一等黒沢、竹中、二等加藤、三等原田、青木、拡張サル今井、桂林、埴山、  
一三、三嘴以上ノ試験アリ



竹中黒沢羽田出發ノ爲メ昨日行ツタガ今日ハ雨デ延期 山田、江口両氏來場  
鈴木伊東京へ買物ニヤル  
金太郎佐野へ透明一カン取りニヤル スグアブロ翼ニカ、ラセル  
拂下品分配終ル 川辺ヨリ十二円入り

◆▼281ページ◆▼ 昭和9(1934)年9月27日(木)

天気 晴

思ヒ設ケル上天気トナル 十一時頃ヨリ飛行開始 一等ハ上田雲アリ先ヅ太田原ニ飛行後上田ヲ経テ竹中四時過ギ汐ギリ、ニ津田沼着 黒沢ラジエター水漏リオリルラジエター同シ プロペラ修理ノ爲メ太田原泊リ 安岡四時半佐藤同乗十年式ノペラヲ持ツテ太田原ニサルニテ飛行ス

第一ノ村岡順潮ニ終ル 加藤機出發ノ際プッシュロット折レ場内ニテ着陸 後チ太田原ヨリ帰りプラグノ線二本切レ結城ノ東鬼怒川ニ不時着 自分デ直シテ五時過ギ帰リスザキニ行ク様信号セシモ發動機不良ノ爲メ海岸ニ着陸 ウマク降下ス

局横田氏學校教育状態偵察ニ來場 一席合同論其他ノ意見ヲノベル

野口君來 本ヲ出シタノニ会則ヲ出シタノデイクラカトノコト二十円ヤル  
奥山君來 十円貸ス

夜別府、熊谷、矢野來 黒沢ヲナグツタ件ニツキ陳謝ニ來タガ自分ニハ何等關係ノナイコトデアッタガ話シハ聞イテ居タノデ円満解決ハ結構ナコト 今後ノコトニツキ輕クイマシメテ居ク

◆▼282ページ◆▼ 昭和9(1934)年9月28日(金)

天気 晴

快晴 今日ハ順潮ニ試験進行シタガ汐ガナクテサルノ擴張埴山、島、一三今井ダケ残ル 三日午前ノ汐デ來ラレルコトニナル 其他先ヅ無事実地ヲ終ル 五時帰ラル

今末セマリ收入ナク財源サガシ 境君百円バカリアルノデ電話ヲカケサセタガ二三日待ツテ呉レトノコト 夜黒沢奈良原氏へ行クノデ義勇カラ立替トアブロニユポールノ整備費内金トシテ式百円程借ルコトヲ申込マセル 明日行クコトニス

◆▼283ページ◆▼ 昭和9(1934)年9月29日(土)

天気 晴曇リ

今朝ハ七時二十分ラジオ体操

飛行協会千葉支部ノ田母神氏初メテ來 話シノ内ニ寒川斎藤寿ト云フ請負師ガ埋立

計畫ヲ健テ飛行場ヲ献納ノ考ヘアル事ヲ聞ク 丁度ソコ奈良原氏來 此話シヲナシ同氏ノ取ナシテ齋藤氏ニ会见方ヲ依頼ス 夕方明日午前九時迄ニ來テ呉レトノ電話アリ 奈良原氏へ其旨打電ス  
佐藤風気味デ帰りタイトノコトニドコモ入金ナクイスパノクランクケースヲ處分シテニ十円 太田二五円ヤル  
清平第二補充兵トノ通知アリ  
内務省ヨリ土地買収ノ金六十九円三十銭下附セラル

▲▼284ページ▲▼ 昭和9(1934)年9月30日(日)

天気 曇後晴

国吉手紙ト行違ヒニ來 明日船橋デ渡スコトニナル 尚千二百円ノ方ドウナルカト聞イテ居ク 百円ヲ入レテ執行不能ト云フコトニ取アツカウトノコトデアッタ。手形ハ辨護士ガ保管シテ居クトノコト 之レガ少シアヤシイト思ツタガドウスレバヨイカ一寸ワカラナイ

奈良原氏八時來 八時十五分自動車ニテ千葉ニ行ク 田母神氏ト同道齋藤氏訪問 堂々タル家デアッタガ人想(ママ)ハアマリヨクナカッタ 十一時半迄約二時間半誦奈良原氏主トシテ話ス 先方デハ圖面ハモトヨリ願書モスツカリ出來テ居テ四名バカリ記名捺印シテアリアト一名ヲ明日東京ノ人ヲ作ツテ二日ニ提出スルトノコトデアッタ 終ッテ、縣營ノ埋立地ヲ見常盤デ晝食シテ奈良原氏ト分レ藤田ヲ見舞ニヨリ、京成デ作業会社ニ行ク 写真機ヲ貰フ約束シテ金三十五円呉レタ。帰ッたら大口南洋ヨリ帰ッテ居タ。鉄工所問題アリ。友野へ行タヲイイト教ヘル。木下児供死ンダトノコト 安岡ニ金持タセテヤル

▲▼286ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月1日(月)

天気 曇リ晴

早朝国吉來 鈴木ト同道サセル ソレカラ上京 境、義勇金ヲ取りニヤル  
石田航空官來 作業会社サル機体内部検査終ル 軽飛行中央翼支柱強度計算ヲナス  
コト

内田君來 右近日來テヤルコト  
山田航空官ヨリ電話アリ 三日來ル由  
夜馬淵テウ子後援会ノ青木ナルモノ來 サルヲ一台急々欲シイトノコトニ細迫ノ分ヲ話シ明日交渉スルトニス 会见場所銀坐不二家トノコト  
南洋航空予算書作りヲナス

◆▼287ページ◆▼ 昭和9(1934)年10月2日(火)

天気 晴

鈴木上京 境集金ト細迫交渉ノ爲メ

細迫サル試飛行ヲ行フ。ペラ振動アリ。作業会社ノヲ付ケル

渡辺一英君來 今日鈴木ニ金ヲ持タセテヤッタノニ今カラ土浦ヘ行ク途中デ金ヲアテニシテ來タトノコトニ式十円別ニ渡ス 尚政府ニ対スル吾人ノ意見ヲ知ラシメル爲メ坐談会ヲ催スコトニシテハトノ話シガ出デ賛成ス。動機ハ自分ノ學校合同論

◆▼288ページ◆▼ 昭和9(1934)年10月3日(水)

天気 雨

今日ハ思ヒガケナイ金ノ這入ル日デアッタ

鈴木境金受取り帰ル 細迫買戻シヲ條件トシテ賣ルコトヲ承認 交渉ハ一任スルトノコト 青木今夕來ル由

宮崎航研究所ヨリ三百円内金ト五十円運賃送金シ來ル。三嘴ノ後援者竹石氏來 一三定期ノ内金百円居ク。皆ニ少シツ、ト中台其他ニ拂フ

拡張試験ノ爲メ山田江口両氏來 雨ノ中デヤリカケタガ發動機廻ラズ中止シテ半日川辺君モ來テ碁ヲヤツテ帰ル 天気ヨケレバ明日來ル由

◆▼289ページ◆▼ 昭和9(1934)年10月4日(木)

天気 曇リ雨

昨夜青木鈴木ノ處ヘ來タトノコトニ話シ取キメノ爲メ鈴木上京サセル

山田航空官江口氏來 縣、埴山、島、サル拡張終リ晝食後帰京。局ト交渉 奥山サル、義勇ローン八〇内部検査ニ明日來場 久シ振リデ南波氏來ル

四時頃出洲ノ齋藤氏ヨリ電話アリ 自分ト奈良原氏ニスグ一力迄來テ貰ヒタイトノコトデアッタノデ義勇ヤ協会ヘ電話シタガ丁度出タアトバカリデ止ムナク自宅ヘ使ヲヤリ自分一足先キニ行ク アトヨリ來。出席者松本博士、加藤、院長、関辨護士、平山製藥研究所長 ソレニ設計技師ノ星君齋藤氏トデアッタ 奈良原氏ヨリ説明アリ 九時半辭シテ帰ル 明日新聞記者ニ發表スル爲メニ打合せト云フコトデアッタガ以上發起人等ニ対スル説明役ニ引出サレタモノラシカッタ  
信太郎徳次研究所ヘ行ク

◆▼290ページ◆▼ 昭和9(1934)年10月5日(金)

天気 曇小雨

今日ハ母ノ日

大坂ノ兄へ送金出来ナイ理由ト今月中二百円位作ル旨手紙出ス

南波氏來 作業サルクラブローン内部検査終ル

昨日大体ハナシキマリ千四百円ニテ賣リキリ明日契約五百円内金 堪航証出テアト金トノコト

安岡高山へ飛行場見ニ出發ス

五時ノ自動車ヨリ一カニ行ク 七時過ぎ宴初マル 新聞記者約十五名位 大沢中氏久シ振リデ会フ

九時半辭シテ昨日ト同ジ電車デ帰ル 奈良原氏ノ推奨演説が大ニヨカッタ。スベテ大賛成デ気分ハヨイ様デアッタ 斎藤氏モ大變ヨロン(ママ)コンデ居タ

森航空官ヨリ内田航空違反ニツキ電話アリ恐縮ス。鈴木ヨリ内田ニ早ク帰ル様打電セシム

▲▼291ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月6日(土)

天気 雨

終日雨 ヨク降ル年ダ

上仲十時迄出テ午後休ミタイト云ノデ止メサセタガ、ヤハリ行カネバナライ處ガアルト云フノデ三時頃帰ヘス 昨日モ休ンデ居キナガラダメナ奴ダ

加藤氏來 北海道ノ話シヲ聞ク サルヲ急グトハ不在中ノ礼ニ來タノデアッタ

明後日ノ検査ニサルノペラナク所沢ノペラハツヒニ來ラズ 夕方東京迄來テ居ルトノコト鈴木カラ借りテ來タガ之レモダメ 明日作業会社ノヲ一本持ツテ來テ見ネバナライ内田へヘラスグ持テコイト打電ス 実ニシヤクニサワル奴ダ

▲▼292ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月7日(日)

天気 雨

終日雨 夕方カラ北風ヤ、強クナル

羽鳥商店トノ拂下出資ニ関スル契約書覚書ヲ作製 ヤ、理想ニ近キモノ出來ルアトノ農業世界ヲ讀ンダリ小供ヲ相手ニ雑談シタリス

朝作業会社へサルノペラヲ取りニタクシーヲヤトツテ行ツタガ使用ノ見込ミナク帰へ 折角大工ヲヨコ(ママ)シテ待タセテ居イタノニ損ヲシタ 内田ヨリ返電ナシ

▲▼293ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月8日(月)

天気 雨

終日ヨク降ツタ爲メニ検査モナシ  
作業会社ノサル発動機組立三二人來ル  
鈴木報告 土曜日ノ取引金間合ワズ今日ノ検査ニ來テ取引スルトノコトデアッタ由  
之レモ雨デ來ラズ 多分ダメダロウ  
沢柳氏ニ颯風見舞ノ返事ヲ出ス 野呂三嘴ノ見積書ヲ作り、南洋航空ノガソリン消費  
量ガ變ツタノデ又ヤリ直シ  
羽鳥商店トノ契約書ヲ覺書トシテ作製 明日会見スルコトヲ奈良原氏へ電話スル

▲▼294ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月9日(火)

天気 晴

昨夜中カラ晴レ今日ハ久シ振リニ青空ガ出タ  
浜野サル吳アンリオ特別検査 辻本、木目田氏ノ外ニ新ラシク入局シタ齋藤氏來合  
格

午後一時半ヨリ上京 局ニ行キ森航空官ヨリ今日電話デ話シガアッタノデ内田二十一  
日迄二局へ出頭スル様打電シタ控ヲ持ツテ行ク。擴張ノ免状ヲ書入レテ貰フ 遠藤氏居  
リ課長カラ洲崎ノモノニ合同セヨトノ説ガアッタトノコト。ソレニ付奈良原氏ニ會ヒタイ  
ト云フノデ同道シテ和合ビルニ行ク 遠藤氏途方ニクレテ居ルラシカッタ。種々催シモノ  
デモシテ金ヲ集メル様ナ考ヘラシカッタガ、僕トシテハソレヨリ合同シテ亜細亞不参加デ  
モ差支ナシ 外四軒テヤツテ其カワリ局デ保障シテ貰フ低利資金ヲ借入レ復興スルコト  
ヲ説ク。ソノ氣ニナツタラシカッタ  
羽鳥氏ト會フ 明日百五十円ダケ準備スル由 アトノ契約ニツイテハ考慮ノ期間ヲ與ヘ  
テ呉レトノコトデタ食ヲ馳走ニナル。後北山清松二千疋屋デ會フ イヅレモ奈良原氏同  
道。齋藤氏ヨリ今日電話デ話シノアッタ製作会社設立ノ件大体意見ノ一致ヲ見タ  
時機尚早 尚同人ハ明日満州へ出發 十一月初メ帰ル由 齋藤氏へハ自分ヨリ返事シテ  
居クコトトス

▲▼295ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月10日(水)

天気 晴

六時半出ル 鈴木、川辺加藤等同道 九時半所沢着  
今日ハ自分代表トナリスラ、ト進ム 三上三引上テ計算ヲシ井上氏ノ表ニヨリ各自ノ  
代價モ出シ晝食後金ヲマトメル 立川ノ納金六木暮君ニ依頼ス 今日ノ落札ハ九百九十  
円。計算ハ千四十二円余トナル 五十円程クラブノ寄付ニナル訳  
スグズット船橋迄帰り自動車五台ヲ用意シ帰宅

今日カラ八時迄夜業  
今日ハ大分ツカレタ

▲▼296ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月11日(木)

天気 雨

朝自動車ト埴山外二名所沢ヘヤル 鈴木買物ト十五日検査ノ打合セニヤル。内田局ニ出頭 ソレニ立会サレ帰宅オソクナルトノ電話アリ 一時半ニテ自分上京。森サンカラ内田ノ事ヲ聞ク。飯沼ト一所ニナリ協会ニ行ク 上仲ノ訪問飛行ノ奨励金安イノデ調べテ見ルト、ヤハリ間違ヒハナイ  
クラブ出席者本日ハ奈良原、木暮、御原、田中、遠藤、飯沼、川辺、梶原、小栗、奥山、加藤、国粹等随分多カッタ 競技会ハ二月迄延期スルコト 其他式ニ決議事項アリ 今日ハ學校合同問題ニツキ大分話ガ出タ

▲▼297ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月12日(金)

天気 曇小雨

颱風ハ太平洋ヲ北東ニ出タノデ北風ヤ、強イ位デスタガアトカラリト晴レナカッタ 石田航空官來 甲三内部検査終ル。軽飛行機中央翼取付及支柱計算ヨカッタ由 中央翼棒一部改造翼ベニヤ板ヲ張ルコトトス  
佐藤ヲ夜坂本氏自宅ヘサルノスプリング見テ貫ヒニヤル  
馬淵後援会ノ青木夜鈴木ノ處ヘ來 千円デトノコトナリシモ千三百円迄出ルコトナリ明朝細迫ト会见スルコトトナル

▲▼298ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月13日(土)

天気 晴

快晴 氣持ヨイ秋日和

安岡所沢出張 煙幕貫ヒニヤッタガダメアッタ。工藤氏來 東京方面写真撮シニ行ク。昨夜丸山ノ連テ來タ嶋君來 作業会社内田ノサル借リルコトニナッタ由。コレデ安心 鈴木上京 夕方電話アリ 手金五百円受取り内百五十円細迫ニ渡シタ由 明日來ルトノコト

検査明日日曜ダガ午後カラ來 明後早朝飛行  
作業加藤君午後ズット居ル 今夜十二時迄夜業  
宮島ノ飛行アス取りニ行ク予定ヲナス

▲▼299ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月14日(日)

天気 晴

午後三時頃南波駒林両氏來 アプロ出來テ居タガ不良個所多クサル間ニ合ワズ。ソレデモアプロ運轉ハ出來タガペラ不良 取替ルコトトナル 夜業ニテヤラセ自分鈴木菅辺二人ヲ送リ夕食ヲ共ニシ九時過ギ帰ル

夕方馬渕外二人來 五時過ギデアッタノデ飛行ハ明朝ノコトニサセル

明日東京ニテ堪航証引換ニ取引スルコトトナル

▲▼300ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月15日(月)

天気 晴

四時半起床 準備サセル 作業会社來ラズ 航空官六時頃來 アプロダケ八時頃検査終了 鈴木ニ登録申請持参サセル

正午内田次郎來 新井課長ガ自分ノ意見ヲ聞イテ來イト云ワレタトノコトニイソガシイガ同行シテ局ニ行ク 新井課長ト會見 内田ノ處分問題ニツキ懇談 大理解アル方法デアッタガ整理課ノ方ガ一寸問題ダト感ジタ

馬渕へ譲ル浜野書類不備ノ爲メ堪航証出ズ 種々対策ヲナシ課長ニモ五時迄居残ツテ貰フコトニナツテ自分ハ帰ル 作業会社ノ判ヲ加藤氏ガ大坂へ持ッテ行ッテシマッタ爲メ明日南波氏特別ニ早朝來テ呉レルコトニナツタガ申請出來ズ 其対策ニツキ夜夫人ト電話デ打合せヲナス

▲▼301ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月16日(火)

天気 曇小雨

六時半南波氏來 五時半安岡梅木君來 六時佐藤出

作業サル九時十五分前漸ク飛ベル 南波氏ノ氣(ママ)嫌悪ルシ。作業会社判午後漸ク出來ソレデモ堪航証貰フ

鈴木馬渕君トノサル取引ノ爲メ朝上京 夕方四時頃帰ル 細迫同道取引無事終了 奨励金ハ馬渕ノ委任状ト判ヲ取り工場ニ預リ金ハ細迫ト半分ヅニ分ケルコト 残金五百五十円ノ中五十円負ケテ呉レトノコトナリシモ之レハコトワリ其代リ五百円今日受取り五十円ハ奨励金ノ時迄延期シテヤルコトニ話シマトマル。鈴木伊ニ特別賞與五十円ヲ與ヘル。

夜青木、馬渕、遠藤君來 委任状ト願書ニ判ヲ取ル 馬渕機同乗者ニカバーキセルコトニナリ今日又一日カゝル

上仲ニ回練習 着陸不良

▲▼302ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月17日(水)

天気 雨

今日モ夜業 九時迄

雨ノ爲メ上仲機桂林機出發セズ

馬淵機安岡操縦羽田迄空輸 安岡其マ、岐阜へ出張ス

▲▼303ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月18日(木)

天気 晴

作業ヲトク励 甲三日日ノ検査ニ充分間ニ合フ様ニシテ作業会社ノ奥サント自動車デ  
羽田ニ行ク。無警告デ羽田ニ來タトテ場長カラ、シカラレタガ之レハシカル方ガ無理ダ  
ガ聞イテ居ク。日日ノ格納庫へ上仲ノアプロト作業ノサル入レテ貰フ。馬淵ノ同乗席デ  
ツケルコト計器ノ付替木下君ニタノム

夕方作業会社ニ帰り宅へ電話ヲカケルト甲三試運轉ノ爲メ出ス時轉覆サセタトノコト  
スグ帰宅。ツヒニ徹夜ノ決意シテヤラセル 尚鈴木ヲ駒林サンへ明日ノ検査ヲ明後日ニ  
シテ貰フ様タノミニヤル

▲▼304ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月19日(金)

天気 晴

快晴 上仲九時十八分發 三保ニテ補給後十二時發 藤枝附近ニ不時着 ピストンニ  
破損 安岡出張サセル

桂林十二時羽田發 二時半名古屋着

夕方角三保ヨリ帰ル

四時四十分木目田辻本両氏へ電報打タセル 木目田氏九時頃來場 昨夜自宅ニ居ラ  
レナカッタ由 飛行機十一時頃完成 運轉試験ヲ受ケル 終ル 明日飛行試験ノ上ス  
グ堪航証貰フ様ニナル 其爲メ鈴木早朝ヨリ局へ出頭セシム 三時半竹崎氏同乗黒沢  
君十年式ヲ厚木ニ空輸ス 四時ヨリ上京 金曜会ニ出ル 木村氏上原氏兒玉氏衣笠氏  
高崎氏奈良原氏出席 松本キク子ノ送別会ガ丁度開カレテ居タノデ菓物ヲ贈ル  
昨夜ハツヒニ徹夜

▲▼305ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月20日(土)

天気 晴



木目田辻本両氏來 三型正午終ツテ堪航証出ル 馬淵機。ペラ交換シタコト話シタ處航  
空法違反ナリトテ大変ナ見舞 シカモ尚不良箇所多ク場長ヨリ課長ニ辻指適(ママ)サ  
レタトノコトデ、スグ代リノペラト検印ノアル。ペラヲ持チ佐藤、高川ト自動車ニテ羽田ニ  
行ク。辻本氏モ來テ居タ。増設タンクモ違反ナリトテカン、。補助翼ノ線全部交換ス  
ルコトトナル 方向舵重カッタノハ木下ノ處デ直シタトノコト 其他数ヶ所アリ。明日辻  
本氏來ルトノコトニ自分等モ木下氏ニ頼ンダダケデハ、イケズ厚木行ヲ中止シテ、オソ  
ク辻作業ス 東日ノ格納庫ヲ借ル 駅前三笠ニトマル

◆▼306ページ◆▼ 昭和9(1934)年10月21日(日)

天気 晴

予報ノ雨ニナレバヨイト思ツタノニ上天気デアッタ 七時過ギ飛行場ニ行キ角モ來タガ  
終日カ、ル 厚木へハ行ケズ

辻本氏 午後晝頃來。東日機ニ台厚木へ飛行 一機着陸 夕方帰ル 様子ヲ聞クト大  
変ヨカッタ由

午後津田沼ヨリ電話ニテ上仲離陸ニ墜落 二人共重傷ナレドモ生命ハ大丈夫トノコト  
スグ厚木へ電話シテ安岡ヲ呼び出ス 鈴木伊四郎今帰ツタトノコトニ安岡急行サセ鈴木  
十一時ニテヤルコトトス 自分ハ明日馬淵ノ機体終ツテ行クコトニ打電ス 又宿ニ帰ツテ  
泊ル クタブレタ 高野松太郎手傳テ呉レテ大ニタスカル

◆▼307ページ◆▼ 昭和9(1934)年10月22日(月)

天気 晴

六時起床 七時半飛行場着 スグサルヲ出シテスト 上等デアッタノデ佐藤ヲスグ厚木  
へヤルコトトス 九時頃松本キク子ノ満州行キ出發ヲ見テ佐藤ト蒲田駅ニテ分レ局ニ臨  
時検査願ヲ出ス 駒林氏ヨリ、オトナシクシカラレル 再ビ羽田ニ帰リイロ、今モ夕方  
迄カ、ル 暗クナル頃馬淵單獨飛行ス 辻本氏西川氏ノ驗査ニテ堪航証今日發行サル。  
菅號モモトノマ、デ油ノ量ガ書キカエラレタダケデアッタ 局デ信太郎ニ会ヒ八十円受  
取ル 後津田沼ヨリ電話デ機送り方付イタカラ今日皆タツ來ルニ及バズトノ入電アリ  
高川ト二人モ宿ニ又引返ス  
東日ノ清水君來

◆▼308ページ◆▼ 昭和9(1934)年10月23日(火)

天気 曇雨

今朝ハユククリシテ八時起床 高川八一五ノ部品貰ヒニヤリ自分日日朝日木暮、高野等

ニソレ、バットヲ送ルコトニシ宿デ買ヒ持ツテ行ク。ソレ、禮ヲシタ處へ局ヨリ馬淵ト來ル様ニ電話アリタリトノコト 例ノコトダトスグ行ク 此頃ヨリ雨本降りトナル。児玉常雄氏課長ト話シテ居タ 久シ振リデ挨拶ス 大分ヤセタ様ダ  
課長ヨリ今度ノ件ニツキ始末書ヲ出セトノコトデ引下ル スグ帰宅ス  
安岡弟ヨリ状況ヲ聞ク。夜アンマヲ取り静養ス

▲▼309ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月24日(水)

天気 曇雨

今日久シ振リデ朝ノ体操ヲナス  
金ノ勘定ヲスル アト心細クナル  
鈴木ニ始末書ヲ書カセ十時頃持ツテ局ニ行ク 丁度晝ニナル 会議中デシバラク待ツ  
課長出テ來タノデ持參シタト云フト今急(ママ)ガシイカラ机ノ上へ置イテ呉レトノコト  
ニ名刺ニ上仲ノ方へ行ク旨ヲ書イテ居イテ置ク。東京駅迄行ツタガ、サクラガ丁度出ル  
處ナノデ止メテ丸ビルニ入り少シ買物ヲシ羽太氏ニ、タバコヲ買ヒ東日ニ行ク 不在デ  
机ノ引出シニ入レテ名刺ヲソエ、スグ帰宅ス

▲▼310ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月25日(木)

天気 雨

終日在所 宗里未亡人昨夜帰ツタ由 二人共経過好き由  
今村厚木ヨリ帰ル 矢野ラジエター修理ノ爲メ厚木へ出張サセル。今朝取ハヅシテ直シニ  
ヤツタトノコトニテ、ムナシク帰ル  
保俣課一月分ダケ持タセテヤル  
風デナクナツタ庭ノ塀ヲヨシヅデ作ルベク自分デ材料ヲ見テ買入レル

▲▼311ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月26日(金)

天気 曇雨

今日モ陰ウツナ天気デアッタ  
午後カラ信太郎ヲ相手ニ庭ノ塀ヲツクル タ方迄ニ大体完成ス 明日八岸ノ家ヲ一日タ  
ノンデ土盛ヲシテ貰フコトトス  
千葉斎藤氏ヨリ明日午後七時奈良原氏ト來テ呉レトノコトニ義勇へ電話ヲシタガ厚木  
へ行ツタトノコトニ厚木へ打電ス 夜返電アリ 行クトノコト  
安岡、矢野ノ郷里訪問ヲ終リ無事厚木ニ帰着ノ由  
馬淵大坂へ松本太刀洗へ着ノ由ラジオデ聞ク

▲▼312ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月27日(土)

天気 雨

今日モ午後カラヌカ雨が降ル

鈴木局へ奨励金ノ願書提出ト義勇へ請求書出ス爲メ上京サセル

早朝奥山ト加藤夫人來 サルガホシイトノコト 内田ノヲ貸サナカッタカラトノコトニ

鈴木ノヲ買ワセルコトトス。能代へ出張中ナノデ打電ス 夕方迄返ナシ

馬淵大坂発明日ニシタトノコトニ大坂へ祝電ヲ打ツ

▲▼313ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月28日(日)

天気 晴

早朝奥山來 鈴木ヨリサルノ返事ナカッタガ後鈴木ノ妻君ガワイヤーノ事ヲ聞キニ來

夕時ニ昨日ノ電報ヲ所長ニミセヨト書イテアッタノデ持タセテヨコスト一四〇〇円ナラ

賣ルトアッタ 作業へ知ラセテヤル 夕方第一二行き妻君ニ進メハシナカッタガ千円位現

金デノコルカラ賣タラドウカ青木ト相談シテ居ク様ニ云ツテ居ク

奈良原氏來 晝食ヲ共ニス

山崎好雄君ガ來ルトテ待ツタガツヒニ來ナカッタ

▲▼314ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月29日(月)

天気 曇リ

第一賣ラスト云フ返事 鈴木千百円トツケテヤッタガダメ 夜妻君來 丁度内田ガ來

タノデ奥山モヨビ十時半頃迄カヽッテ漸ク來月九日迄更ニ貸サセルコトニ話シマトマル

鈴木正憲悪イトノコトニ鈴木見ニヤル 大シタコトハナイノダソウダ ソクマクニフクマク

ヲ起シテ居ル由 然シ再起ハ六ツ間敷カロウトノコトデアッタ由

今村今日モ休ミ 一五ノスケッチオクレル

▲▼315ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月30日(火)

天気 晴

鈴木ニ船橋方面金交渉ニヤル 作業会社ニ三日待ツテ呉レトノコト 其他第一明日

内田行違ニ來 昨日ノ金ガアル筈ナノデ請求シタラ買受ケヲシテ金四十円シカナイカ

ラ二十円ダケニシテ呉レ 五時頃持ツテ來ルト云ツタキリツヒニ來ラズ。アク辻人ヲ馬

鹿ニシタ不都合ナ奴デアル

信太郎ヲ相手ニ庭ノ手入レヲナス。身体工合ヨクナル ヤハリ適度ノ運動ヲセネバイケ  
ナイラシイ  
一五ロンゼロン腐朽シテ居ルノヲ発見 竹内へ手紙出ス

▲▼316ページ▲▼ 昭和9(1934)年10月31日(水)

天気 晴

鈴木義勇へ集金及買物

野呂ヨリ十八円余這入ツタダケ アトドコカラモ來ラズ

早朝奈良原氏來

鈴木夕方帰ル 土地ノ拂ト二三人世帯持チダケ金ヤル

▲▼318ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月1日(木)

天気 雨

曇り後雨

八時ノ自動車ニテ霞ヶ浦行 井上、木暮、佐藤、山田、梶原、自分 十二時下見ヲ終  
リ駅前ニテ食事ヲ取リツ、入札價格ヲ定メ二時二十一分ニテ帰ル 車中井上氏ト厚木  
行キノ打合セヲナス 四日午後野球ヲ見ニ行キタイノデ午前中ニ歸リタイトノコト二三  
時羽田カラ同道スルコトニキメル。木暮君ニ來年度航空予算ノ新規事業ガ全滅ニナツタ  
ニツキ氣勢ヲ上ゲテ通信大臣ヲ声援シテハトノ意見ヲ出シ八日ノ会合ニ議題トスルコト  
トス

協会ヨリ飛行場補助金百三十円受領

▲▼319ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月2日(金)

天気 曇風強

南風ツヨク雨止ム

鈴木ヲ横須賀ノ入札ニ出張サセル

自分ノ遊上氏トノ約束アリ同氏宅へ初メテ行ク 出ル時腹痛デ閉口ス

待チカマエテ居タラシカッタ 輸送事業、保俣ナドニツキ話シヲ聞イタガ自分ノ欲スル處  
ハ聞カレナカッタ 一時間半バカリ雑談シテ帰途義勇ニヨリ志鶴君ニ會フ 奈良原氏ニ  
會ヒ二十円渡シ井上氏ノ打合セヲシテ帰ル  
夕方仁三郎ノ服ヤクツノ買物ニ船橋ニ行ク

▲▼320ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月3日(土)

天気 晴

午前中少シ曇ッテ居タガ次第第二晴レ午後八日本晴レニナル  
八時頃ノ自動車デ出懸ケ十時半東京飛行場着 奈良原氏スデニ行ッテ居タ 最初ノ  
學生航空競技二三等バカリダガ離着陸ハ皆アブナゲナク上手デアッタ 二時迄見テ奈  
良原氏ノ自動車二台(少年等)ト井上氏ヲ案内シテ厚木ニ行ク 四時一寸前飛行場  
着 アブロガドコカカラ帰ッテ來ル處デアッタ 三型ミッスシタノヲ直シタトテテストスル  
ノヲ見テ水明楼ニ引上ゲル 五時頃ヨリノミ初メ柳瀬氏來ラズ 十時過ギニナル ソレ  
カラ青木氏ヤ竹村氏志鶴氏黒沢君ナド次ギ々々ニ來テトウ、十二時半頃終リ井上  
氏止メタガ六理ニ帰ル 反ッテ氣ノ毒デアッタ  
東京飛行場ニテ大坂ノ福知氏ニ會ヒ仕事ノ事聞イテ見ル 羽太氏ト相談スルトノコト  
デアッタ。多分大丈夫ラシイガ大分急グラシカッタ

▲▼321ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月4日(日)

天気 曇リ

寒イ朝デアッタ ヨク眠レナカッタ。時計ガ止ッテ時間分ラズ七時半頃起床 生玉子ニ  
ツノシテ奈良原氏ト飛行場ニ行ク。アブロ尾樫ノ取付破損修理シテ居タ 三型タンク  
上ノ方デ少シ漏リ左下翼支柱取付ボールト一本捻ジ馬鹿ニナリ交換シテ居タ 中々  
手がカ、ルラシイ 十時過ギ受檢シテ一人デ帰途ニツク 帰リニ上野ノ帝展ヲ見ルツモ  
リデアッタガズット帰宅スルコトニシタ  
クラブ作業ヲシテ居タ。少シ横ニナル 一時五十分ヨリノ日米野球戦ヲ聞キナガラ  
夜大口來 南洋行延ビタノデ少シ働キタイトノコト 明日カラ來ルコトニス。  
厚木ノ木工モ明日カラ來ル由

▲▼322ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月5日(月)

天気 曇リ

終日在所 八日ノ受験準備  
乗池ヨリ電話アリ 先日頼ンダモノ明日午後六時半カラ七時迄ノ間大森駅陸側ノ出  
ロニテ会フ約束ス  
作業会社ノ妻君來 サル着陸ノ際破損シタ由 自動車デ送ルカラ直シテ呉レトノコト  
デアッタ  
小カイモノ金ヲアツメル

▲▼323ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月6日(火)

天気 薄曇り

羽鳥商店勘定、仮入金勘定ヲ調査ス 多少ノ間違ヒアリ  
奥山今日來ル筈ノ處ツヒニ來ラズ 安岡ニ請求サセル  
十一時頃石田氏來 一三内部ト輕飛スパ―終ル 帰り同道シテ自分ハ大森下車 丁度  
一時間待ツテ乗池君ニ会フ 久シ振りデアッタ 近クデ紅茶ヲノミナガラ話シヲ聞ク  
一三ベンツノ部品ヲ貰ツテ帰途買物ヲナシ十時過ギ帰宅入浴 十二時就眠  
池本來 一人連レテ來ル ドコカ就職口ヲサガスコト ソレ迄喰セルダケデ居クコトトス

▲▼324ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月7日(水)

天気 曇り

小學校ノ運動会モ朝パラ、シテ居タノデ明日トナル 午後晴レタ  
作業中ノ見込書ヲ作ル  
作業会社デコワシタ内田ノサル到着 大分ヒドカッタ  
奥山來ル様電話シタガ、ツヒニ來ラズ  
内田ノ計算プロペラツヒ三十三円ニテキメル  
池本外一名今日カラ來  
午後羽太氏ニ電話 一三式大演習後連レテ來ルトノコト

▲▼325ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月8日(木)

天気 晴

小學校ノ運動会デ朝カラ小供ハ大嬉(ママ)ビデアッタ  
晝過ギ辻本坂本両氏來 爲メニグライダー出來ズ。胴体アンリオダケ 発ベンツ、ロー  
ンハ〇ヲ受ケル ベンツケース不良ノ由夜帰宅後聞ク  
朝奥山君來 五十円入 破損サル見積リノ事  
午後二時ヨリ上京 協会ニ行キ日誌ヲ買ヒ長山ノ負傷手當金ノ件ヲ聞合セ、羽鳥商  
店ニ行キ二週分ノ計算書ヲ渡ス アト中止シテ來年考ヘサセテ呉レトノコトニツキ明日  
ノ拂下ノ件ハ何ニモ云ワズニ帰ル。ソラデ井上少将ト早稲田ノ伊原教授信岡ト會ヒグ  
ライダー三百円ニテ譲ルコトトス 其代リアト二台三百円ヅ、奨励金貰フコトニス。輕  
飛行機ノ件モ聞イテ居ク  
日本飛行クラブ會合 奈良原、川辺、飯沼、木暮、田中、小栗、梶原出席。廿八日飛  
行ニツキ協定ス 尚予算運動ニツキ自分ノ意見通ツタガ戸川氏ニ交渉ノ件タノマレル

▲▼326ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月9日(金)

天気晴

所沢拂下ノ爲メタクシーニテ船橋ヘ行ク 鈴木奥山同道 十二時過ギ全部終ル 金六奥山ニ出サセル 羽太氏委任ノイスパノ一台モ入金シテ居ク  
帰途飛行協会ニヨリグライダー願書ヲ見テ帰ル  
ベントヒゞ割レ酸素付出來ルガ局デ差支ナイカドウカ聞イタ上決定スルコトトス  
明日ノ自動車式台手配ス

▲▼327ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月10日(土)

天気晴

金太郎ヲ所沢ヘ引取リニヤル  
船橋第一ヨリ平松十年式運搬ス 太田出張サセル  
飛檜不合格ニツキ台檜注文ヲ發ス  
三嘴ノ金來サズ 予定大ニクルウ 材料間ニ合ワズ  
局ニ行キ坂本氏不在 南波氏ニベントヒ酸素付ノ件聞ク 坂本氏ト相談シテ居クトノコト  
月曜日聞キニ行クコトトス  
協会ニヨリ義勇飛行ニ行ク 柳瀬氏今日モ所沢ニ行ツタトノコト 日比谷ノ菊ヲ見テ三時時代社ノ坐談会ニ出席ス 處ガ二時カラデアッタトノコトデ御原氏ハ帰ツタ由 アト鈴木ト奈良原氏ト飯沼ダケナノデ中止スルコトトシ廿八日飛行ノツヒデニ、示威運動ヲヤルコトノ打合セヲ次ギノ木曜ニヤルコトニス 帰宅

▲▼328ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月11日(日)

天気晴

ヨイ天気デアッタ 今日ハ終日在宅  
清平夜ニナツテ來ル 來年四月以後ノ件ニツキ想(ママ)談ハ此次ギニス  
四時頃ヨリ安岡ヲ呼び昨日買ツタ牛肉デ会食ス  
正午頃平松氏來 十年式一月一杯カゝルト云ツテ居ク 少シヅ、仕事ヲ進メテ呉レトノ希望アリ

▲▼329ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月12日(月)

天気晴

三嘴ノ金來ラズ局ノ納金ニ行ケズ  
ベントヒ酸素付ヤツテ見ルコト ソレニ坂本氏立會シタシトノコト  
平松氏同後援者ノ小林氏來 見積リノ爲メ午後ヨリ機体點檢ニカゝル 発動機ハロット

全部ダメ

▲▼330ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月13日(火)

天気 曇り少雨

平松氏ノ見積リヲ終ル 平松氏來ラズ

グライダー重心點ヲ計リ坐席五〇ミリ出スコトトス

野田金一へ二型。ペラ一本 義勇へ四型車輪一組 阿部へベンツケース発送ス

正憲病院ノ件ニテ鈴木千葉へ出張サセル

▲▼331ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月14日(水)

天気 晴

平松君來 イス。パノ發動機交換ノ話シキメタゞチニ猪又ニ拂下ヲ行ヒ鈴木ヲ上京サセ

局へ三十四円五十銭納金 其他買物ニヤル

クラブサル作業会社へ貸スコトニナリ明朝八時小千谷へ安岡同乗埴山ニ操縦 出発スル

コトニナル

三嘴ノ後援者今日夕方入浴中ニ來 會見シタガ今日モ金持參セズタゞ見ニ來タダケ

明朝電爲替スル由 アマリアテナラナイ

夜正憲母來 木村病院今日行ツテ來タ由 轉院ニツキ打合せ 大學ノ様子聞キニヤルコ

トニス

長山ノ目下入院中ノ診断書來 協会へ送ル

▲▼332ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月15日(木)

天気 晴

安岡埴山小千谷行き先方雨ノ爲メ中止

工場内デ部品ノ紛失ヲ防グ爲メノ入レモノヲ作ル 終日カゝル

鈴木千葉保倫課ニ行ク 藤田入院中ノ件 二時過ぎ南波氏ヨリスグコイト電話アリ上

京 局ニ行ク 南波、白石、吉原三氏ヨリグライダーノ購入ニツキ話シアリ 先日ノ信

岡ノ話シト重役ノ感アリ 信岡ト會見 コチラノ内容ヲ諒解サセルコトトス

▲▼333ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月16日(金)

天気 晴

数日來ラジオ体操ニ発声スルコトニシタラ大變身体ガアタマツテ腹ガ空イテヨイ工合



DEAL

十時頃ヨリ上京 買物ヲシテ局へ上仲ノ事故報告ヲ出シペラノ試験片ヲ置イテ來ル。  
佐藤其他デア買物ヲナス。グライダー用羽布ハ代引デ送ラセル 東日ニ行キ一時間程待  
ツテ羽太氏ニ會フ 四十円貰フ 一三式一ヶ月延期シタ由。作業ヲ木下ニヤラセルトノ  
説ガアル由。ドウモ、ユダンガナラナイ。アトデ考ヘタコトデアッタガ今日ノ四十円取ラ  
ネバヨカッタト思ツタガソレデハ差當リ仕事ニ差支ヘルノデ、貧棒(ママ)ハツライ。コレカラ  
少シ余猶ヲ取ルコトニシタイ

金曜日ノ例会今日ハ安満氏ト上原氏ダケ 外ニ内田君ガ來タダケデアッタガ安満閣  
下ノ日露戦争談デア愉快デアッタ

◆◆3334ページ◆◆ 昭和9(1934)年11月17日(土)

天気 晴

上京 佐藤ニヨリ日日ニ行ク 羽太氏ニ會フ 廿一號整備ノ件話シ合フ 大蔵ガ木下へ  
ヤレト云ツテ居ルラシイトノコト ソンナコトモ有リソウニ思ワレル

飛行館ニ買物ノ荷物ヲ置キニヨルト丁度工場カラ電話ガカツテ居テ今夜八時頃平松  
氏宅ヘ行き金受取ルコトヲ聞ク 義勇ニヨリ武崎氏ト前ノコーヒー店デア先般來自分ノ  
感ジタコトヲ述ベル 氏モヨク分ツテ居テ奈良原氏ノ軽率ニハ困ツテ居ルラシカッタ  
阿部ニヨル 丁度今荷物ガツイタトノコトデ見テ貰ヒ明後日午後作業スル由。飛行館ニ  
帰ル。木暮、鈴木、田中、小栗、遠藤、奈良原、高橋、川辺出席 廿八日航空振興デ  
ーヲ行フコト及方法ヲ決定ス。コレデ自分ノ提案ガ通ツテ一安心 ツヒデニ大坂ノ井上  
カラ今朝云ツテ來タ大朝小西氏ノ七十七ノ祝ニ対シクラブヨリ金二十円ヲ記念品代  
トシテ贈ルコトニ決ル

◆◆3335ページ◆◆ 昭和9(1934)年11月18日(日)

天気 晴

日曜ダガ今日ハ休マズ九時ノ自動車ニテ千葉ニ行ク 徳永氏ニヨル 今日ハコレカラ會合  
ガニツアルノデトテ湯浅ナル人ノ所ヲ教ヘテ呉レタ 蘇我野ニ田蒲(ママ)ヲ飛行場ニスル  
運動ダソウダガ今日ハ行ク事ハ中止シテ白戸ニ行ク 妻君ニアラカジメ話ヲ聞イテ妾宅  
ニ行ク 今日カラ自力デ起キフシガ出來ル様ニナツタトノコトデアッタ ヤセテ細クナツ  
テ居タガ、思ツタヨリ元気デアッタ 十一時カラ一時迄話シテ帰ル 正憲ノ木村病院ニ  
ヨル 醫者居ラズ看護婦ニ様子ヲ聞クト大分ヨクナツタトノコト 帰宅

◆◆3336ページ◆◆ 昭和9(1934)年11月19日(月)

天気 曇後晴

終日在所 午後一寸船橋第一二行ク 廿八日ノ件 明日検査ノ件 津田沼八廿二日トナル

平松氏來場

吉原君ヨリグライダーニ台決定シタカラスグカ、ツテ呉レトノコトデアッタ

◆▼337ページ◆▼ 昭和9(1934)年11月20日(火)

天気 曇晴

晝頃南波氏來 晝食ヲ共ニシグライダーヲ見テ共ニ上京 氏ハ報知ニ行ク 自分ハ日日ニ先キニ行ク 羽太氏丁度出懸ケル處デアッタノデ廿八日ノ飛行件代リニ話シテ居ク。報知ニ行ク 吉原南波氏ト會ヒグライダーノ打合セヲナシ、廿八日ノ飛行ヲ話シ大體承認ヲ得 終ツテ朝日ニ河内君ト會ヒ小西氏ノ件日本飛行クラブハ僕ガマトメタノデ東京飛行クラブノ方河内君ニマトメテ貰フコトトス。阿部ニ行キ酸素付ヲ見ル ヨクツイテ居タ。アレデハ大分金ヲ取ラレソウダ。義勇ヨリローンノ件金ガ間ニ合ワナイノデ川辺君ノデハ廿八日迄ニ出來ズ 現在ツイテ居ルノヲ分解手入レスルノガ一番早イノデアウ 明日エンジンヤヲヤルコトニス

五時飛行協会ノ懇談会ニ出席 マダダレモ來ナカッタ 会スルモノ日本ヒ行クラブ会員ト記者クラブ陸軍海軍カラ各一名ツ、輸送会社位デ大新聞社ハコナカッタ。義勇飛隊常備ノ件其他色々出タ 奈良原氏拂下機ノ件一寸舌禍ヲマネク アマリ輕率ダカラコマル。海軍ノ加藤氏カラ合同問題ガ出タノハ嬉シカッタ ソレニ対シ奈良原氏早速自分ノ持論ヲ述ベテ呉レタノハヨイガ、少シ徹底ヲカク 九時散会 技術課長モ來テ居タ

◆▼338ページ◆▼ 昭和9(1934)年11月21日(水)

天気 晴

六時二十分起床 六時半ヨリ体操 新聞 朝食 以上ハ此頃ノ日科デアル 酒モ夜ヤメタノデ腹ノ工合モ大變ヨクナッタ

午前中輕飛行機ノ部品写真ヲ取ル

午後二時頃ヨリ上京 局ニヨリ明日ノ検査ノ打合セヲナス 技術課長ニ此間カラ聞キタイト思ツタ輕飛行機クラブノ件ヲ聞ク 予算ガ取レレバ補助ヲ出ス考ヘデアルトノコト學校ノ合同問題ハ別ニ考ヘテ居ラナイ由

四時五十五分馬淵君ノ東京駅着ヲ向エニ行ク 亜細亜關係ノモノガ大分來テ居タ 其他ハドコモ見エナカッタ

▲▼339ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月22日(木)

天気晴

駒林木目田両氏來場 クラブアンリオ完成。グライダー完成 (早稲田行)野呂機体内部クラブ甲四発内部、鈴木克。バラシユート等順潮ニ終了ス 四時過ぎ帰ラル各務ヶ原高等學校ノ竹内山口分向フヲ止メテサルデー等ヲ取りタイカラト來タ 安岡ト話シサセル。名古屋ト各務ヶ原兩校ノ問題ヲ聞ク。ドチラモ大變インチキガアルラシイ

▲▼340ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月23日(金)

天気晴

朝例ノ通り

終日在所 午前中グライダー製作見積書ヲ作製 其他ノ書類ト共ニ信岡ニ送ル  
午前中ニ加藤氏來ル予定デ待ツテ居タガ夜六時頃來 夕食ヲ共ニス 鈴木ヲ呼ビニヤリ、ツヒデニ用件ヲ終ル 八時頃帰ル  
六時半頃馬淵君挨拶ニ來 スグノ自動車デ帰ル  
作業会社ノサル羽根ダケ來ル 明日機體來ル由  
工場夕方ノ仕舞ガアマリ早イノデ今日カラ鈴ノ鳴ル迄仕事スル様申渡ス

▲▼341ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月24日(土)

天気晴

十時頃ヨリ上京 佐藤ニヨリ局ニ行キ拂下ト登録申請願書ヲ出シ田中ニ會フ 廿八日飛行願ノ委任状送ルコトヲコトツカル  
丸ビルニテ晝食 スシデ三十銭 森永デニ円デ洋菓子ヲ求メ羽田ノ日日格納庫ヲ訪レ  
一三式注文ノ予備工作ヲナス 丁度報國セメント号ノ献納式アリ 飛行振りノアザヤカナノニ驚ク  
瓦斯電ノ改造千鳥号ノ飛行振りモ見ル。新ラシク來タダグラスノ組立中ヲ見ル コンナ飛行機ヲ作ル様ニナレルカシラト思タ  
帰途阿部ニヨル マダヤツテナカッタノデ急ガセ日日ニヨリ羽太氏ニ會テ廿八日ノ飛行承認ヲ得 一三式ノコトモ頼ンデ帰ル

▲▼342ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月25日(日)

天気晴

今日ハユックリ寝テ運動休ミ

午前中在所 午後船橋へ散髪ニ行キ第一ニヨリ廿八日飛行委任状田中へ送ルコトヲ話シ作業会社ニヨル 丁度行ク處ダッタトノコト。イヨ、出資ガキマツタラシク飛行場ヲ羽田ヲ借りニ行ツタ處局デコトワラタトノコト 外ニイカトノ想(ママ)談デアッタガ羽田ヲ借りラレル見込ミアルカラ大ニヤッタ方ガヨイ 尚考慮シテ居ク旨答へテ帰ル 山崎好雄氏來テ居タ。ソアラノ方向舵改造ノ爲メ 夕食ヲ共ニシテ帰ル

▲▼343ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月26日(月)

天気 雨

終日雨 在所 今朝六七時半起床 運動ヲ休ム

グライダー方向舵着手シタガ余リニ大キ過ギテ問題ニナラズ 山崎氏ニ電話シテ中止ス

午後盆栽其他ノ霜除ヲ作ル

▲▼344ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月27日(火)

天気 曇小雨

終日在所 朝グライダー方向舵ノ設計ヲナシ作ラセル 山崎氏カラ圖面送ツタト電話ガアツタガソレデハ間ニ合ワナイノデ進メサセル

明日ノ飛行ト会合ニ対シ会費出來ズ 來ルベキ練習生モ來ラズ閉口ス

夕方加藤直助氏來 明日明後日飛行スルコトニナリ折角ツケタ、ダブルハンドルヲ又取ルコトトス

午後汐引カズ洲崎へノ飛行明日ニス

陳情書タイプライターノ件洲崎へ電話シテ田中へ連ヘル様依頼ス

▲▼345ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月28日(水)

天気 晴

今日ハ急(ママ)ガシイ 飛行館へ九時半迄ニ行クベクタクシード作業会社ニヨリ三十円受取り船橋ヨリ上京 新橋デ丁度九時半デアッタ 協会ニ行クト相羽ガ今迄待ツテ居タガ帰ツタトノコト 二三十分シテ遠藤來 二三十分シテ鈴木來 十時一寸前奈良原氏來 田中來ラズ 電話デ話ストマダ各省へ出スタイプライターモ打ツテナイトノコトツヒデ中止ス 午後一時半ヨリ協会ノ祭禮ニ列ス 風強ク飛行機飛ベズニ三機飛ンダダケ。コレデ自分ノ計畫モウマク行カナイノハヨイガ、一同ノ不熱心ニアキレ今後シミ、ハ、自分ノ工場以外ノコトハ進ンデヤラナイコトニキメル 夜モミジデ野武士会ノ会合 出席

十五名 内大坂カラ三四名出席 ナゴヤカナヨイ気持デアッタ 中ニモ津田沼係ガ大部分アッタコトハイササカ気持ヨカッタ 十一時散会 十二時帰宅。晝ノ不快ヲ夜トリモトス

▲▼346ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月29日(木)

天気 晴

終日在所 昨日新聞社ノ飛行ニ対シ禮状ヲ出ス  
木暮君アテナクラブ理事ノ辭表ヲ出ス  
今朝ハツカレテ八時前起床  
霞ヶ浦ノ引取り自動車四台ト金太郎高川信太郎外数名出張 人夫五名タノム 七時頃迄ニ全部帰ル

▲▼347ページ▲▼ 昭和9(1934)年11月30日(金)

天気 晴

今日モ七時半起床  
金ナク支拂不能 昨日ノ運賃ヲ一時立替エ拂トナシ、猪又ニ廢材拂下ヲ行フ

▲▼348ページ▲▼ 12月

- 一 大努力収支予算ヲ実行ニウツスコト
- 二 大毎機注文取ルコト

▲▼349ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月1日(土)

天気 晴

グライダ―ノ爲メ全力ヲツクス  
一ニベンツ酸素付ノ部分仕上ゲヲ初メル。時々注意ヲ與ナイトヤハリダメダ  
平松君出資者ラシイ人來  
牛俵根岸君來 一ニ拂下ニツキ相談アリ 発ニ一台アリトノコトニ引受ケテ向フデ入用ノモノダケ渡スコトトシ明日井上氏ノ諒解ヲ得ル由  
義勇ノサルヨット鉛筆寄贈ノモノ命名式ニ時カラアルトノコトニ晝カラ出懸ケル 自動車一台遅レニ時半着。夕方安岡ト共ニ帰ル。食事ヲ共ニス

本記事ハ二日分ナリ  
一日ノ分ハ二日ニアリ

◆▼3550ページ◆▲▼ 昭和9(1934)年12月2日(日)

天気 晴

今日モ七時過ぎ起床 今日デ体操ヲ四日休ム  
寢床ニ居ル内ニ徳次ガ艶チヤンガ來テ居ルヨトノコト 昨夜十一時半頃來タ由 主人ガ  
變ナマネスルノト繼母ガヨクナイノデ逃ゲニ來タトノコト 大口ガ來テ主人デハ泣テ居  
ルトノコトデアツタガ帰ル筈モナカッタ 家内ガ大口ト色々話シテ居タ  
正憲轉院ノ爲メ同母ト千葉木村病院ニ行キ院長ニ會ヒ話シテ井上病院ニ入院サセル  
佐々木泰介來 アブロ支柱其他ノ部品ヲヤル  
今日カラ六時迄時刻ヲ延ハス

此記事一日ノ分

◆▼3551ページ◆▲▼ 昭和9(1934)年12月3日(月)

天気 曇リ

南波吉原両氏來 明日正午グライダー取りニヨコスカラ最(ママ)非間ニ合セテ貰ヒタイ  
トノコトニツヒニ徹夜ト決心ス  
平松氏來 ケビンニスルコト百円ニテ取キメ種々希望ヲ聞ク ラジエターノ改造トエキゾ  
ーストパイプ取付ハ未決定  
夜十二時半自分ハ床ニツク

◆▼3552ページ◆▲▼ 昭和9(1934)年12月4日(火)

天気 曇雨

十時頃自動車デ取りニ來タ 今村一睡モセズ 其他少シヅ、眠ル デモ大部分徹夜  
二時全部完成 少シ部品付ケノ残りハ向フデスルコトトシ重心點迄ハカツテ積ム 三時  
半自動車出發ス 今日三時五十分池袋発ノ電車ニツム予定ノ由 間ニ合ワズ、其マ、向  
フ進行ク様ニセラレテハト來タ人ニ話シテ居ク  
今日ハ早仕舞ニス

◆▼3553ページ◆▲▼ 昭和9(1934)年12月5日(水)

天気 曇り

昨夜雪降り一寸程ツモル 例年ヨリ二十日早イ初雪ノ由 不在中ノ事ヲ書キ残シ所  
沢ニ出張

一時頃拂下全部終ル 二時頃信太郎來

拂下サル發一クラブへアンリ才貰ツタガ之レハ義勇へ振り替エル 引取りハ作業会社へタノ  
ム

夕方町ヲ散歩シ神明社ニ詣デル 二十年振りニ上ル岡 ナツカシカッタ 夜曲馬ヲ見ル  
十時見残シテ歸ル

◆▼354ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月6日(木)

天気 晴

七時四十三分所沢發ニテ奥武蔵ニ向フ 大蔵平ヨリ徒歩 途中便所ヲ借りタ家デ菓  
子ヲ買ヒ登ル 此道ニカッテ下ッテ來ル今村角ニ會フ 余リ何モナイノデ食料ヲ買ヒニ  
行ク處トノコト 別レテ一人登ル ダン、苦シクナル 出タラメ俳句ヲツクツ、十時半  
頃漸ク第一小屋ニ着ク 大野村ノ人達四五人里ノ話シヲ仕合ッテ居タ ノンビリシタ  
風物 飛行場ヲ見タガドウモ初心者ノ練習場ニナル様ナ場所ハナサソウダ 午後二ナッ  
テ今村角歸リクラブ員数名來 夕方吉原君ト南波氏來。夜電燈ツカズ  
グライダー運搬終ル 暗クナル

◆▼355ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月7日(金)

天気 晴

第二小屋前ノ飛行場へグライダーヲ運搬 組立ヲ初メル 工場外ノ大形機夕方暗クナ  
ル頃試飛行無事終ル 小町ノ方ハ明日ニナル 芝ニテ作ツタトハ正午後試飛行二十五秒  
其間二枚写真ヲ取ル

四時歸ル爲下山スル予定ナリシモ飛行ガ五時過ギタノデ今一泊スルコトトス

◆▼356ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月8日(土)

天気 曇

アトノコトヲタノミ六時半出發 角ヲ連レテ下山

八時二十分ノ自動車ニテ十時半池袋着 朝晝食ヲ取り角ヲ津田沼ニ歸シ山へ持參ノ  
タンバツクルトピンヲ信太郎ニ持參セシム 自分ハ局ニ行キ結果ヲ報告ス 早川氏報知ヨ  
リ堪航証取りニ來テ居タノデ写真ヲ依頼ス

馬淵ト吳ノ補助金問題ニツキ課長ト相談 結局ダメトナツタガ井上氏ノハカライデ吳

ノダケ再提出シテ居イタラ何ントカスルトノコトデアッタ 課長ト約一時間話ス内陸軍  
デハ二三ノ民間學校ダケニ拂下ヲナシ他へ出サナイコトナドノ話アッタ由 イヨ、ノ自分  
ノ予感ガ適中シテ來タ 之レハマダ決定シナイソウダガダン、スベテノ點ニソシナコトニ  
ナルモノト考ヘラレル

報知ヨリ現像シタノヲ見ル 予期シタヨリヨク出テ居タ。早川氏リンクス利用方法ニツ  
キサルニ付ケル様ナ話シアリ 新機製作ヲ進メテ居ク。南波氏下宿ニ行キ切符ト巻ゲ  
ートルヲ受取り池袋ニ行ク 信太郎オソク四時ノ電車ニテ出發ス。夕方帰宅 クタブレ  
タ 湯ニ入り夕食モウマカッタシアンマヲ取り床ニ入ル

◆▼357ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月9日(日)

天気晴

予期以上ノ上天気

発動機ダケ作業シベンツノ摺り合セ二人ダケ徹夜ス 信太郎今村夜十時頃帰ル 昨夜  
大蔵平ノ大野屋ニ泊リ今朝五時ニ出テ登山シタトノコト 大ニ我が意ヲ得タ 大分役  
立ツ様ニナツテ來タ

奥山君三時頃來 明日大野へ百円送ツテヤリタク相談シタ處自分ノ處ニモ入用デ金ヲ  
作りニ行クトノコトニ最(ママ)非タノム

夜本年下志津組ノ爲メ練習ニ來テ居ル、モノノミ七名集メテ教官係ト会食ス

◆▼358ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月10日(月)

天気晴

正午石田航空官來場 四時半帰ラル 軽飛胴体圖面検査 一五ロンゼロン交換箇所  
第一アブロヘラ修理要領ヲ聞ク

奥山金出來ズ 大坂へ廿五日迄ニ最(ママ)非送ル旨打電ス。金少シモ送ラズ 倉庫品少  
シ出シ猪又カラ四十円取り必要ナモノダケ分ケル

大格ノ前溝コンクリート初マル

内田君來 木村氏ノ翼面積ト速度ガ出テ居タダケ何ンモナカッタ。報知ノ方有望  
ナノデ至急設計方ヲ急グ

◆▼359ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月11日(火)

天気晴

奈良原氏來テ待ツ 昨日東京内務省土木課ニ出張許可ニナル様ニナツタトノコト 共  
ニ上京 新橋デ分レ協会ニヨル 長山ノ見舞金正憲ノ金、グライダーノ奨励金等倉重



君ニタノミ井上少将ニ會フ。グライダー十台式千円デ作ラヌカトノコト。トテモ出來ソウニナイガ調査スルコト。輕飛行機ニ対スル三千円補ノ件ニツキヨク聞ク。三千円補助デナク一万円ノ機体トスレバ七千円ヲ飛行協會ニ寄附シテ一万円ノ飛行機ヲ無賞(ママ)貸與ヲ受ケルノダソウダ。局へ行ク。會議中ニテ会エズ。四時近ク迄マツタガダメ。角田氏ニ書イテ依頼。東日二二三ノ件ニツキヨクツタガ、タレモ居ラズ。報知ニヨリ吉原君ニ會フ。ソワラーノ方改造ヲ要スル爲メ東京へ運ンダ由。尚輕飛行機ノコトヲ話シテ居ク。帰途買物ヲナシ七時頃帰宅。マダ夜業シテ居タ。發動機八十二時迄。

▲▼360ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月12日(水)

天気晴

晝食後船橋第一ヘイス。パノ三百借リル事ト明日ノ甲四試飛行ノ件依頼ニ行ク。少シ暗クナル迄練習ヲシテ居タ。

東日羽太氏ヨリ一三今日行クトノ報ガアツタガ後チ明日行クト電話アリ。

▲▼361ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月13日(木)

天気晴

西川駒林両氏來場。平松十年式機体發。クラブアンリオ機体。野呂イス。パノ、イヅレモ内部検査終ル。甲四完成検査発廻ラズ中止。四時頃漸ク廻ル。調子尚不良。一二三ベンツ、サンソ付ノ處全体生サネバダメダトノコトニテ不合格。三嘴ニ其旨ツタエル。尚瓦斯電乗池氏ニ電話スル。夕方返事アリ。修理ハダメ。新品ハ高價ニテ話シニナルマイトノコト。値段不明。

四時大每一三岡氏操縦ニテ來場。直チニ両翼ヲ卸シ格納。岡、須田両氏ト鈴木館ニ行キ夕食ヲ共ニス。發動機本日夜業休。本日全部夜業休マセル。

▲▼362ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月14日(金)

天気晴

午前中修理見込書三通作ル。午後大每一三式大体調査。

夕方遠藤氏來。アプロ修理金貰ヒタイトノコトニ明日局デ會フコトヲ約ス。

鈴木伊四郎明日五十円入用ハヨイガ自分ノモノト思ツテ最(ママ)非都合シテ呉レト書イテアツタノデグットシヤクニサワル。ヨツテ自分ノモノト思ハ延バセルダケ延バス。君ノモノト思ツテ考慮シテヤル。明日平松氏ノ金ガ來ル筈ダカラ其内カラ取レト書キ置ク。

◆▼363ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月15日(土)

天気 曇り

六時半遅レテ四十分自動車來 横浜駅ニテ多田少将ニ會フ 追浜ガ広クナッタノニ六驚  
イタ 航空廠長ノ挨拶ガアリ見學ヲ終ル 十一時半アマリ急ガサレルノデ、サツパリ分  
ラナイ ツマラヌ見學デアッタ 終ツテ晝食代リニサンドウツチトノリ巻ノ馳走ニナリ十  
二時二十分ノ自動車デ田浦追送ラレ帰ル 局カラ西川、駒林、木目田、石田、坂本ノ  
都(ママ)氏來テ居タ

松永廠長カラ非常時突破ニツキゲキレツナ話シアリ

二時航空局ニ行ク 遠藤君待ツテ居タ 同氏ノアブロ奨励金願書ヲ作テ出ス 日日ニヨ  
ル 羽太氏不在 報知ニヨリスグ帰宅 非常ニツカレガハゲシカッタ

鈴木氣ニナツタガ帰ル追待ツテ居タ 平松ノ内ヨリ五十円渡ス 養命酒ヲ取りニヤリ早  
ク床ニツク

◆▼364ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月16日(日)

天気 晴

発動機休 組立作業

正午頃川辺ヨリ電話アリ アンリオ青山ノ應接ニ出張サセル 百五十円ノ由

朝奈良原氏來 晝食後ユックリシテ帰ラル 十円差上ゲル

昨日平松氏三百円持参ニツキ皆ンナ二分ケル 沢山ハヤレズ閉口

◆▼365ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月17日(月)

天気 薄曇り

十時ノ自動車ニテ上京 榊ニテ根附ヲ買ヒコーケンエナメルヲ送ラセ東京駅ヨリ瓦斯電  
ニ行ク 丁度十二時半ニテ休ミノ終ツタ處 乗池ニ會見ヲ申込ンダガ三十分待ツテモ來  
ラズ 販賣ノ人ニ會ヒベントノケースノコト聞ク 全部海軍へ納入スルコトニナリ一ツ位ア  
ルカモシレヌトノコト ソレヲ調べテ今日中ニ返事シテ貰フコトヲタノミ局ニ行ク 井上氏  
ニベントノコト聞ク 安藤二十日來ルカラ譲ラセルトノコト 坂本氏ニアレヲ販賣シテ貰  
フコトモタノム 駒林西川両氏不在 明日ノ検査ノコト分ラズ 協会ニ行ク 吉原ニ會フ  
グライダー奨励金貳百五十円シカ下ラヌトノコト 小野氏井上氏ニ聞ク ヤハリ其通  
リ 井上氏君ニ合ス顔ナイガ、何ニカ入レ合セスルトノコト。アトノ十台ニツキ予算交渉  
三百五十円ヲ最低トスルコトニ話シ會フ 正憲、長山、馬淵金ノ件打合セ義勇ニヨリ、  
日日ニ行キ羽太氏ニ會フ 大毎ニテグライダー聯盟ヲヤル爲メ明日福地ニ上京スル由

一三修理ノ打合セシテ帰りニ買物ヲナシ八時津田沼ニ帰宅 夜業ヲ見テ晝食夕食ヲ共ニス。其割ニツカレナクッタノニ二三日来養命酒ヲノンデ居タ爲ラシイ

▲▼366ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月18日(火)

天気 曇後晴

今日ハ暖イ日デアッタ 例年ヨリ十二度モ高イ由

夜業八時迄

平松後援者小林氏來 計畫ナルモノヲ聞ク 東京市ノ防護圈ニ飛行機ヲ持タセ積極的防空ヲ行フモノニテ二十六区ニ全部飛行機ヲ作ラセル由 今ノ八千住区ノモノデアト今一台スグカゝル由 自分ニ顧問ニナツテ呉レトノコト 承認ス  
午後散髪ニ行ク 夕方三嘴ノ後援者竹石氏來 ベンツヲ見セテヨク説明シテ居ク 三嘴カラヨク通 ■シナクッタラシイ

▲▼367ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月19日(水)

天気 晴

局協会、羽田、東日へ上京 協会ノ金、長山ノ金、其他用件 羽田イス。パノケースノ爲メニ行ツタガム駄デアッタ 井上氏ニ依頼 明日霞ヶ浦ニテ拂下ノモノヲ方向ヲ購シテ貰フコトニナル

七時ノ自動車ニテ帰宅 福知氏明日帰坂スル由 夕食ヲ共ニス、ベク依頼シテ居ク

▲▼368ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月20日(木)

天気 晴

駒林坂本氏來 中田飛行中カバーノナツト取レ油モリ廿五分ニテ着陸 不合格トナル。アンリオノ発動機モ不合格 一五フロートダケ不合格 以上ノ次第デ今日ハマコトニ不出來デアッタ

第一カラ歳暮ガ來タ 夕方カラ上京 福知氏ニ會ツタガ今夕親類ノ会合ガアルトノコトデ夕食ハダメトナツタ オガケデ十五円バカリタスカッタガ羽太氏ニ今月手金ノコトヲ聞ク 五六百円ハ最少クレルトノコトニ帰宅 昨日ト同ジ電車ニテ帰ル

▲▼369ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月21日(金)

天気 曇リ

終日在所 昨日信太郎清平ヘヤッタ 今日帰ッテ來タ

厚木中學カラ手金百円奈良原氏受取ツテ來ラレタノヲ夜信太郎ニ貫ヒニヤル 別二年  
末ノコトトテ一十五円先生ニ贈呈 マダアト何ントカセネバナルマイ  
甲四準備サセル クラブ休ム  
年末予算ヲ立テタガ、ドウモ足りナイ

▲▼370ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月22日(土)

天気 晴

終日在所 大毎機見積リ準備  
工場作業ノ予定打合せ会ヲナス

▲▼371ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月23日(日)

天気 雨曇リ

大毎見積書ヲ作製 ヤハリ予定通り三千余円トナル  
今日ハ非常ニアタタカイ日デアッタ

▲▼372ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月24日(月)

天気 晴曇

山田航空官來 擴張試験縣ノ高等飛行 安岡ノ甲四 飯田ト山口ノサル夕方終リ四  
時ノ自動車ヲオタクシーニテ共ニ上京 東日ニ寄り羽太氏ニ見積書提出 三千五十余  
円ニナツテ居タノデ見積リ調書ヲ持ツテ行ツテ念ノ爲メ見セル  
長山ノ通知書第一へ來 午後千葉へ取りニ行ツタガマダ通知來ヌトテ受取レズ。佐野ノ  
小切手銀行ヨリ通知アリ クラブヨリ六十円 中台ヨリ十円借りテ七十六円入金ス  
夜東京飛行クラブノ忘年会ニ行ク オデント酒ダケデアッタガ協会ノ井上氏ト議論シ  
テノミ過ギル 帰ツテクルシカッタ

▲▼373ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月25日(火)

天気 晴曇リ

九時起床 気分ハ割ニ悪クハナカッタ  
今日モ又支拂ヒニツキ苦心調節ヲハカル マダ成案ヲ得ルニ足ラズ 取ル方ヲ請求サセル  
夕方高見氏來 久シ振リデ會フ 夕食後七時ノ自動車デ帰ル

▲▼374ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月26日(水)

天気 晴

八時前ノ自動車ニテ金町ヨリ霞ヶ浦ニ行ク 今日ハ大シタモノハ何ニモナカッタ。早く下見ヲ終ツテ十二時ノ汽車デスグ帰ル。協会長山氏ノ金マダ千葉へ來ナイトノコト。電話シテ聞キ合セロト昨日送ツタバカリダトノコト 鈴木ガ受領書ニ印ヲ押サナカッタ爲メト分ル

▲▼375ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月27日(木)

天気 晴

羽太氏ヨリ電話アリ午後上京 グライダー聯盟ノコト 同聯盟ノ理事?ニナツテ呉レトノコトニ承認ス 藤原、四王天両氏ニ交渉ノ爲メ帰京 今夜ニモ大坂へ行ク予定ノ處 藤原氏ニ會エズ明日帰ルトノコト 手金五百円明日貰フコトニナル 買物シテ帰ル 鈴木横須賀へ入札ニ行ク。行キト帰リニ局ト協会ノ金確メニヤル

▲▼376ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月28日(金)

鈴木上京 グライダーノ金取リニ 外支拂最小限度

午前千葉縣庁へ長山ノ金取リニ行ク 十一時半迄待ツタガ振替貯金ニ入金來ラズ 縣ノ金ヲ立替テ貰ヒ稲田ノ分ト六百円受取リ其内ヨリ借りテ高橋地所買戻シニ対シスル内金五十円ト歳暮料トシテ十円渡ス 一月中ニアト百五十円ヲ入レテ買戻契約書ヲ作ルコト ソレ迄領収書預リ居クトノコト 買戻價格千円見當ニトノコトデアッタ 帰宅後局ノ奨励金通知アリ 局へ取リニヤツタガマダ來テナカッタノデ信太郎ニ其内ヨリ長山へ二百円送金(電報ニテ)スル様命ジ上京 東日ニ行キ五時一寸前五百円受取ル。グライダー聯盟ノ件朝日ノ河内ガ最(ママ)非ヤルトノコトヲ聞イタノデ局カラ話シテ、ツケサセル様進言ス

五時曙ニ行ク 児玉静治氏ト山崎氏ガ來ナカッタダケデアト全部 外ニ臨時鈴木伊ト黒沢出席 十時終ル 盛会デアッタ 五十円カゝル 十一名 上原、安満両中将ノ書ヲ書イテ貰フ

▲▼377ページ▲▼ 昭和9(1934)年12月29日(土)

天気 雨雪

工場整理三時頃終ル 給料渡ス 大部分全部ヤルコトガ出來多額ノモノダケ平均半分位ヅ、残ル

アト宮崎カ作業会社トチラカ呉レレバ東京ノ古イ支拂ヒノ外ハ皆終リヤ、樂ナ越年ガ出來ル訳ケデアル。宮崎へ送金ヲ依頼シテヤル

◆▼378ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月30日(日)

天気晴

明日ノ支拂ヒドウシテモ不足 宮島ヨリ返電ナク今日モ請求ス

上京 三越シニテ大毎東日社員ト乗池君、富田氏ヘソレ、歳暮ノ送リモノヲシ義勇ヘモクツ下半打ヲ求メテ行ク 奈良原氏不在 外皆居ル アプロ十年式金ナキ爲メアソリオヲ整備スルカラ金ノ出來ル迄中止シテ呉レトノコト

岡田勇氏ニ來テ貫ヒ附近ニテ會ヒ約手ニ枚渡スアト一枚入ル由 金宮島カラ來タラ送ル約束シテ羽島商店ニ行キ一月二十頃迄返金ヲ延期ス。東日ニ行ク 羽太岡氏ニ會フ 藤原氏聯盟入り承認シタトノコト

帰宅明日帰途奈良原氏宅ニヨリクラブヨリノ二十円渡シ四時十分迄話シ會フ 今日電車ノ中デ考ヘタ各府縣ニ輕飛行機ヲ、ソナエサセル策奈良原氏大ニ賛成セラル。五時船橋駅ニ行ク 五時半川辺君ニイダカレ鈴木克衛君帰ル 通夜ヲス 十二時頃帰宅 床ニ入ルモ眠レズ

◆▼379ページ◆▼ 昭和9(1934)年12月31日(月)

天気雨

終日降りツ、ク 宮島ヨリ返ナク又電報打ツテモ無駄ダト思ツテ中止シ十一時頃ヨリ作業会社ヘ行ク 奥山君金策ニ行キ今電話ガ懸テ來ルカラトノコト三時迄待ツタガ結果面白カラズ。第一ヘ電話シタラ女主人上京 夕方帰ル由 柳ニ行キ、ソバヤ其他ノ買物ヲ僅カニシテ如何ニセシカト帰宅シタラ丁度宮崎カラ三百円來テ信太郎ガ取リニ行ツタトノコト ホットシタ 大坂ヘ五十円ダケ電送シタ 百円ハトテモ送レナカッタ 佐藤ガ待ツテ居タノデ四十円ヤリ太田三十三円 其他未拂ノ近所ヲ待タセテヤリ今村三十三円渡ス 夜信太郎オーバー買ヒニ行ク 幾年振りカデヤ、樂シイ正月ヲ迎エルコトガ出來タ

午前五時鈴木克衛君ノ遺骨郷里ヘ出發ヲ見送ル

◆▼380ページ◆▼ 補遺

昨年ノ暮ヨリ本年ハ又少シ好イ暮レデアッタ 來年ハ最(ママ)非支拂残りノナイ、シカモ少シデモボーナスヲ出シテヤリタイモノダ 何ントナク出來ソウナ氣持ガスル 明年ハ工場本位ニシテ、アマリ他ノコトニ手ヲ出サナイコトトキメル

工場作業能率増進ノ爲メ主要工場員ノ會議ヲ時々数多ク催スコト 一作業ヲ初メル

前ニ必ズ充分ナル方針見積ヲナスコトヲ実行シ皆ニモ其習慣ヲツケサセ無意味ナ作業  
方針ヲヤメルコト  
輕飛行機ノ製作ヲ確實ニシグライダー製作ニ善處スルコト 以上 十年ヘノ希望否実行  
スベキ箇條

▲▼392ページ▲▼ 知人名簿

住所	電話	氏名	関係
佐倉町		佐倉中學校	信太郎入學
東京市本所区	本所73 二四五〇七〇	日本大學第一中學校	徳次入學
津田沼町		津田沼小學校	